

【科目名】		生物学	【担当講師】		久留利 菜菜
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		30時間
			【単位】		2単位
【授業概要】					
歯科衛生士の専門科目を理解するための生物学の基礎知識を身につける。					
【実務経験有】					
群馬大学大学院保健学研究科リハビリテーション学の助教として実務(理学療法士)					
【到達目標】					
1 生命をつくる細胞の成り立ちと活動に関する基礎知識を身に付ける。					
2 生命が連続する仕組みについての基礎知識を身に付ける。					
3 生命が環境の変化に合わせて生活する仕組みについて学習する。					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 生物学 医歯薬出版					
【参考図書】					
配布資料					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
期末試験による。60点以上を合格とする。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	生物の特徴と生命構成物質		生物の特徴と生命を構成している物質について説明する。		
2	生命の誕生と変遷		生命の誕生と変遷について説明する。		
3	細胞の構造		細胞の構造と機能について説明する。		
4	細胞の活動		細胞の様々な活動について説明する。		
5	細胞の分化・組織の形成		体細胞分裂の仕組み、組織の種類について説明する。		
6	器官		ヒトの消化・循環・呼吸・泌尿器官系について説明する。		
7	生殖、減数分裂		生殖の方法、減数分裂について説明する。		
8	遺伝と遺伝子		遺伝の法則とヒトの遺伝形質について説明する。		
9	DNAとゲノム		DNAの構造、ゲノムについて説明する。		
10	発生の過程と仕組み		発生の過程や仕組みについて説明する。		
11	刺激の受容と反応		感覚器の種類とその働きについて説明する。		
12	恒常性とホルモン		恒常性とホルモンの種類と働きについて説明する。		
13	生体防御		ヒトの生体防御、免疫系の仕組みについて説明する。		
14	動物の行動		生得的行動と習得的行動について説明する。		
15	進化と未来		ヒトの進化と生態系、環境汚染等について説明する。		

【科目名】		化学	【担当講師】		石関 容子
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		30時間
			【単位】		2単位
【授業概要】					
歯科衛生士を目指す生徒にとって、人体や医薬品、歯科材料の化学的な内容の理解は重要である。 そこで高校での学習内容と関連を図りながら、物質や物質の状態・変化について考察する能力、化学の基本的な考え方や原理・法則を理解する能力を養うことを目指す。さらに専門分野での、化学的・生理的な内容を理解する能力を養うことを目指す。					
【実務経験有】					
高校にて化学の講師として実務					
【到達目標】					
1 原子とその性質、原子の結びつきを学び、物質の概念を理解する。 2 物質の三態や基礎的な理論や法則を理解する。 3 物質質量や濃度を演算できる。 4 酸と塩基、酸化・還元を理解する。 5 有機化合物の特徴や人体を構成する物質を理解する。					
【教科書】					
医歯薬出版 「最新 歯科衛生士教本 化学」 全国歯科衛生士教育協議会監修					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義形式(教科書、プリント、スライド) および問題解決型授業の形式を適宜取り入れる					
【評価方法】					
全授業終了後、記述試験を行い合計得点(100点満点)の60点以上の者を合格とする。 出席実績、授業態度などにより減点を科す場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	物質の種類と性質、元素		・ 物質を純物質と混合物に分け、それぞれの性質を学ぶ。 ・ 単体と化合物、元素を学ぶ。		
2	原子の構造と同位体		原子についてその構造を学ぶ。		
3	原子配置とイオン		電子殻と電子配置、価電子、イオンについて学ぶ。		
4	物質の構成と表わし方		イオンからなる物質、分子からなる物質、金属について学ぶ。		
5	元素の周期律		価電子数から周期律と周期表について学ぶ。		
6	原子量・分子量と式量		物質の質量と物質を構成している粒子の質量との関係について学ぶ。		
7	物質の量の表わし方		物質質量を表わす単位である「モル」を学ぶ。		
8	溶液の濃度		・ 溶液と濃度の表わし方について学ぶ。 ・ コロイドについて学ぶ。		
9	溶液の濃度の計算		・ パーセント濃度、モル濃度、%と ppmの換算、希釈液の作り方の計算を学ぶ。		
10	酸と塩基(アルカリ)		・ 酸性・塩基性、酸と塩基の定義、強弱についてを学ぶ。 ・ pHについて学ぶ。 ・ 中和について学ぶ。		
11	酸化と還元 金属のイオン化傾向		・ 酸化・還元の定義と、酸化数、酸化剤と還元剤を学ぶ。 ・ 金属のイオン化傾向と反応性について学ぶ。		
12	化学反応		化学反応式の表わし方、触媒と反応の速さについて学ぶ。		
13	有機化合物		有機化合物の定義やその特徴について学ぶ。		
14	代表的な有機化合物と性質		アルコールやカルボン酸など、官能基ごとにその性質、利用法について学ぶ。		
15	人を構成する物質		糖質、アミノ酸・たんぱく質、脂質などについて学ぶ。		

【科目名】		歯科英語	【担当講師】		村田 雅彦
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		16時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
高等学校までに修得した英語力をもとにして、簡単な英語表現でコミュニケーションができるようにする。					
【実務経験有】					
学習塾を開業 高校の英語科の講師として実務					
【到達目標】					
英語歯科用語の意味を理解し、発音できるようにする。					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 『歯科英語』(医歯薬出版)					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
全授業終了後、試験を行う。合格点に満たない者には再試験を行う。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	英語会話・歯科医学英語		Making an Appointment by Telephone	P2～	
			Reading「Healthy snacks for teeth」	P7～	
2	英語会話・歯科医学英語		Requests for Medicine	P8～	
			Reading「Tooth brush and brushing」	P13～	
3	英語会話・歯科医学英語		Emergency Appointments	P14～	
			Reading「Tooth designating system」	P18～	
4	英語会話・歯科医学英語		National Health Insurance	P20～	
			Reading「Insurance and expenditures for dental care」	P23～	
5	英語会話・歯科医学英語		Asking the Patient to Describe Symptoms」	P24～	
			Reading「First aid steps for a knocked-out tooth」	P30～	
6	英語会話・歯科医学英語		Asking the Medical History	P32～	
			Reading「Health questionnaire」	P37～	
7	英語会話・歯科医学英語		Periodontal Disease	P38～	
			Reading「Tobacco and oral health」	P46～	
8	英語会話・歯科医学英語		Pregnancy	P48～	
			Reading 「Bleeding and swollen gums during pregnancy」	P52～	

【科目名】		心理学		【担当講師】		加藤 昌弘	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		30時間	
【単位】				【単位】		2単位	
【授業概要】							
基礎心理学、心理アセスメント、カウンセリング							
【実務経験有】							
高校、専門学校にて講師として実務							
【到達目標】							
1 基礎心理学の基本的な事項を理解する。							
2 人間探求の方法としての心理アセスメントの方法について学ぶ。							
3 臨床心理的援助技法としての心理カウンセリングの考え方と方法を習得する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本「心理学」医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義及びワークショップ							
【評価方法】							
すべての講義の終了後、60分間の筆記試験を行う。成績評価は、筆記試験結果（60％）、レポート（フィードバックシートの記入）（40％）を基に算出し、60点以上の者を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	こころとは何か			オリエンテーション、心理学の歴史			
2	自己を知る			交流分析、心理検査（TEG）の実施と解釈			
3	人間関係づくり・1			対人関係距離、係わり技法の実習			
4	人間関係づくり・2			傾聴技法と共感技法の実習			
5	人間関係づくり・3			観察力を高める、明確化技法の実習			
6	発達する心・1			発達段階と発達課題、乳児期、幼児期			
7	かしこさの心理			知能、知能検査、知的発達症			
8	発達する心・2			児童期、思春期、青年期			
9	その人らしさの心理			パーソナリティ、検査法、異常と障害			
10	発達する心・3			青年期、成人期、高齢期			
11	見る、聞く、感じる			知覚の成立、知覚の体制化、知覚の諸相			
12	学ぶこころ			学習のメカニズム、条件付け			
13	覚えるこころ			記憶の過程、記憶の構造、記憶の病理			
14	やる気の心理			動機づけのメカニズム、欲求の種類			
15	喜怒哀楽のこころ			感情発生のメカニズム、欲求、ストレス			
16	考えるこころ			思考、問題解決、推論、創造性			
17	人と関わる心理			対人認知、帰属理論、対人魅力			
18	人と集うこころ			集団、リーダーシップ、社会的影響			
19	健康なこころ			メンタルヘルス、心理療法。精神疾患			
20	心理療法と倫理			カウンセリング、認知行動療法、職業倫理			

【科目名】		社会学		【担当講師】		中野 玲子	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
現代日本に起こっている環境問題、少子化問題、高齢化社会の問題点などを調べて深く考える力をつける。							
日本の保健と医療の動向を学ぶ。							
歯科衛生士として働くことで社会にどのように貢献できるかを学ぶ							
【実務経験有】							
中野歯科医院開設・院長(歯科医師)							
【到達目標】							
一般目標を学びながらどういった社会人をめざしていくのかを考える。							
歯科衛生士の本分である医療倫理を身に着ける。							
どのような歯科衛生士をめざすかの理想を持つ							
【教科書】							
なし							
【参考図書】							
歯科医療倫理 医歯薬出版株式会社 生活の医療 中央公論社							
新社会歯科学 医歯薬出版株式会社 いのちと食 中央公論社							
国民衛生の動向 厚生労働統計協会							
【授業方法】							
講義 ディスカッションを行い 参加型授業にする							
【評価方法】							
全授業終了後課題を出すのでレポートを提出してもらう							
レポートの内容を採点し60点以上の者を合格とする。							
出席実績 授業態度なども参考とする							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	総論 私達を取り巻く社会と人との関係について			社会とは ①対人関係 ②家族 ③社会集団 変動する社会 ①人口問題 ②環境問題 21世紀の健康と社会			

		①医療保健事業 ②健康日本21
2	日本の保健・医療	社会保障制度 ①社会保険 ②公的扶助 ③公衆衛生・医療 ④社会福祉 保健行政 衛生行政 保健医療の国際協力
3	歯科衛生士の社会的役割	歯科衛生士とは 歯科衛生士の仕事 歯科衛生士の社会的役割 歯科衛生士の未来
4	食育1	食育1 食べることは生きる事 若い女性の痩せすぎ 私達の体 若い女性の危機
5	食育2	食育2 現代社会が抱える若い女性の問題 歯科衛生士が行う食育
6	予防医学 予防歯科1	生活習慣病予防 ①生活習慣病とは ②生活習慣病の種類 ③生活習慣病の原因 ④メタボリックシンドローム ⑤生活習慣病の予防方法 むし歯予防1 ①むし歯の原因 ②むし歯リスク ③むし歯リスク検査 ④むし歯予防の実践
7	予防歯科2	今の社会問題から むし歯予防 0歳からのむし歯予防 歯周病予防
8	歯科医療倫理	禁煙 医療倫理 健康(健全)と病気の基本理念 歯科衛生士の未来

【科目名】		コミュニケーション学		【担当講師】		設楽 雅枝	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
医療機関を利用する患者、家族、業者、また医療機関と一緒に働くスタッフとのコミュニケーションについて、その考え方や重要性を学ぶ。 また、社会人として、医療従事者として就業するに当たり、身だしなみや生活態度の基本についてもあわせて学ぶ。							
【到達目標】							
1.挨拶・会話・行動等の基本的生活態度をとれる。 2.医療人としての身だしなみを整えられる。							
【教科書】							
【参考図書】							
新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」医歯薬出版 デンタルハイジーン別冊「診療室のベーシックワーク」医歯薬出版 歯科衛生士vol.33「歯科衛生士の品格」クインテッセンス出版 デンタルハイジーン「歯科衛生士にとっての品格とは」医歯薬出版							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
出席実績、授業態度、授業中に出す課題（レポート等）の提出実績、内容等により評価する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	オリエンテーション			・入学後の間もない時期、自己紹介カードを用いたレクレーションを通じて学生同士のコミュニケーションを図る。			
2	コミュニケーションとは コミュニケーションの基本知識			・コミュニケーションの基本知識として、聴く力、伝える力、人間関係を築く力について理解する。			
3	コミュニケーションのスキルアップ			・コミュニケーション能力を高めるための方法を学び、日頃の生活の中での行動や態度について理解する。			
4	基本的生活態度について			・社会人、医療人としての挨拶や言葉遣い、表情トレーニングについて学ぶ。また、職場や地域で気持ちよく安心な日々を送るための笑顔や会話のマナーについて学ぶ。			
5	医療人としての身だしなみについて			・医療人としての身だしなみについて理解し、世代に関係なく医療人として受け入れられる身だしなみを考え、第一印象の重要性を学ぶ。			
6	会話ポイントについて			・話を伝える上でのポイントや動機付けでの会話ポイントについて学ぶ。			
7	会話テクニックの練習			・学生コトバと社会人コトバの違いを理解する。また、受付や電話、診療室内での応対について感じの良い言葉遣いと話し方を考え、友達同士実際に会話の練習を行う。			
8	医療機関で働くスタッフとのコミュニケーション			・来院する患者やその家族、業者に対する配慮やマナーについて考え、心構えを学ぶ。また、チーム医療に携わった際の情報の共有、「報告・連絡・相談」について理解する。			

【科目名】		音楽	【担当講師】		木村 依子
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		16時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
校歌・戴帽式歌の合唱、国歌の斉唱を習得し、合唱を通して豊かな音楽表現につなげることを目的とする。					
そのために、発声法、呼吸法、姿勢等についても練習し、					
様々な合唱曲を取り入れながらハーモニーの調和を取るよう、演習する。					
【実務経験有】					
ヤマハミュージック関東にてピアノ講師として実務					
【到達目標】					
正しい姿勢、呼吸法を習得する					
合唱の響、ハーモニーを感じられるようにする。					
豊かな合唱表現をめざす。					
【教科書】					
式歌、関連する数曲を含むテキスト					
適宜プリント等を配布する					
【参考図書】					
【授業方法】					
歌唱実技演習					
【評価方法】					
出席状況、歌唱の態度を考慮して評価する。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	・校歌・戴帽式歌について知る ・歌唱の姿勢、呼吸法、発声法について知る ・メロディー歌唱をする		・校歌・戴帽式歌の、歌詞、内容などについて理解する ・腹式呼吸の練習をする ・発声練習をする ・メロディー歌唱する		
2	・校歌・戴帽式歌の斉唱をする ・腹式呼吸をできるようにする ・パート分けをする		・腹式呼吸の練習をする ・発声練習をする ・親しまれている曲を取り入れ声を出す事に慣れる ・校歌・戴帽式歌の歌詞やメロディーを把握する ・高、低声部にパート分けをする		
3	・呼吸法の定着 ・発声の仕方を意識する ・中声部のパート分け		・腹式呼吸の練習をする ・発声練習をする ・式歌の作曲者に関する曲を取り入れ作曲者への理解を深める ・歌詞の理解と発音の練習をする ・高・低部に分かれた中から更に中声部へのパート分けをする		
4	・3声部のハーモニーを認識する		・呼吸練習をする ・発声練習をする ・リズム、曲調の異なる曲を取り入れ、表現の幅を広げる ・3声部それぞれの旋律を知り、ハーモニーの練習をする		
	・ハーモニーの調和を取る		・呼吸練習をする		

5	・様々なジャンルの曲に親しむ	・発声練習をする ・様々なジャンルの曲に親しみながら歌唱する ・3声部のハーモニー，バランスを取れるように練習する
6	・国歌の練習 ・歌唱のフレージングを知る	・呼吸練習をする ・発声練習をする ・親しみのある曲，声を出しやすい曲を取り入れて歌唱練習する ・国歌の練習をする ・式歌三曲のフレージングを確認し表現できるようにする
7	・国歌、校歌、戴帽式歌の暗譜をする ・歌唱を通して音楽表現をする	・呼吸練習をする ・発声練習をする ・式歌を暗譜で練習する ・歌詞内容の把握を確認する
8	・国歌、校歌、戴帽式歌の歌い込みをする ・ハーモニーの調和をとる ・歌う姿勢、発声、発音等の確認をする	・呼吸練習をする ・発声練習をする ・姿勢、発音、暗譜を意識した歌いこみをする ・ハーモニーの調和を聴けるように練習する ・これまでに触れてきた曲を通して音楽表現を楽しむ

【科目名】		解剖学		【担当講師】		谷口 明慧	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		30時間	
				【単位】		2単位	
【授業概要】							
歯科衛生士のための学習過程において、そのもっとも基礎となる人体構造の構造と機能について学習することを目的とする。ともすると用語の詰め込みになりやすい科目であるが、できるだけ相互の関連性やイラストを活用して実際の知識の整理をしながら学習することを目指す。 生理学、生化学、病理学などすべての科目の基礎となるが、やや知識が散漫に成りやすいので、各自知識を整理しながら学習にのぞんでほしい。							
【実務経験有】							
群馬大学医学部附属病院入職(歯科医師)							
【到達目標】							
1 人体という完成品の部品として各臓器や筋や神経の基本的な構造について理解する。 2 各臓器や筋と神経の機能と関連性について理解する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版							
【参考図書】							
南山堂 高野廣子 解剖生理学							
南山堂 伊藤隆 著 高野廣子 改訂 解剖学講義							
【授業方法】							
講義形式(教科書、配布プリント、スライド)で行い、適宜小テストを配布する							
【評価方法】							
中間試験と期末試験の合計が60%を超えたものを合格とする。 授業態度、授業中で適宜行う小テストの内容、結果によっては減点を課す場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	◎人体の構成 ◎人体の区分、体の方向用語 ◎骨格系 1、概説 (骨の機能、構造、形態を含む) 2、骨の連結			・医学の一分野である歯科領域のパラメディカル分野である歯科衛生士にとって、歯科医師との意思疎通を図るための共通用語であるという認識を持つ ・人の運動は支持体である骨が必須であることを知る ・骨の連結様式が説明できるようにする			
2	◎骨格系① 3、骨の発生 4、実際の骨の構造 上肢骨(上肢帯の骨、自由上肢骨)			・骨の発生様式、再構成様式について学ぶ ・脊椎を構成する椎骨、肋骨、胸骨について学ぶ ・上肢の構成が上肢帯と自由上肢からなること、上肢帯とは鎖骨、肩甲骨で構成されていることを知る ・自由上肢が様々の骨で構成されていることを知る			
3	◎骨格系② 下肢骨 下肢帯の骨 自由下肢骨 ◎筋と運動① 1、筋の形状と分類			・下肢帯は骨盤であることを知る ・自由下肢が大腿骨、脛骨、腓骨といくつかの足の骨で構成されていることが説明できるようにする ・筋は骨格筋、平滑筋、心筋の3種類あることを知る ・骨格筋についてその収縮の機構について知る			
4	◎筋と運動② 2、体の各部位の筋系 頭部の筋 頸部の筋 背部の筋			・頭部、頸部、背部の筋について、その名称、機能神経支配について説明できるようにする ・とくに歯科領域に関係の深い頭部、頸部の筋については、口腔領域との関係について説明できるようにする			
	◎筋と運動③			・上肢、下肢の典型的な運動様式(屈曲、伸展、外			

5	胸部の筋 腹部の筋 上肢の筋 下肢の筋	転、内転、外旋、内旋、回内、回外)について把握し 必要な筋の種類と神経支配について知る ・運動に重要な関節の名称、機能が説明できるようにする
6	◎消化吸収① 消化と吸収の意義 消化器の構造 口腔、咽頭 食道、胃	・内臓がその機能から消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系で構成されていることを知る ・消化器は口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸で構成されてることが説明できるようにする ・三大口腔腺について説明できるようにする。
7	◎消化吸収② 小腸、大腸 肝臓、胆嚢、膵臓 腹膜 大腸の機能	・消化器の外分泌腺である肝臓と膵臓の形態と機能について説明できるようにする ・消化器のそれぞれの臓器における、腹膜の役割、および大網、腸間膜について説明できるようにする ・膵臓に内分泌部があることを知る
8	◎循環① 血管系の概要 血管の構造 吻合、終動脈 体循環、肺循環	・動脈、静脈の特徴について説明できるようにする ・動静脈吻合、終動脈の特徴や存在部位について説明できるようにする ・体循環・肺循環の重要性について学ぶ
9	◎循環② 心臓の位置と形態 心臓の内部構造 心臓壁の構造	・心臓の位置と形態、内部構造について知る ・刺激伝導系について説明できるようにする ・心臓壁の構造や心膜腔について知る
10	◎循環③ 動脈系 静脈系 静脈確保と静脈注射 胎児循環	・肺循環、体循環を構成する身体各所の血管の名称が説明できるようにする ・胎児循環と出産後の変化について知る ・肝硬変になった時にどのような症状が出るのかを知る(門脈系の役割が重要)
11	◎循環④ 1、リンパ系の概要とその機能 2、リンパ管とリンパ節 3、リンパ系と主なリンパ節 4、リンパ循環、胸腺、脾臓	・リンパ循環の役割と生体防御におけるリンパ系器官の重要性について知る ・リンパ節、リンパ小節の構造と役割、扁桃、胸腺、脾臓の役割について知る
12	脳脊髄膜 脳の血管 脊髄神経系 呼吸 1、外呼吸と内呼吸 2、呼吸器の構成 上気道 下気道 肺と気管、気管支 肺嚢胞と肺泡、肺の血管 3、気管と肺の神経支配	・脳脊髄膜が硬膜、クモ膜、軟膜で構成され、特にくも膜下腔内には脳脊髄液の循環があることを知る ・脊髄神経の走行と上肢・下肢の筋との関係を知る ・内呼吸と外呼吸の概念について理解する ・呼吸器系が鼻腔、咽頭、喉頭、気管、肺で構成されていることを知る ・呼吸は交感神経と副交感神経によって支配されている重要性について知る ・肺泡は単なる袋であること、横隔膜や外肋間筋の役割の重要性について知る
13	内分泌 1、内分泌器官とホルモン 2、内分泌器官の種類 3、内分泌器官の構造と機能 下垂体、上皮小体 膵臓、副腎、性腺、松果体 歯とホルモン	・内分泌系が下垂体、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎で構成されていることを知る ・それぞれの臓器が分泌するホルモンと生理的機能について説明できるようにする
14	生殖器① 男性生殖器	・男性生殖器の構成、形態と機能、ホルモンとの関係について説明できるようにする
15	生殖器② 女性生殖器 総括	・女性生殖器の構成、形態と機能、ホルモンとの関係(とくに下垂体)について説明できるようにする ・今までの講義内容で特に重要な点を再度確認する

【科目名】		組織発生学		【担当講師】		清水 崇寛	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯科医学を習得するための基礎として人体の構造，機能についてミクロレベルの知識を身に付ける。 近年，バイオテクノロジーの目覚ましい進歩により基礎科目の国家試験出題数の増加がみられており，その重要性が再認識されている。組織・発生学で習得する形態学のおよび機能的知識によって人体の正常構造を統合的に理解し，今後の基礎科目あるいは臨床科目の基礎となる学力を確実に身に付けることが重要である。							
【実務経験有】							
群馬大学医学部附属病院入職（歯科医師）							
【到達目標】							
講義を通して歯科医学の基本となる人体の細胞と構造，機能について理解する。 また，業者模試・国家試験に準じた試験問題を通じて国家試験合格基準レベル以上の解答力を身に付ける。 (1) 人体の正常な細胞および組織の構造を，組織学的用語で正確に述べる事が出来る。 (2) 人体に関連する細胞および組織構造とその肉眼的構造との関連性を述べる事が出来る。 (3) 人体の正常発生過程を理解し，臨床的に重要な先天異常の成り立ちを説明することが出来る。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 医歯薬出版							
【参考図書】							
(1)歯科衛生士教本 人体の構造と機能 医歯薬出版 (2)歯科衛生士教本 口腔解剖学・組織発生理口腔解剖学 医歯薬出版 (3)エッセンシャル口腔組織・発生学 西村書店 (4)Ten Cate口腔組織学 医歯薬出版 (5)デンタルスツプの人体解剖・組織学第 2版 医歯薬出版							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
定期試験(評価比率100%)：詳細は講義中に説明する。 ※なお，定期試験不合格者については再試験を実施する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	イントロダクション			組織、発生			
2	細胞の構造と機能			細胞膜、オルガネラ(細胞内小器官)、核、細胞			
3	組織			上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織			
4	発生学①			染色体、減数分裂、精子、卵子			
5	発生学②			胚葉、胎児			
6	骨・筋の構造			骨・筋の組織学的構造			
7	神経の構造			神経の組織学的構造			
8	まとめ			まとめ			

【科目名】		生理学	【担当講師】		塩崎 秀一
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		16時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
生理学は解剖学と並んで、医学の基礎をなすものである。ここでは、生命活動を支える人体各部の機能を学び、疾患（正常機能が損なわれた状態）の理解の基礎を作る。					
【実務経験有】					
大学や専門学校の講師として実務（医学博士）					
【到達目標】					
生体機能として、体液の恒常性、循環、呼吸、あるいは、筋、神経、感覚系などの各機能を理解する。					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 生理学、医歯薬出版					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義主体					
【評価方法】					
期末試験を中心に、出席や提出課題（レポート）を総合評価する。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	細胞と組織		生理学学習のガイダンス		
2	血液		血液の成分、機能 血液の凝固と溶解 血液型と輸血 恒常性 体温		
3	循環系		心臓の構造と機能 心臓の自動性、心臓機能の調節 血管の構造と機能 血圧とその調節		
4	呼吸系		呼吸器の構造と機能 呼吸機能の調節 呼吸運動		
5	神経系、感覚系		神経系の構造（分類）と機能 中枢神経、末梢神経 感覚器の構造と機能		
6	筋系		筋の構造と機能 運動機能（随意運動）、反射		
7	消化系、腎・泌尿器系（排泄）		消化器の構造と機能 腎・泌尿器の構造と機能		
8	内分泌系、生殖系		内分泌機能、ホルモン 生殖器の構造と機能		

【科目名】		口腔解剖学	【担当講師】		矢内 太郎
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		30時間
			【単位】		2単位
【授業概要】					
口腔解剖学は、主に人体の頭頸部の構造を理解することを目的とする。					
【実務経験有】					
矢内歯科医院院長(歯科医師)					
【到達目標】					
3次元的に骨、筋肉、脈管が絡み合った複雑な構造を理解し、かつそれぞれの組織の名称や役割なども同時に理解する。					
【教科書】					
最新歯科衛生教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」 医歯薬出版					
【参考図書】					
分担解剖学 (金原出版)					
【授業方法】					
講義形式(教科書, パワーポイント)					
【評価方法】					
全授業終了後、マークシート試験を行う。 60点以上の者を合格とする。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	◎ 口腔 1. 口腔とは 2. 口唇と頬		・口腔の定義について学ぶ。 ・口唇、頬の構造と働きについて知る。		
2	◎ 口腔前庭 1. 口唇と頬の粘膜 2. 移行部 3. 歯肉 4. 口腔前庭にみられるヒダ 5. 口腔前庭にみられる隆起 6. 歯肉の分布する血管 ◎ 固有口腔 1. 口蓋 2. 舌下部		・口腔前庭の部位の確認。 ・口唇や頬、歯肉の解剖学的構造を理解し、その機能についても学ぶ。 ・歯肉を構成する組織についても学ぶ。 ・口蓋と舌下部の場所と構造について知る。		
3	◎ 口峽 ◎ 舌 1. 舌の区分 2. 舌をおおう粘膜 3. 舌筋 4. 舌の動脈、静脈 5. 舌の神経		・口峽に存在する筋肉の名称と役割について学ぶ。 ・舌の解剖 (区分、粘膜の構造、筋肉の走行、動脈・静脈の流れ、神経の走行など)について学ぶ。		
4	◎ 唾液腺 1. 小唾液腺 2. 大唾液腺		・唾液腺の種類や分泌される唾液の性状について。 ・唾液腺の導管の走行について理解する。		
5	◎ 咽頭 1. 咽頭の区分 2. 咽頭の筋		・咽頭の定義について学ぶ。 ・咽頭部に存在する筋の名称、走行、働きについて理解する。		
	◎ 頭蓋骨 1. 頭蓋の前面 2. 頭蓋の上面 3. 頭蓋の側面		・頭蓋骨は15種、23個の骨から構成されている。 それぞれの構造や神経、血管などが通る経路なども理解する。		

6	4. 頭蓋の下面 5. 頭蓋の内面 ◎ 上顎骨 1. 上顎体 2. 上顎骨の突起 3. 歯槽管	・上顎体を中心に上顎骨を構成する突起について学ぶ。 ・歯槽管を通る神経、動脈の分布を学ぶ。
7	◎ 口蓋骨 1. 鉛直板 2. 水平板 3. 翼口蓋窩 ◎ 下顎骨 1. 下顎体 2. 下顎枝	・口蓋骨の構造と口蓋骨内を通る神経、脈管について学ぶ。 ・下顎骨の構造の理解。下顎骨を通る神経、脈管や下顎骨に付着する筋肉についても学ぶ。 ・下顎骨は口腔解剖のなかでも特に重要であるためより深く理解する必要がある。
8	◎ 舌骨 ◎ 顎関節 1. 骨部 2. 被覆部 3. 関節円板 4. 関節包 5. 靱帯 6. 顎関節の機能	・舌骨の構造や付着する筋肉について学ぶ。 ・顎関節は複雑な構造を呈しており、下顎骨に付着する筋肉とともに下顎の運動を制御している。その複雑な構造と運動を理解する。
9	◎ 表情筋 1. 口裂周囲の筋 ◎ 舌骨上筋 1. 舌骨上筋群 2. 顎下三角とオトガイ三角	・表情筋の種類と走行について学ぶ。 ・舌骨上筋群の種類と付着部位、走行について学ぶ。 ・顎下三角とオトガイ下三角の部位について。そこに存在するリンパ節について学ぶ。
10	◎ 咀嚼筋	・咀嚼筋(咬筋、側頭筋、内側翼突筋、外側翼突筋)の走行と運動について。
11	◎ 口腔付近に分布する動脈 1. 総頸動脈 2. 外頸動脈 ◎ 口腔付近に分布する静脈 1. 内頸静脈 2. 頭頸部の動脈と静脈の差異	・頭頸部から口腔にかけて分布する動脈の走行について理解する。 ・頭頸部から口腔にかけて分布する静脈の走行について理解する。
12	◎ 頭頸部のリンパ系 1. 下顎底にあるリンパ節 2. 側頸部にあるリンパ節	・頭頸部のリンパ節の位置について学ぶ。
13	◎ 神経 脳神経 1. 三叉神経 2. 顔面神経 3. 舌咽神経 4. 迷走神経 5. 舌下神経 脊髄神経 1. 脊髄神経と脊髄神経叢の区分 2. 頭頸部に分布する脊髄神経 自律神経	・神経の種類について。 ・特に脳神経のうち、顎顔面周囲を支配する神経については深く理解する必要がある。 ・脊髄神経や自律神経の区分について学ぶ。
14・15	◎ 試験対策	・これまで学んだ授業の復習と試験直前のまとめを行う。

【科目名】		歯牙解剖学		【担当講師】		高松 透浩	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯牙解剖学は人間の歯根を含む歯牙の特徴や形態を学習し、その知識を臨床で活かして診療を行えるための基礎知識をつけることを目的とする。特に歯根の形態を知ることは歯科衛生士として効果的なスケーリング処置を行う上で必要なため、歯種に特徴的な歯根形態を知り、臨床にや立てられるようにする。							
【実務経験有】							
東京歯科大学講師として実務 高松歯科医院院長(歯科医師)							
【到達目標】							
1.歯の表示法や記号について説明できる。							
2.歯種を鑑別できる。							
3.歯の萌出順について説明できる。							
4.歯列と咬合について説明できる。							
5.歯の形態を歯種別に説明できる。							
6.歯の形態異常について説明できる。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義形式および実習形式							
【評価方法】							
授業態度等で増減点する場合がある。							
授業のあと筆記方式のテストを行う場合がある。60点以上の者を合格とする。							
実習での歯牙彫刻の提出を行いそれによって増減点する場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	1、歯の機能 2、歯の交換 3、歯の植立 4、歯の組織 5、歯の形態 6、歯の種類と数 7、歯の表示法 8、歯式(歯の記号)			歯の機能について理解する。 歯の交換について理解する。 歯の植立について理解する。 歯の硬組織、軟組織について理解する。 歯の形態、各部の名称について理解する。 永久歯、乳歯の種類と数について理解する。 永久歯、乳歯の表示記号について理解する ジグモンティー方式、FDI方式について理解する。			

2	1、歯の位置による名称 2、歯の用語 3、根管の形態 4、歯の左右の鑑別 5、歯、歯周組織及び顎骨組織の模式図	歯の位置による名称について理解する。 歯の方向、歯冠の区分、各部の名称について理解する。 根管の形態について理解する。 ミュールライターの三徴候について理解する。 歯、歯周組織、及び顎骨組織の模式図を書いて図説できるようにする。
3	1、上顎中切歯 2、上顎側切歯 3、下顎中切歯 4、下顎側切歯 5、上顎犬歯 6、下顎犬歯	上顎中切歯とその特徴について理解する。 上顎側切歯とその特徴について理解する。 下顎中切歯とその特徴について理解する。 下顎側切歯とその特徴について理解する。 上顎犬歯とその特徴について理解する。 下顎犬歯とその特徴について理解する。
4	1、上顎小臼歯 2、下顎小臼歯	上顎第一第二小臼歯とその特徴について理解する。 下顎第一第二小臼歯とその特徴について理解する。
5	1、上顎大臼歯 2、下顎大臼歯	上顎第一第二大臼歯及び第三大臼歯とその特徴について理解する。 下顎第一第二大臼歯及び第三大臼歯とその特徴について理解する。
6	1、乳歯の特徴 2、乳歯と永久歯の比較 3、乳歯の形態学的特徴	乳歯の形態、特徴について理解する。 乳歯と永久歯との比較について理解する。 乳中切歯、乳側切歯、乳犬歯、乳臼歯の形態と特徴について理解する。
7	1、特色のある歯の形態	典型的な歯の形態とは異なる歯の状態について理解する。
8	1、歯形彫刻実習	代表的な歯牙の形態を立体的に理解する。 ワックス棒を使いノギスとエヴァンスの使用法に慣れる。 ワックスの使用に慣れる。 臨床でのTEK作製のイメージが出来るようにする。

【科目名】		口腔組織発生学		【担当講師】		金井 梢	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯科医学を習得するための基礎として人体の細胞と構造、機能についてミクロレベルの知識を身に付ける。近年、バイオテクノロジー目覚ましい進歩により基礎科目の国家試験出題数の増加がみられており、その重要性が再認識されている。口腔組織・発生で習得する形態学および機能的知識によって口腔の正常構造を統合的に理解し、向後の基礎科目あるいは臨床科目学習の基礎となる学力を確実に身につけることが肝要である。							
【実務経験有】							
群馬大学医学部附属病院入職（歯科医師）							
【到達目標】							
講義を通して歯科医学の基本となる人体の細胞と構造、機能について理解する。また、業者模試・国家試験に準じた試験問題を通じて国家試験合格基準レベル以上の解答力を身に付ける。 (1) 口腔の正常な細胞および組織の構造を、組織学的用語で正確に述べる事が出来る。 (2) 口腔に関連する細胞および組織構造を述べる事が出来る。 (3) 口腔の正常発生過程を理解し、臨床的に重要な先天異常の成り立ちを説明することが出来る。							
【教科書】							
(1)最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能 医歯薬出版 (2)最新歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版							
【参考図書】							
(1)エッセンシャル口腔組織・発生学 西村書店 (2)デンタルスタッフの人体解剖・組織学第2版 医歯薬出版							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
定期試験（評価比率100%）：国家試験に準ずるマークシート形式の試験にて評価を行う。 ※なお、定期試験不合格者については猛省と再度の学習・理解を促すため、再試験を実施する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	顔面と口腔の発生			鰓弓や突起、口蓋と鼻腔などのポイントを理解し、顔面と口腔の発生について理解できるようにする。			
2	歯と歯周組織の発生			歯胚の形成や発生、歯牙の交換について理解できるようにする。			
3	エナメル質			エナメル質の正常組織構造を理解する。			
	象牙質・歯髄			象牙質・歯髄の正常組織構造を理解する。			

4		
5	セメント質・歯根膜	セメント質・歯根膜の正常組織構造を理解する。
6	歯槽骨・歯肉	歯槽骨・歯肉の正常組織構造を理解する。
7	総復習	講義内容の総復習を行い、定期試験・国家試験における口腔組織発生学分野の出題ポイントと解法を学ぶ。
8	総復習	講義内容の総復習を行い、定期試験・国家試験における口腔組織発生学分野の出題ポイントと解法を学ぶ。

【科目名】		口腔生理学		【担当講師】		塩崎 秀一	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
生理学、解剖学の知識をふまえて口腔機能の基本を確認し、機能低下(疾病)の理解の基礎とする。							
【実務経験有】							
大学や専門学校の講師として実務(医学博士)							
【到達目標】							
口腔に関する基本構造と機能を理解する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 口腔生理学、医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義主体							
【評価方法】							
期末試験を中心に、出席や提出課題(レポート)を総合評価する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	口腔生理の基礎			ガイダンス、口腔機能の基礎			
2	口腔の神経、感覚			脳神経 頭部・口腔の自律神経 歯と口腔の感覚			
3	味覚、嗅覚			味覚の役割、感受性 味覚の神経機構 嗅覚の役割、特性 嗅覚の神経機構			
4	咬合、咀嚼1			下顎の構造と機能 咀嚼 吸綴			
5	咬合、咀嚼2			下顎の構造と機能 咀嚼 吸綴			
6	嚥下、嘔吐			嚥下の過程、機能 嘔吐の機序			
7	発声			発声機構、声の生成 構音障害			
8	唾液			唾液の役割、唾液分泌機構 唾液の成分 唾液と疾患			

【科目名】		病理学Ⅰ		【担当講師】		天笠 稔					
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間		【単位】		1単位	
【授業概要】											
病理学は、病気の原因、発症の機序、進展、および転帰を明らかにし、病気の予防や治療の基礎となる知見を統合する学問である。 総論で述べられている病理学的な考え方は医学の基礎であり、医療に携わる者が共通に身につけなければならない基本です。 職業として患者に直接接したり保健活動を行う歯科衛生士にとってとても重要な学科である。											
【実務経験有】											
天笠 歯科医院開設・院長（歯科医師）											
【到達目標】											
1 疾患の多様性と共通性について説明できる。 2 炎症とは何かを説明できる。 3 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。											
【教科書】											
最新歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学 医歯薬出版											
【参考図書】											
特になし											
【授業方法】											
講義形式は、パワーポイントを使い教科書に沿って授業を進めます。 授業中に随時質問を投げかけます。											
【評価方法】											
全授業の終了後、記述式試験を行う。合計得点（100点満点）の60点以上の者を合格とする。 出席実績、授業態度、授業中に出す課題（レポート等）の提出実績・内容により減点を科す場合がある。											
【授業計画】											
回	授業項目				授業内容						
1	病理学序論と病因論				1. 疾病の多様性と共通性について説明できる。 2. 疾病の経過と転帰について説明できる。 3. 疾病の原因である病因と疾病の成り立ちについて説明できる。 4. 内因について説明し、具体例を列挙できる。 5. 外因について説明し、具体例を列挙できる。						
2	遺伝性疾患と奇形				1. 遺伝子の働きについて説明できる。 2. 遺伝性疾患を概説できる。 3. 先天異常について概説できる。 4. 奇形の成因について説明できる。						
3	循環障害				1. 体液の循環について概説できる。 2. 虚血を説明できる。 3. うっ血と充血を説明できる。 4. 浮腫を説明できる。 5. ショックについて概説できる。 6. 閉塞性循環障害について概説できる。 7. 血栓症を説明できる。 8. 梗塞を説明できる。 9. 粥状動脈硬化症を説明できる。						

		10. 側副循環を説明できる。
4	代謝障害と退行性病変	1. 細胞障害による変化を列挙できる。 2. 変性の種類を列挙できる。 3. 代謝障害の種類を列挙できる。 4. 壊死と壊疽、壊死とアポトーシスの違いを説明できる。
5	増殖と修復	1. 刺激や傷害に対する能動的な反応の種類と意義を説明できる。 2. 創傷治癒や再生の基本的な考え方を概説できる。 3. さまざまな異物に対する生体の処理法について説明できる。 4. 進行性病変において重要な役割を果たす肉芽組織の構成と機能について説明できる。
6	炎症	1. 炎症とは何かを説明できる。 2. 炎症の臨床症状を説明できる。 3. 炎症の原因と機序を説明できる。 4. 炎症の経時的变化を説明できる。 5. 炎症の分類と各炎症の特徴を説明できる。
7	免疫応答異常	1. 免疫応答を説明できる。 2. 液性免疫と細胞性免疫の特徴を説明できる。 3. アレルギー・自己免疫疾患・免疫不全症・移植免疫を概説できる。
8	腫瘍	1. 腫瘍の定義を説明できる。 2. 腫瘍の原因と発生機序を説明できる。 3. がん遺伝子とがん抑制遺伝子について説明できる。 4. 腫瘍の組織学的特徴を説明できる。 5. 上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の代表的なものを列挙できる。 6. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。 7. 前がん病変について説明できる。

【科目名】		病理学Ⅱ		【担当講師】		鈴木 啓佑	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
疾病の病態および原因を知る。これらは、医療を目指す上で基本的な知識となるため、これらを十分理解して治療に役立てることを目標とする。							
【実務経験有】							
群馬大学医学部附属病院入職(歯科医師)							
【到達目標】							
1. 歯科の二大疾患であるう蝕、歯周病について十分理解する。							
2. 上記以外に臨床において比較的高頻度に遭遇する疾患についても理解する。							
3. 歯科治療および創部の治癒過程について理解する。							
4. 全身疾患と口腔内病変の関係について理解する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本『病理学』 医歯薬出版							
【参考図書】							
なし							
【授業方法】							
講義形式(スライド, 教科書, プリント)で行う。							
【評価方法】							
選択式および記述式の試験を行う。							
授業態度, テストにより総合評価をする。							
必要によりレポートを課す。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	1. 歯の発育異常 2. 歯の損傷と付着物			・歯、咬合等についてさまざまな発育異常を理解できるようにする ・歯の損傷の理解とプラークおよび歯石を中心とした 付着物を理解できるようにする			
2	1. う蝕 2. 象牙質・歯牙複合体の病変 3. 根尖部歯周組織の病変			・う蝕やそれに続発する歯髄病変や根尖部歯周組織病変の原因, 病態を理解して説明できるようにする。			
3	1. 辺縁性歯周炎の病変 2. 歯科治療に伴う治癒の病理			・辺縁性歯周炎の原因, 病態の説明および各種歯科治療等の治癒経過を説明できるようにする			
4	1. 口腔の発育異常			・顔面の披裂を中心とした発育異常について理解できるようにする。			
5	1. 口腔粘膜疾患 2. 口腔癌・前癌病変			・比較的高頻度に遭遇する粘膜疾患, 前癌病変, 口腔癌について, 理解できるようにする。			
6	1. 口腔の嚢胞 2. 口腔の腫瘍と腫瘍性病変 3. 顎骨の病変			・代表的な嚢胞性病変, 腫瘍性病変を理解できるようにする。			
7	1. 唾液腺疾患 2. 加齢に伴う口腔病変 3. 全身疾患と口腔病変			・加齢により生じる口腔内の変化を理解して説明できるようにする。 ・全身疾患から生じる口腔病変について理解できるようにする。			
8	まとめ			・第1回～第7回までの講義の内容の総復習を行い理解をより深める			

【科目名】		微生物学Ⅰ		【担当講師】		白土 佳子	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
感染症の成り立ちを知るために、その原因である病原微生物について理解する。 また病原微生物から自身を守るために備わっている免疫機構についても理解する。							
【実務経験有】							
埼玉県立大学の准教授として実務(理学博士、臨床検査技師)							
【到達目標】							
病原微生物の種類と各種病原微生物の性状、それぞれの微生物が原因となって発症する感染症とその感染経路を理解する。これら外界からの攻撃を防御するため人体に備わっている免疫機構である自然免疫と獲得免疫について理解し、感染症の成り立ちにおける病原微生物と免疫機構との相互作用についても理解する。							
【教科書】							
最新 歯科衛生士教本 微生物学 (全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社)							
【参考図書】							
配布資料							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
試験により評価を行い、60点以上を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	疾病と微生物			微生物とはどんなものなのか、生物界における位置づけと分類を概説する。また身近にある微生物の利用例や、病原微生物から身を守るために発展してきた微生物学の歴史についても解説する。			
2	病原微生物の検査法 (顕微鏡による形態観察と細菌培養)			病原微生物の検査法である顕微鏡観察を行うための染色法と、細菌を集落として目視できるようにするための培養法についてその方法と種類を解説する。染色性状の違いによる分類についても解説する。			
3	細菌各論Ⅰ(グラム陽性菌)			グラム陽性球菌およびグラム陽性桿菌の代表的な菌種を取り上げ、その特徴(性状、病原性、感染症とその感染経路等)について解説する。			
4	細菌各論Ⅱ(グラム陰性菌)			グラム陰性球菌およびグラム陰性桿菌の代表的な菌種を取り上げ、その特徴(性状、病原性、感染症とその感染経路等)について解説する。			
5	ウイルス			ウイルスの特徴や構造、感染増殖様式について解説するとともに、医療従事者として知っておくべきウイルス感染症とその感染経路についても解説する。			
6	真菌、原虫、プリオン			真菌、原虫、プリオンの特徴や構造、感染増殖様式、それらが引き起こす感染症その感染経路について解説する。			
7	宿主防御機構と免疫Ⅰ			生体が外界からの攻撃に備えるため生まれながらにもっている自然免疫、病原微生物に接触することで形成される獲得免疫について、免疫機構の主役を成す細胞が担当する二つの免疫系(液性免疫と細胞性免疫)を併せて解説する。			
8	宿主防御機構と免疫Ⅱ			抗原抗体反応の種類とこれらを利用した検査法、獲得免疫を利用した感染症の予防法であるワクチン、免疫系の過剰反応の結果起こるアレルギーについて解説する。			

【科目名】		微生物学Ⅱ		【担当講師】		杉山 達也	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯科の領域では、口腔内の様々な微生物によっておこる疾患に対して治療を行う。本講義では、口腔内に棲息する微生物の基本的性状を理解するとともに、我々歯科医療人がそれに対してどのように対応して臨床を行うのかという事に興味を持ってもらうよう、口腔内微生物学の基礎を教授する。							
【実務経験有】							
杉山歯科医院院長(歯科医師)							
【到達目標】							
歯科疾患とその原因菌の関係について理解する							
口腔内微生物に対する化学療法、消毒・滅菌について理解する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 微生物学(全国歯科衛生士教育協議会 編集:医歯薬出版)							
【参考図書】							
配布資料							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
試験による。60点以上を合格とする。60点未満の者は再試験を行い判定する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科疾患と微生物学			歯科衛生士としてなぜ微生物学を学ばなければならないのかを理解してもらうため、歯科疾患と微生物の関わりについて講義する。			
2	口腔内微生物(Ⅰ)			口腔内に微生物が定着する機構並びに細菌叢について講義する。			
3	口腔内微生物(Ⅱ)			口腔内に常在する微生物の種類並びにバイオフィルム形成について講義する。			
4	齲蝕症			齲蝕症と微生物の関係並びにその発症機構を概説する。			
5	歯周病			歯周病と微生物の関係並びにその発症機構を概説する。			
6	口腔内感染症			口腔内に症状が認められる各種感染症について講義する。			
7	化学療法			口腔内微生物に対する化学療法について概説する。			
8	消毒・滅菌			口腔内微生物に対して臨床上行われている消毒・滅菌について講義する。			

【科目名】		薬理学Ⅰ		【担当講師】		島村 好則	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
薬理学は基礎生命化学の一分野であると共に、病気を治すという臨床医学の大きな部分を担っています。薬理学を理解習得するためには、基礎医学を理解し様々な薬品の成分特性を理解し理論的に学習し臨床に役立てることを目標とする。							
【実務経験有】							
しまむら歯科医院開設・院長（歯科医師）							
【到達目標】							
1. 薬理作用の基本原則を理解する。薬物の生体内の動態について理解する。 2. 様々な薬品の特性、薬事法、薬物の保管方法を習得する。 3. 薬物の作用に影響する因子、薬物を適用する際の注意事項注意事項、副作用について学ぶ。							
【教科書】							
疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学1 編総論 P2～63							
【参考図書】							
教員作成のスライド、プリントを配布します。							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全授業の終了後、教科書、プリント、国家試験対策プリントを対象にした筆記試験を実施します。 授業内でテーマを決めたスライド内容のレポートを提出させていただきます。テストとレポートによりあわせて60点以上を合格とします。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	薬物の作用			薬物療法の種類、薬理作用の様式、形式、分類 薬用量と生体内の反応、薬理作用の機序			
2	薬物動態			薬物の生体膜通過様式、影響する因子、薬物の吸収分布 排泄、薬物動態のパラメーター			
3	薬物の適用方法の種類と特徴			適用方法の種類、生物学的利用能			
4	薬物の作用に影響を与える因子			薬物の連用、併用、相互作用			
5	薬物の副作用、適用する際の注意事項			薬物の有害作用の分類と原因、 歯科領域における薬物の副作用			
6	薬物の取り扱い、薬物と法律			剤形、処方箋、保存方法、医薬品と法律、表示、保管方法			
7	時事問題レポート テーマ薬害			薬害について概要、歴史、時事問題について学び討論し、 レポートを書く			
8	定期テスト対策授業			これまでの授業のまとめ定期テスト対策問題			

【科目名】		薬理学Ⅱ		【担当講師】		鈴木 君弘	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
薬理学は、未知の生命現象を解明していく生命科学としての面と、ヒトの疾病の治療、予防、診断に用いるという健康科学の面と併せもっている。また薬理学は薬理を生体に与えた場合に生体が現す反応を研究する科学であり、臨床とも密接な関係を持ち、ヒトの疾病の治療に最も必要とされる科学の1つである。							
【実務経験有】							
すずき歯科医院開設・院長（歯科医師）							
【到達目標】							
授業の最後、または、最初に行う、○×問題で最低50%以上を正解し、過去の国家試験問題も経験し、それに正解していく。							
【教科書】							
疾病の成り立ち及び回復の過程の促進3 薬理学 各論P66～205（計141ページ）							
【参考図書】							
喜多川 泰 「小春日和」 「君と会えたから・・・」 「手紙屋 蛍雪編」							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全授業の終了後、国家試験問題形式なら記述の筆記試験を実施します。 筆記試験にて60点以上を合格とします。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	働くとは？			成功の3条件			
2	ビタミンとホルモン 末梢神経系に作用する薬物 中枢神経系に作用する薬物			・ビタミン ・ホルモン ・抹消神経系とは ・自立神経作動薬 ・中枢神経系に作用する薬物 ・全身麻酔薬 ・アルコール類 ・催眠薬・抗不安薬 ・抗痙攣薬 ・向精神薬 ・中枢神経興奮薬 ・抗パーキンソン病薬 ・アルツハイマー病治療薬			
3	循環器系に作用する薬物 腎臓に作用する薬物 呼吸器系に作用する薬物 消化器系に作用する薬物			・高血圧治療薬 ・不整脈治療薬 ・心不全治療薬 ・狭心症治療薬 ・脂質異常症治療薬 ・腎臓の機能と生理 ・利尿薬 ・気管支喘息治療薬			

		・鎮咳薬、去痰薬 ・消化器系に作用する薬物
4	血液に作用する薬物 免疫と薬 悪性腫瘍と薬 代謝性疾患治療薬	・止血機構 ・血液に関連する薬物 ・免疫応答のメカニズム ・免疫に関連する薬物 ・悪性腫瘍とは ・抗悪性腫瘍薬 ・糖尿病治療薬 ・骨粗鬆症治療薬
5	炎症と薬 痛みと薬 局所麻酔薬	・炎症とは ・抗炎症薬 ・解熱鎮痛薬 ・痛覚の発生と伝導 ・オピオイド系鎮痛薬 ・非オピオイド系鎮痛薬 ・神経障害性疼痛治療薬 ・局所麻酔薬の作用機構 ・局所麻酔薬の効果に影響を与える因子 ・血管収縮薬の併用 ・局所麻酔薬の化学構造と分類 ・局所麻酔薬の適用法 ・局所麻酔薬の生体に対する作用
6	抗感染症薬 消毒に使用する薬	・感染症と抗感染症薬 ・抗感染症薬の作用と副作用 ・主な抗感染症薬 ・消毒薬の作用 ・消毒薬の分類 ・主な消毒薬 ・HBVおよびHIVに対する消毒薬
7	う蝕予防薬 歯内療法薬 歯周疾患治療薬 顎・口腔粘膜疾患と薬	・フッ化物の臨床応用 ・歯髄の保存に用いる薬物 ・根管治療に用いる薬物 ・象牙質知覚過敏症に用いる薬物 ・歯周治療における薬物療法 ・急性炎症に用いる薬物 ・歯周治療に使用する薬物 ・洗口薬 ・口臭治療に用いる薬物 ・その他 ・炎症性疾患に用いる薬物 ・口腔粘膜疾患に用いる薬物 ・顎関節症に用いる薬物 ・口腔感染症に用いる薬物 ・神経疾患に用いる薬物
8	漢方医学と薬物	・漢方医学とは ・漢方薬とは

【科目名】		栄養と代謝Ⅰ		【担当講師】		倉知 正	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
生化学は生物を構成する物質の化学であり、生命・病気の理解に必須の学問である。 生命には、糖質、脂質、タンパク質、補酵素、ビタミン、ホルモンなどの生体分子の質的・量的バランスの上に成り立っており、これらの生体分子の質的・量的バランスは生合成系と代謝系により決定される。 本教科では、生命の基本単位である細胞の構造、生体分子の構造・性質・細胞内の遺伝情報の流れ、エネルギー代謝などについて学習する。							
【実務経験有】							
群馬大学大学院医学系研究科分子細胞機能学分野(医学部内講師)							
【到達目標】							
1 細胞の基本構造と細胞小器官の働きを理解する。 2 生体高分子の基本的な構造と機能を理解する。 3 糖質・脂質・タンパク質の代謝の基礎について理解する。 4 遺伝情報の流れを理解する。 5 恒常性を保つ仕組みを理解する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 栄養と代謝 医歯薬出版株式会社							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全授業終了後、記述形式の試験を行い、60点以上の者を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目		授業内容				
1	生体の構成要素(1) 1. 細胞の構造と細胞小器官 2. 生体における水		1. 細胞の構造、細胞小器官の働きを説明できるようにする 2. 生体中の水の分布、水の性質、緩衝作用について説明できるようにする。				
2	生体の構成要素(2) 1. 栄養素 生体における化学反応 2. 消化と吸収 3. 酸素の運搬 4. 酵素		1. 栄養素の種類と役割を説明できるようにする 2. 糖質の構造と種類を説明できるようにする 3. 脂質の構造と種類を説明できるようにする 4. タンパク質の構造と種類を説明できるようにする 5. ビタミンの種類と役割を説明できるようにする 6. ミネラルの種類と役割を説明できるようにする 7. 糖質の消化と吸収を説明できるようにする 8. 脂質の消化と吸収を説明できるようにする 9. タンパク質の消化と吸収を説明できるようにする 10. 酸素の運搬と二酸化炭素の排出を説明できるようにする 11. 酵素の役割を説明できるようにする 12. ATPを説明できるようにする				
3	糖質の構造と代謝(1) 1. エネルギー代謝		1. エネルギー代謝の概要を説明できるようにする 2. 解糖を説明できるようにする				

3	2. 解糖 3. グリコーゲン	3. グリコーゲンの合成と分解を説明できるようにする
4	糖質の構造と代謝(2) 1. クエン酸回路 2. 電子伝達系	1. クエン酸回路を説明できるようにする 2. 電子伝達系を説明できるようにする
5	脂質の構造と代謝 1. 脂肪酸の酸化(β 酸化) 2. 脂肪の合成	1. β 酸化を説明できるようにする 2. 脂肪の合成を説明できるようにする
6	タンパク質とアミノ酸の代謝(1) 1. アミノ酸の代謝分解	1. アミノ基転移反応を説明できるようにする 2. 酸化的脱アミノ反応を説明できるようにする
7	タンパク質とアミノ酸の代謝(2) 1. DNAと遺伝子 2. タンパク質の合成	1. DNAと遺伝子について説明できるようにする 2. タンパク質の合成(転写、翻訳)について説明できるようにする
8	生体における恒常性の維持 1. 恒常性(ホメオスタシス) 2. 血液の緩衝能と血糖値 3. ホルモン	1. 恒常性(ホメオスタシス)を説明できるようにする 2. 血液の緩衝能について説明できるようにする 3. 血糖値を説明できるようにする 4. ホルモンによる恒常性維持について説明できるようにする

【科目名】		栄養と代謝Ⅱ		【担当講師】		石原 宏一	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
口腔組織の構成成分、唾液、歯垢の構成成分を学ぶ。							
【実務経験有】							
石原総合歯科医院開設・院長（歯科医師）							
【到達目標】							
1 食生活と咀嚼、食品と齲蝕誘発性の相関性について理解する。							
2 結合組織、歯の構成成分、石灰化の仕組みについて理解する。							
3 唾液、歯の堆積物、齲蝕と歯周疾患の免疫学の基本知識を習得する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版株式会社							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全授業の終了後、マークシート試験を行う。合計得点(100点満点)の60点以上の者を合格とする。							
出席実績、授業態度、授業中に出す課題(レポート等)の提出実績・内容により減点を科す場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	1章 歯と歯周組織の生化学 1、歯と歯周組織の生化学 2、結合組織の生化学			① 結合組織の組成と機能を学ぶ ② 繊維状タンパク質(コラーゲン)とは何かを理解する ③ プロテオグリカンの化学的性質・生理的機能及び ④ 代謝について学ぶ ⑤ 接着性タンパク質とは何か理解する ⑥ コラーゲンの合成過程を理解する ⑦ 細胞外マトリックスの分解過程を理解する			
2	3、歯の生化学 2章 硬組織の生化学 1、血清中のカルシウムとリン酸			⑧ 歯の組成、歯の無機成分、有機成分の特徴について学ぶ ① 血清中のカルシウムとリン酸濃度と、その活動度積について理解する			
3	2、石灰化の仕組み			② 基質小胞説を理解する ③ 押し上げ説と核形成説を理解する			
4	3、骨の生成と吸収 4、歯の脱灰と再石灰化			④ 骨芽細胞と破骨細胞の特徴を学ぶ ⑤ 血清カルシウム調節ホルモン(副甲状腺ホルモン・カルシトニン・ビタミンD)を理解する ⑥ 歯の脱灰とキレート作用の相関性について理解する			
5	3章 唾液の生化学 1、唾液の組成と機能			① 唾液の無機質について学ぶ ② 唾液の有機質について学ぶ ③ 唾液の低分子量成分について学ぶ			
	4章 プラークの生化学			① プラークの種類・組成について理解する			

6	1、プラークの生物活性	② プラークの形成について理解する ③ プラークによる糖からの酸産生過程について理解する
7	2、プラークによる齲蝕発症機構 ー多因子性疾患としての齲蝕ー	④ 糖と齲蝕との関連性を学ぶ ⑤ プラークと齲蝕との関連性を学ぶ ⑥ 歯と齲蝕との関連性を学ぶ ⑦ 唾液と齲蝕との関連性を学ぶ ⑧ 食生活と齲蝕との関連性を学ぶ ⑨ 齲蝕予防法(フッ化物・代用甘味料)について学ぶ
8	3、プラークによる口臭発症機構 4、プラークによる歯周疾患発症機構	⑩ 細菌活性について学ぶ ⑪ 生体防御機構と炎症反応について学ぶ ⑫ リポ多糖(LPS)とは何かを学ぶ

【科目名】		栄養と代謝Ⅲ		【担当講師】		大美賀由美子	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
栄養の基礎について学ぶ							
【実務経験有】							
病院や市役所で管理栄養士として実務							
【到達目標】							
自分自身の健康、家族やまわりの人達の健康を意識し、適切な自己管理や指導ができるための、 栄養学の知識を持ち実践できるようにする。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本		人体の構造と機能2 栄養と代謝		医歯薬出版株式会社			
【参考図書】							
基礎栄養学（南山堂） 日本人の食事摂取基準（第一出版） 食品成分表 本表編・資料編							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
前期、後期の期末、マークシート試験を実施。 60点以上が合格。不合格者は再試験。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	栄養素の働き 糖質			糖質の種類 糖質の栄養的意味			
2	タンパク質			タンパク質の種類 タンパク質の栄養的意味			
3	脂質			脂質の種類 脂質の栄養的意味			
4	ビタミン			ビタミンの種類 ビタミンの栄養的意味			
5	ミネラル			ミネラルの種類 ミネラルの作用と欠乏・過剰症			
6	水 食物繊維			水の働きと代謝 水の必要量と給源 食物繊維の働き 食物繊維の摂取量と給源			
7	栄養の基礎知識 食生活と栄養			栄養の知識を学ぶ理由 日本人の栄養摂取状況			
8	栄養素の消化・吸収			消化作用の種類 消化作用の仕組み 栄養素の消化 栄養素の吸収 栄養素の役割			

【科目名】		保健生態学Ⅰ		【担当講師】		松本 光史	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		30時間	
【単位】		2単位					
【授業概要】							
公衆衛生学は、人間の健康問題を様々な要因の相互関係で考えていくことを目的とする。 そのためには、地球、国、地域、集団における現状を正確に把握し、それを解析する能力が必要となってくる。本教科では、この力を養うために、周囲の環境、疾病の予防方法、さらには地域・国家・世界におけ保健機構について学習する。ここから健康を阻害する要因を多方向から観察し、集団に対する予防方法を実施するための基礎的能力を習得することを目的とする。							
【実務経験有】							
阪東歯科クリニック勤務(歯科医師)							
【到達目標】							
1 わが国の健康水準の現況を理解する。 2 公衆衛生のための制度・対策の概要を理解する。 3 生活環境と疾病との関係、環境汚染の防止に関する基本的知識を習得する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 保健生態学 医歯薬出版株式会社							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義形式(教科書, プリント, スライド)および問題解決型授業の形式を適宜取り入れる							
【評価方法】							
全授業の終了後、マークシート試験、或いは記述試験を行う。60点以上の者を合格とする。 出席実績、授業態度により減点を科す場合がある。原則として、再々試験は行わないものとする。							
【授業計画】							
回	授業項目		授業内容				
1	総論 1. 健康とは何か 2. 障害に対する接近法 3. 健康づくり運動の変遷 4. 広義の予防とは 5. 国際保健 6. プライマリーケア 7. ヘルスプロモーション 8. 医療の倫理		1. 世界保健機構(WHO)の健康の定義を言えるようにする 2. ICFを理解し、ICIDHとの違いを説明できるようにする 3. 健康日本21を知り、その概略を説明できるようにする 4. 我が国の、健康に関する現状を把握する 5. LeavellとClarkの1次予防、2次予防、3次予防を理解し、具体例をあげて説明できるようにする 6. LeavellとClarkの1次予防の二つの対策手段を 具体例をあげて説明できるようにする 7. プライマリーケアを知る 8. ヘルスプロモーションを知る 9. アルマ・アタ宣言を説明できるようにする 10. オタワ憲章を説明できるようにする 11. ヘルシンキ宣言について説明できるようにする				
2	疫学 1. 有病率、罹患率 2. 疫学研究の概念 3. 疫学の実際 4. コホート研究 5. 患者対照研究		1. 罹患率と有病率の違いを説明できるようにする 2. 記述疫学の目的と何を記述するのかをいえるようにする 3. 分析疫学の目的を説明できるようにする 4. 横断研究と縦断研究の違いを説明できるようにする 5. 患者対照研究について具体例をあげて説明できるようにする 6. コホート研究について具体例をあげて説明できるようにする 7. 相対危険度とは何かを説明できるようにする				

		8. 相対危険度を計算できるようにする 9. 寄与危険度とは何かを説明できるようにする 10. 寄与危険度を計算できるようにする 11. オッズ比とは何かを説明できるようにする 12. オッズ比を計算できるようにする
3	人口Ⅰ 1. 人口静態統計 2. 人口動態統計 3. 国勢調査 4. 我が国の人口構造の推移 5. 人口ピラミッドとは何か 6. 人口指標とは何か 7. 世界人口とは何か 8. 出生率について	1. 人口動態統計と人口静態統計の違いを説明できるようにする 2. 国勢調査について説明できるようにする 3. 静態統計からわかるものをいえるようにする 4. 人口ピラミッドの形を分類し、我が国の人口ピラミッドの形がどのような形か又その理由も説明できるようにする 5. 年齢別人口構造と計算式を理解し、それを使って我が国の人口構造推移(高齢化)を説明できるようにする 6. 世界人口の推移を説明できるようにする 7. 再生産率について説明できるようにする 8. 合計特殊出生率について説明できるようにし、我が国の状況を説明できるようにする 9. 総再生産率について説明できるようにし、我が国の状況を説明できるようにする 10. 純再生産率について説明できるようにし、我が国の状況を説明できるようにする 11. 将来的な我が国の人口状態の予想と、少子化の要因について説明できるようにする
4	人口Ⅱ 1. 死亡率 2. 死因分類 3. 疾病構造の変化 4. 死産、乳児死亡、周産期死亡、妊産婦死亡 5. 生命表の定義 6. 生命表の見方 7. 生命関数 8. 健康寿命	1. 国民死因の推移を説明できるようにする 2. 各動態統計指標と定義をいえるようにする (死亡率、PMI、早期新生児死亡率、新生児死亡率、乳児死亡率、周産期死亡率、死産率、死産比) 3. 生命表とは何かを説明できるようにする 4. 各生命関数についてどのようなものを説明できるようにする 5. 我が国の平均寿命の変化について説明できるようにする 6. 健康寿命とは何かを説明できるようにする
5	健康と環境Ⅰ 1. 生活環境 2. 物理環境 3. 科学環境	1. ホメオスタシスを説明できるようにする 2. 正常空気成分について説明できるようにする 3. 空気の異常成分と健康被害を説明できるようにする 4. 感熱環境の測定器具と評価指数について (アスマン通風乾湿計、カタ寒暖計、黒球寒暖計) 6. 不快指数とは何かを説明できるようにする 7. 感覚温度とは何かを説明できるようにする 8. 飲料水に求められる要件を言えるようにする 9. 浄水法を分類し説明できるようにする 10. 下水の水質基準と処理法を分類し説明できるようにする
6	健康と環境Ⅱ 1. 地球環境 2. 廃棄物 3. 環境リスクと事故	1. 気候型を分類できるようにする 2. オゾン層破壊、温暖化など地球環境について説明できるようにする 3. 公害事件の原因物質と症状を説明できるようにする 4. 大気汚染物質と症状を説明出来るようにする 5. 廃棄物処理とくに医療廃棄物の分別処理を説明できるようにする
7	感染症 1. 感染の原因、経路 2. 感染予防について 3. 感染症の分類	1. 感染源について例を挙げて説明できるようにする 2. 感染経路について分類が出来、例を挙げて説明できるようにする 3. 免疫について説明できるようにする 4. 感染経路対策について例を挙げて説明出来るようにする 5. 感染源対策について例を挙げて説明できるようにする 6. 宿主の感受性対策について例を挙げて説明できるようにする

		7. 予防接種(ワクチン)を分類できるようにする 8. 新興感染症、再興感染症を例をあげて説明できるようにする 9. A型B型C型肝炎を説明できるようにする
8	食品と健康 1. 栄養所要量 2. 国民健康・栄養調査 3. 食中毒	1. 栄養所要量について説明できるようにする。 2. 推奨平均必要量、推奨量、目安量、許容上限摂取量を習慣的な摂取量のグラフを用いて説明できるようにする 3. 我が国の栄養摂取状況について説明できるようにする 4. 各種の目標摂取量について説明できるようにする 5. 細菌性食中毒を分類し、その違いについて説明できるようにする 6. 病原性大腸菌食中毒について説明できるようにする 7. サルモネラについて説明できるようにする 8. 腸炎ビブリオについて説明できるようにする 9. 黄色ブドウ球菌について説明できるようにする 10. ボツリヌス菌について説明できるようにする 11. フグ毒、ジャガイモの芽の毒素を言えるようにする

【科目名】		保健生態学Ⅱ		【担当講師】		外丸 雅晴	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		30時間	
				【単位】		2単位	
【授業概要】							
口腔疾患を予防し、口腔の健康を保持増進するための知識と技術を習得する							
口腔疾患予防のために歯科衛生士として重要とされる判断能力、問題解決能力を習得する							
医療人としての医療哲学の形成に努め、歯科衛生士というプロフェッションとしての自覚を持つ							
【実務経験有】							
外丸歯科医院勤務(歯科医師)							
【到達目標】							
口腔衛生学を学ぶ上で必要とされる自然科学、基礎医学、基礎歯学の知識を十分に体得する							
う蝕と歯周病を中心に、歯科疾患の予防法についてその基礎と理論を理解する							
う蝕と歯周病を中心に、その予防を公衆衛生および個人管理の中で実施する方法について							
理解する年齢に応じたターゲット疾患を理解し、ライフステージ別の口腔保健対策を理解する							
【教科書】							
全国歯科衛生士教育協議会監修 保健生態学 第3版 医歯薬出版							
【参考図書】							
安井利一・宮崎秀夫他編集 口腔保健・予防歯科学 医歯薬出版							
花田信弘著 オトナこそ歯が命 小学館文庫							
日野原重明著 医学するところ——オスラー博士の生涯 岩波現代文庫							
【授業方法】							
教科書、配布資料、スライドおよびDVDを使用する							
【評価方法】							
定期試験を実施する。100点満点とし、60%以上の得点のものを合格とする。							
問題形式は選択形式と記述形式を併用する							
不合格者には追試験を実施する。追試験は記述形式のみとする							
レポート、豆テストの結果は成績評価に含めない(原則として定期試験のみで評価する)							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1・2	総論			・口腔の健康の定義 ・歯、口腔の健康保持・増進の手段 ・歯と歯周組織の構造と働き ・口腔粘膜、舌、顎関節などの構造と働き ・唾液腺の種類と唾液の働き ・歯、口腔の形成及び発育と発達 ・歯、口腔の形成異常 ・歯、口腔の機能 ・口腔と全身の健康の関連 ・歯・口腔の付着物と沈着物			
3・4	口腔清掃			・口腔清掃の意義 ・口腔清掃法の種類 ・人工的清掃法の分類と用具 ・不適切な口腔清掃法 ・歯磨剤および洗口剤の種類 ・歯磨剤および洗口剤の組成			
5	歯科疾患の疫学			・う蝕の疫学 ・歯周疾患の疫学 ・その他の歯科疾患の疫学			
6・7	う蝕の予防			・う蝕発生のメカニズム ・う蝕の発生要因 ・う蝕活動性試験 ・リスクに応じたう蝕予防			

		・う蝕発生の1次、2次、3次予防 ・Minimal Intervention Dentistry ・発生要因に対するう蝕予防法
8～10	フッ化物によるう蝕予防	・人体へのフッ化物の作用 ・生体におけるフッ化物の代謝 ・フッ化物の毒性と正しい対処法 ・フッ化物応用によるう蝕予防法 ・フッ化物のう蝕予防メカニズム ・ライフステージに応じたフッ化物応用
11・12	歯周疾患の予防	・健康な歯周組織の構造 ・歯周疾患の炎症の広がりと症状 ・歯周疾患の種類と原因 ・歯周疾患のリスクファクター ・歯周疾患の全身への影響 ・歯周疾患の予防法 ・歯周疾患の治療法 ・定期的な歯周疾患予防処置
13	その他の疾患と異常の予防	・口内炎 ・口腔癌 ・不正咬合 ・顎関節症 ・歯の形成不全 ・口臭症 ・口腔乾燥症
14・15	ライフステージごとの口腔保健管理	・母子口腔保健 ・小児期の口腔保健 ・成人期・老年期の口腔保健 ・健康日本21と歯と口の健康 ・タバコと歯と口の健康 ・講義のまとめ

【科目名】		保健生態学Ⅲ		【担当講師】		野中 幸治	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
健康に関わる地域の役割、ヘルスプロモーションの概念、母子保健や学校保健などの保健制度について学ぶ							
【実務経験有】							
野中歯科医院開設・院長(歯科医師)							
【到達目標】							
1 地域社会と健康との関わりの重要性、地域保健の考え方と制度を理解する							
2 新しい健康観であるヘルスプロモーションの考え方と歯科における取組みを理解する							
3 年代や職業ごとの保健制度と歯科保健について理解する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 保健生態学							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全講義終了後、試験を行う。合計得点(100点満点)の60点以上の者を合格とする。							
出席実績、授業態度、授業中に出す課題(レポート等)の提出実績・内容も成績に含む。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	地域社会と地域保健 地域社会と健康対策の考え方を学ぶ 地域保健を担う組織の仕組みを学ぶ			地域と健康との関連性について ライフスタイルと歯科疾患との関連性について 保健所、市町村保健センターについて			
2	地域社会の新たな概念 新しい健康観であるヘルスプロモーションについて理解する			ヘルスプロモーションとは ノーマライゼーションとは 歯科口腔保健法について			
3	母子保健 母子保健の意義と概要を知り母子歯科健診について理解する			母子保健制度と母子健康手帳について 3歳児歯科健康診査について 1歳6か月歯科健康診査について			
4	学校保健 学校保健の活動と組織について理解する。			学校における歯科保健問題について 学校保健職員と役割について 学校保健の3領域について			
5	学校保健(歯科) 学校歯科の役割について理解する			学校歯科保健教育について 学校歯科健康診断について			
6	成人・老人保健 老化と健康との関わりについて学ぶ			老化と健康について 成人・老人保健関係法規について 介護と口腔ケアについて			
7	産業保健 産業保健の概念と職業性疾病について学ぶ			労働基準法、労働安全保障保健法、労働者災害補償保険法について 職業性歯科疾患について 歯科健康診断について			

8	精神保健 精神障害者の医療に ついて学ぶ 国際保健 世界の歯科疾患の状況に ついて理解する	精神保健について 精神障害者の医療制度について 世界の国々における保健医療の考え方と歯科疾患状況について
---	--	--

【科目名】		保健情報統計学		【担当講師】		齋藤 晃一	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
保健情報統計学は各種指標について理解し、収集、選択、評価を把握し、 歯科衛生士としての必要な知識を講義などによって学ぶ。							
【実務経験有】							
齋藤歯科医院開設・院長(歯科医師)							
【到達目標】							
1 保健情報統計の各種指標について理解し、説明ができる。							
2 歯科衛生統計を理解し、説明ができる。							
3 保健情報統計の収集、選択、評価が説明できる。							
【教科書】							
医歯薬出版株式会社「保健情報統計学」							
【参考図書】							
【授業方法】							
教科書、プリント、スライド等を用いた講義形式で行う							
【評価方法】							
全授業の終了後の試験結果で60点以上の者を合格とする。また、授業態度、復習テスト、 実習態度、レポート、出席などで総合的に評価する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	保健情報の概論			データや情報などのもつメッセージを理解する。 保健情報の目的を学ぶ。 EBMとは何かを学ぶ。			
2	統計学の基礎			統計学に必要な数学、関数、公式を学ぶ。 ギリシャ文字、 $\sqrt{\quad}$ 、 Σ などの関数を学ぶ。			
3	口腔情報と疫学			口腔保健に関する主な国家統計を学ぶ 学校保健統計調査を学ぶ。 疫学分析を学ぶ。			
4	歯科疾患の指数			う蝕の指数を学ぶ。 DMF、dmfを学ぶ。 PMA、GI、PI、PDI、GBcout、GPI、CPIなどの 歯周疾患の指標を学ぶ。			
5	歯科疾患の指数			OHI、PI、PHI、CPRなどの口腔清掃状態の指数を学ぶ。 Angleの分類を学ぶ。 咀嚼能率、摂食嚥下のスクリーニングテストを学ぶ。			
6	保健統計の方法			母集団と標本について学ぶ。 データの特性について学ぶ。			
7	保健情報の分析			t検定、カイニ乗検定などについて学ぶ。			
8	情報の保護と倫理			データの表現について学ぶ。 情報開示と保護について学ぶ。 情報倫理の問題点について学ぶ。			

【科目名】		衛生行政・社会福祉学		【担当講師】		内山 康久	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
講義を通して歯科衛生士となるべく知識を身に付け、正確に制度、沿革、法規を学び基礎的知識を身に付ける。 高齢化社会に鑑み、近年の試験には介護保険の中身に焦点を当てる内容も重視されています。 現在の法規、制度を理解したうえで各テーマの内容を正確に把握する。 今後の基礎科目あるいは臨床科目の基礎となる学力を確実に身に付けることが、とても重要である。							
【実務経験有】							
老人施設にてソーシャルワーカー、介護支援専門員として実務							
【到達目標】							
講義を通して基本となる衛生行政、社会福祉、社会保険について理解する。 また、国家試験に準じた試験問題を通じて国家試験合格基準レベル以上の知識を身に付ける。 1 各法律、制度について理解し、正確に述べることができる。 2 各テーマの沿革、目的、組織等正確に把握、理解し、正確に述べることができる。 3 社会福祉、社会保障、衛生行政の意味を正確に理解し、述べることができる。							
【教科書】							
衛生行政、社会福祉、社会保険				医歯薬出版株式会社			
【参考図書】							
衛生行政、社会福祉、社会保険				医歯薬出版株式会社			
国家試験対策2017年対策				歯科衛生士国試問題研究会			
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
前授業終了後に学科試験							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	イントロダクション、社会福祉について			社会福祉の沿革、組織、担い手、生活保護制度について理解する			
2	社会保障と社会保険			社会保障制度、目標と機能、世界の保障制度について理解する			
3	社会保険について			社会保険の沿革、組織、年金・医療制度と法規、雇用、介護保険について理解する			
4	衛生行政について			衛生行政の目的、沿革、組織について理解する			
5	社会福祉について			社会福祉の児童・家庭の福祉制度、障害者・高齢者の福祉制度と法規を理解する			
6	衛生関係法について			法制概論、医師法・歯科医師法、衛生士法、医療法、薬事、地域保健について理解する			
7	衛生関係法について			統計調査、健康と受療、医療施設、関係者、国民医療費について理解する			
8	衛生関係法について 総復習			医療保険の仕組み、実務他について理解する 講義内容の総復習を行い、定期試験・国家試験における出題ポイントを学ぶ			

【科目名】		歯科衛生士概論Ⅰ		【担当講師】		高橋 邦夫					
【年次・開講期】		1年次		【時間】		16時間		【単位】		1単位	
【授業概要】											
歯科疾患および歯科医療の概要を解説し、今後開始される歯科専門科目に対する動機づけを図る。											
【到達目標】											
1. 医療と歯科医療に共通する倫理や歯科医療独特の問題を理解する。											
2. 歯科医療従事者の役割と現状を理解する。											
3. 患者心理を理解し患者対応の方法を考える。											
4. 歯科診療所の概要と歯科診療の流れを理解する。											
5. 歯および口腔の基礎知識を学び、歯科疾患の概要を理解する。											
6. 歯科治療の一般的な流れを理解する。											
7. 歯科臨床（保存・歯周・補綴・口外・小児・矯正・高齢者）における治療の概要を理解する。											
【教科書】											
新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」医歯薬出版											
【参考図書】											
【授業方法】											
講義・実習											
【評価方法】											
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たすこと。											
各テーマごとの課題(レポート等)の提出状況とその内容と、受講態度を総括的評価とする。											
【授業計画】											
回	授業項目				授業内容						
1	歯科診療と歯科診療所 1. 歯科診療とは 2. 歯科診療所 3. 歯科診療所における業務 歯科診療の流れ				・ 歯科臨床の場について理解する ・ 歯科診療所における業務について理解する ・ 診査、検査、前処置について理解する						
2	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 小児歯科				・ hellmanの歯齡 ・ 先天異常について理解する ・ う蝕予防 ①小窩裂溝填塞について理解する ②フッ化物歯面塗布について理解する						
3	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 口腔外科				・ 口腔外科の概要を理解する ・ 口腔外科診療の流れを理解する ・ 外傷と抜歯の流れについて理解する ・ 口腔粘膜疾患について理解する ・ 腫瘍性疾患を理解する ・ その他の疾患を理解する						
4	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯科保存				・ う蝕について理解する ・ 形成修復を理解する ・ インレー修復を理解する ・ 歯髄保存、歯髄除去法について理解する ・ 感染根管治療について理解する ・ ホワイトニングについて理解する						
5	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯科補綴				・ 歯冠修復と歯冠補綴の違いについて理解する ・ クラウン、ブリッジ作製の流れについて理解する ・ 義歯の流れについて理解する						
6	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯科矯正				・ 矯正の概要を理解する ・ 不正咬合とその治療方法について理解する ・ 矯正治療と歯科衛生士の役割を理解する						

7	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯周治療	・歯周治療の流れについて理解する ・歯周病と全身疾患について理解する ・歯周う基本治療とその流れについて理解する ・歯周外科手術について理解する ・歯周治療におけるメンテナンスについて理解する
8	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 障害者高齢者歯科	・障害者、高齢者について理解する ・摂食嚥下障害への対応、治療について理解する ・全身疾患、周術期の対応について理解する ・歯科訪問診療について理解する

【科目名】		歯科衛生士概論Ⅱ		【担当講師】		一場 香奈	
【年次・開講期】		2年次 後期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯科衛生士としての仕事の場を理解するとともに、必要な知識や心構えについて学ぶ							
【実務経験有】							
歯科衛生士の臨床経験をもとに授業を展開する							
【到達目標】							
1. 歯科医療について理解する							
2. 歯科衛生士に必要な知識や技能について理解する							
3. 歯科衛生士の業務について理解する							
【教科書】							
新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
出席実績および授業態度、また課題に対するレポートにより、評価する							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科衛生士とは			歯科衛生士の法的性格と業務内容の要点を理解する			
2	歯科医療保健にたずさわる人			歯科に関連する職種を学ぶ。また、それぞれの法律や業務、資格について理解する			
3	歯科衛生士の業務			歯科衛生士の業務である、歯科予防処置・歯科診療補助論・歯科保健指導論を理解し、その業務を円滑に行うために必要なことを学ぶ			
4	歯科衛生士の役割			歯科衛生士の活動場面は、歯科診療所や病院が多く占めているが、現在は訪問診療や福祉施設など地域歯科保健現場での活躍の場があることを学び、それを視野に入れた知識や手技を学ぶ			
5	歯科衛生士に必要な心構え			業務を円滑に進めていくために、人間への理解・良識のある社会人としての自覚を身につけることを理解する			
6	歯科衛生士に必要な知識と技能			特に必要な「全身および歯・口の健康」「疾病についての知識」「歯科臨床の知識」「歯科予防処置」「歯科診療補助」「歯科保健指導」の知識を理解し、十分な技能をもつことを学ぶ			
7	歯科衛生士の業務の展開①			歯科衛生士の仕事の場を理解し、仕事での心構えや職業人としての心構えを理解する			
8	歯科衛生士の業務の展開②			歯科衛生士として患者との応対について学ぶ			

【科目名】		歯科保存学Ⅰ		【担当講師】		森田 正彦	
【年次・開講期】		2年次 後期		【時間】		26時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
硬組織疾患の原因、治療、予防について学ぶ 臨床科目との関係を重視する							
【実務経験有】							
森田歯科医院開設・院長（歯科医師）							
【到達目標】							
1、保存修復学で扱う疾患を理解する 2、う蝕の発症要因と進行を理解する 3、歯の欠損の修復方法を理解する 4、歯の修復に用いる器材を理解する 5、歯に硬組織疾患の予防、検査、診断、治療を体系的に理解する 6、口腔の健康と審美について総合的に理解する							
【教科書】							
歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義（教科書、動画、スライド）・実習							
【評価方法】							
全授業終了後の記述式の定期テストにて、60点以上の者を合格とする							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	保存修復学の概要			対象となる疾患を説明する 学問としての分類、歯の保存の意義を説明する			
2	医療面接・口腔診査・ 現症の検査			相互実習により口腔内の観察・診査をする 医療面接にて患者に対する心構えを体得する 現症と疾患の関係を理解する			
3	歯の硬組織疾患と形態異常			保存修復学の治療対象となる疾患を学ぶ 疾患の原因、症状について学ぶ 歯牙の解剖学的形態を理解する			
4	う蝕の病態と歯髄との関係			う蝕の発生と進行について学ぶ 歯髄保護の目的と方法について学ぶ			
5	窩洞形成と保存修復治療			適切な窩洞について学ぶ 保存修復治療に用いる器材について説明する 歯牙模型にて実習し、修復に用いる器材の使用方法を学ぶ			
6	コンポジットレジン修復			コンポジットレジンの組成と種類を説明する 長所・短所・適応症について学ぶ 歯牙模型にて実習し、操作、器材について理解する			
7	アマルガム修復 ガラスアイオノマーセメント修復			アマルガム・ガラスアイオノマーの組成と種類を説明する 長所・短所・適応症について学ぶ 歯牙模型にて実習し、操作、器材について理解する			
8	鑄造修復 ラミネートベニア修復 歯牙漂白			長所・短所・適応症について学ぶ 具体的な術式を理解する			
9	口腔のライフステージ			口腔の健康とライフステージを認識する 歯科的な健康について検討する 予防について考える			

10	保存修復学と歯内療法学	臨床上の関わりを説明する
11	保存修復学と隣接学	歯科補綴学、口腔外科学、歯周治療学、歯科矯正学との関わりについて説明する
12	保存修復学と臨床診査学	臨床上の病態、診断法について説明する
13	総括	う蝕についての最新知識を紹介する 口腔の健康観を育成する 臨床と歯科衛生士の関わりについて学ぶ デンタルチームとしての歯科衛生士の理想を討論する

【科目名】		歯科保存学Ⅱ	【担当講師】		高橋 智幸
【年次・開講期】		2年次 前期	【時間】		26時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の原因、分類、治療法を学ぶ					
【実務経験有】					
高橋歯科医院開設・院長(歯科医師)					
【到達目標】					
歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患の原因、分類を把握し、疾患と治療法を関連づけて理解する					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本「保存修復・歯内療法」 医歯薬出版					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義（教科書、プリント、スライド）および問題解決型授業の形式を適宜取り入れる					
【評価方法】					
全講義の終了後、試験を行う。60点以上の者を合格とする。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	歯内療法の概要 1. 歯内療法学の目的 2. 歯内疾患の概要と原因		1. 象牙質知覚過敏症の原因と症状を学ぶ 2. 歯髄炎の概要と原因を学ぶ 3. 根尖性歯周炎の概要と原因を学ぶ		
2	歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類		歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類と症状を学ぶ		
3	歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の処置		1. 歯髄疾患の処置方針を学ぶ 2. 根尖性歯周組織疾患の処置方針と治療の概要を学ぶ 3. 歯内療法特有の検査と診断を学ぶ		
4	歯髄保存療法 1. 歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛 2. 覆髄法		1. 歯髄鎮痛消炎療法の概略と歯髄鎮痛消炎薬を学ぶ 2. 間接覆髄法 直接覆髄法 暫間的間接覆髄法（IPC法）の概略と治療薬を学ぶ		
5	歯髄の除去療法 1. 歯髄切断法 2. 抜髄法		1. 生活断髄法の概要・適応症・術式を学ぶ 2. 直接抜髄法の概要・適応症・使用器材・術式を学ぶ		
6	根管治療		1. 根管治療におけるエックス線写真撮影の意義と使用器材の種類と準備を学ぶ 2. ラバーダム防湿に使用する器材と術式・特徴を学ぶ		
7	根管治療		1. 髄室開拓と根管口の漏斗状拡大に使用する器材と術式について学ぶ 2. 根管長測定の意義と測定法を学ぶ 3. 根管の拡大形成・根管消毒・仮封に使用する器材・薬剤と術式特徴を学ぶ		
8	根管充填		1. 根管充填の目的・時期を知る 2. 根管充填材の所要性質と種類を学ぶ 3. 根管充填用器具の種類と特徴を学ぶ		
9	根管充填 根未完成歯の根管処置		1. 根管充填の種類・術式・特徴を学ぶ 2. 根未完成歯の治療法を学ぶ		
10	外科的歯内療法		1. 膿瘍切開法・根尖搔爬法・根尖切断法・歯根切断法・歯根分離法 ヘミセクションについて学ぶ 2. 歯の再植法・移植法を学ぶ		
11	歯の外傷		1. 歯の外傷の分類と処置を学ぶ 2. 完全脱臼歯の保存方法を学ぶ		

12	歯内療法における安全対策	1. 治療用器具の根管内破折を学ぶ 2. 根管治療時の根管壁穿孔を学ぶ 3. 皮下気腫を学ぶ 4. 歯内治療用器具の誤嚥と気管内吸引を学ぶ 5. 薬剤による皮膚・衣類汚染の対処法を学ぶ
13	歯内療法における 歯科衛生士の役割 歯のホワイトニング	1. 歯内療法の手順を列挙する 2. 歯内療法処置の準備と診療補助を学ぶ 3. 歯のホワイトニングの種類・手順を学ぶ

【科目名】		歯周治療学		【担当講師】		高井 靖子	
【年次・開講期】		2年次 前期		【時間】		26時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯周病はう蝕とともに口腔領域の2大疾患と称されているが、歯周病は増加傾向にあり、その予防と治療が重要になっている。歯周治療においては、歯科衛生士の行う口腔清掃指導やSRPなどが治療のみならず、予防の面でも最も重要な項目である。そのための基礎的能力を習得することを目的とする。							
【実務経験有】							
高井歯科クリニック開院・勤務(歯科医師)							
【到達目標】							
1、歯周病の原因、病態を理解できる。							
2、歯周病に関わる検査法を理解したうえで、正しく行うことができる。							
3、歯周治療の流れを説明でき、その上でスケーリング・SRP等の治療技術を習得する。							
また歯周外科手術の介助ができる。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本「歯周治療学」医歯薬出版							
【参考図書】							
最新歯科衛生士教本「歯周疾患」医歯薬出版							
「標準歯周病学」医学書院							
【授業方法】							
講義（教科書・スライドおよび小テストを毎回行う）							
【評価方法】							
全授業の終了後、歯周治療学の試験を行う。60点以上の者を合格とする。							
59点以下の者は不合格とし、再試験を行う。							
出席実績、授業態度、小テストの成績も評価する場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	◎歯科衛生士と歯周治療 1.歯周組織と歯周病 2.歯周治療学とは 3.歯周治療における 歯科衛生士の役割 ◎歯周組織の構造と機能 1.歯周組織 2.歯周組織の構造 3.歯周組織の機能			○歯周組織（歯肉、歯根膜、歯槽骨、セメント質）の構造と機能の説明 ○歯周病の予防と治療の基本は原因の除去であり、歯科衛生士は 口腔清掃指導やスケーリング・ルートプレーニングを行うなど、 きわめて重要な役割を担うことを理解させる ○歯周病の疫学			
2	◎歯周病とは 1.歯周病とその成り立ち			○歯周病の分類 ○歯肉炎と歯周炎の違いを説明 ポケットの形式とアタッチメントロスについて理解させる ○歯周炎の臨床症状について ○咬合性外傷について			
3	◎歯周病とは 2.歯周病の原因 3.歯周病の疫学			○プラークの形成について ○歯周病原細菌について ○プラーク増加因子について ○歯肉縁上歯石と歯肉縁下歯石の違いを理解させる			
4	◎歯周治療の進め方 1.歯周病の治療と予防の 基本的考え方			○歯周治療は原因の除去療法が最も重要であることを理解させる			

	2.歯周治療の進め方	○歯周基本治療について
5	◎歯周病の検査と診断 1.主訴を中心とした一般検査 2.歯周組織の検査	○歯周組織破壊の程度の検査 ○歯周ポケットの検査 ○ポケットプローブを用いてできる検査 ○顎モケイ、プローブを使用し、プロービングの実習を行い、アタッチメントレベル、付着歯肉幅の測定ができるようにする ○プラークの検査 ○オレリーのPCRについて ○歯肉縁下歯石の検査について
6	◎歯周病の検査と診断 3.咬合検査 4.X線写真による検査 5.口腔内カラー写真	○咬合検査について ○X線写真による検査について ○口腔内写真の撮影法、重要性について ○歯周基本治療の内容、流れ
7	◎歯周基本治療とは ◎口腔清掃指導 1.口腔清掃指導の重要性と歯科衛生士の役割 2.モチベーション 3.ブラッシングのテクニック指導 4.補助的清掃法とその指導法 5.口腔清掃指導の効果判定と失敗の対策	○口腔清掃指導における歯科衛生士の役割 ○モチベーションの重要性、その方法について ○各種ブラッシング方法の適応と注意点について ○各種補助的清掃方法の適応と注意点について ○口腔清掃指導の効果判定と磨きすぎについて
8	◎スケーリング・ルートプレーニング 1.スケーリングとルートプレーニングの意義と目的 2.スケーリングとルートプレーニングを行う時期 3.スケーリングとルートプレーニングを行う部位と検査法	○スケーリングとルートプレーニングの定義について、意義と目的 ○スケーリングとルートプレーニングを行う時期 ○歯肉縁上歯石の検査 ○歯肉縁下歯石の検査
9	◎スケーリング・ルートプレーニング 4.スケーリングとルートプレーニングに用いる器具と装置 5.スケーラー使用時の基本原理 6.スケーラーの研ぎ方 7.スケーリングとルートプレーニングの実際	○各種手用スケーラー ○ユニバーサルタイプ、グレイシータイプスケーラーについて ○超音波スケーラーについて ○スケーラー使用時の基本的注意事項 ○スケーラーの研ぎ方 ○スケーリングとルートプレーニングの実際 ○歯面研磨時の注意事項
10	◎歯周外科治療 1.歯周外科治療と歯科衛生士の役割 2.各種の歯周外科治療と使用器具	○歯周外科治療の目的と歯科衛生士の役割 ○ポケット搔爬術、新付着術、歯肉切除術について
11	◎歯周外科治療 2.各種の外科的歯周治療と使用器具	○フラップ手術、歯周形成手術について ○組織再生誘導法について
12	◎咬合性外傷に対する治療法 1.咬合調整 2.矯正治療 3.固定法 ◎メンテナンス・SPT 1.メンテナンス・SPTの	○咬合調整について ○暫間固定法、永久固定法、ナイトガードについて ○メンテナンス・SPTの実際

	重要性、違い 2.メンテナンス・SPTの方法 3.リコールシステム 4.メンテナンス・SPTにおける 歯科衛生士の役割	
13	◎歯周医学とは何か 1.歯周炎が全身に 与える影響 2.全身疾患による 歯周炎の影響 3.有病者に対する 歯周治療の配慮 ◎歯周治療におけるインプラント 1.インプラントとは何か 2.歯周炎患者に対する インプラント 3.インプラントメンテナンス	○糖尿病、心血管疾患、低体重児早産との関連 ○抗血栓薬、ペースメーカー、糖尿病患者に対する治療の実際 ○インプラントメンテナンスの方法

【科目名】		口腔外科学	【担当講師】	大竹 克也	
【年次・開講期】		2年次 前期	【時間】	26時間	【単位】 1単位
【授業概要】					
口腔外科に関する知識を修得し、単に歯や健康管理ではなく、より広く口腔全体の健康管理ができるようになることを目的とする					
【実務経験有】					
大竹歯科口腔外科クリニックを開設・院長（歯科医師）					
【到達目標】					
口腔領域の奇形や変形症、外傷、口腔粘膜疾患、歯に起因する化膿性炎症、顎関節疾患、顎骨内外に形成される嚢胞や腫瘍、唾液腺の疾患、血液疾患、口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群などに関する基礎知識を習得し、口腔外科臨床における歯科衛生士の役割を理解する					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 口腔外科 医歯薬出版					
【参考図書】					
医療従事者のためのカラーアトラス「口腔外科疾患」永末書店					
【授業方法】					
講義（教科書、スライド、プリント）					
【評価方法】					
全授業の終了後、記述及び国家試験と同じ形式で試験を行う 60点以上の者を合格とする					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	口腔外科の概要 顎・口腔領域の先天異常と発育異常①		・顎・口腔の役割を説明できるようにする ・顎・口腔領域の疾患を知る ・乳歯の早期萌出による障害を説明できるようにする ・歯の異常の種類について説明できるようにする ・小帯異常による障害を説明できるようにする		
2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常②		・口唇裂・口蓋裂の発生頻度、発生原因について説明できるようにする ・口唇裂・口蓋裂における歯科の役割について説明できるようにする ・顎の変形の種類を列挙できるようにする		
3	顎・口腔領域の損傷および機能障害		・軟組織障害の原因と症状を知る ・歯の損傷を分類し、それぞれの原因、症状、治療法を説明できるようにする ・顎骨骨折を分類し、それぞれの症状、治療法を説明できるようにする ・顎関節症を概説できるようにする ・顎関節脱臼を概説できるようにする		
4	口腔粘膜の病変①		・口腔粘膜のみられる病変所見を説明できるようにする ・口腔に原発する粘膜疾患を列挙できるようにする ・皮膚科疾患や内科疾患に伴う口腔粘膜疾患を列挙できるようにする		
5	口腔粘膜疾患②		・口腔粘膜疾患の病態を理解し、類似疾患との鑑別要点を列挙できるようにする ・歯科衛生士としてかわかる口腔粘膜疾患の診断と治療を説明できるようにする		
6	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患		・炎症性疾患の臨床症状を説明できるようにする ・消炎処置の内容を説明できるようにする ・原因および感染経路を説明できるようにする		
7	顎・口腔領域の嚢胞性疾患		・嚢胞の定義を説明できるようにする ・歯源性嚢胞と非歯源性嚢胞の分類を説明できるようにする ・嚢胞の好発部位および年齢、症状を説明できるようにする ・嚢胞のおおまかな治療法を説明できるようにする ・嚢胞の予後を説明できるようにする		
8	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患①		・腫瘍とは何かを説明できるようにする ・良性とは何か、悪性とは何かを説明できるようにする		

		・腫瘍の発生部位を説明できるようにする
9	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患②	・腫瘍の分類を説明できるようにする ・特に歯源性腫瘍あるいは非歯源性腫瘍とは何かを説明できるようにする ・腫瘍類似疾患について説明できるようにする
10	唾液腺疾患	・唾液腺の炎症疾患の種類を説明できるようにする ・唾液腺の炎症疾患の原因を説明できるようにする ・唾石症について説明できるようにする ・唾液腺腫瘍の主なものを説明できるようにする ・唾液腺腫瘍の好発部位を説明できるようにする
11	口腔領域の神経疾患	・三叉神経痛の臨床症状を説明できるようにする ・三叉神経麻痺の臨床症状を説明できるようにする ・顔面神経麻痺の臨床症状を説明できるようにする
12	口腔外科診療の実際①	・診察および検査の目的を理解し、基本、順序、記録法を説明できるようにする ・清潔と不潔を理解し、院内感染防止対策を説明できるようにする ・創傷の治癒過程を理解し、院内感染防止対策を説明できるようにする
13	口腔外科診療の実際② 口腔外科の臨床における 歯科衛生士のかかわり	・口腔外科小手術を理解し、必要な器材の準備と手術手順を説明できるようにする ・口腔インプラント手術を理解し接収できるようにする ・止血法を理解し、止血処置法を説明できるようにする ・縫合の目的を理解し、必要な器材の準備と縫合法および抜糸法を説明できるようにする ・問診から患者の情報を収集できるようになる ・術前、術後管理の意義と内容を理解する ・口腔外科手術時の業務を説明できるようにする ・手術患者へのプロフェッショナルケアの必要性を説明できるようにする ・診療室の環境整備を接収できるようにする

【科目名】		歯科補綴学		【担当講師】		伏嶋 陽一					
【年次・開講期】		2年次 前期		【時間】		26時間		【単位】		1単位	
【授業概要】											
歯科補綴学は、顎口腔機能について理解するとともに、障害がある場合に補綴装置によって機能、形態、審美を回復し維持するための診断、治療、術後管理法を学ぶことを目的とする。そのためには、チームアプローチによる歯科補綴治療が顎口腔系の形態と機能を回復することを理解し、口腔内に装着される補綴装置の種類と適応、口腔の衛生指導法を学ぶ。											
【実務経験有】											
ふせじま歯科医院開設・院長(歯科医師)											
【到達目標】											
1、歯科補綴学の意義、目的および歯科補綴治療の特徴について説明できるようにする。 2、歯科補綴治療に必要な用語を理解し、顎口腔系の機能を説明できるようにする。 3、クラウン、ブリッジ、全部床義歯、部分床義歯などの補綴装置の種類、特徴と適応について説明できるようにする。											
【教科書】											
歯科衛生士教本 歯科補綴 医歯薬出版											
【参考図書】											
【授業方法】											
講義											
【評価方法】											
全授業の終了後、記述式試験を行う。授業中に課す課題(レポート等)を全て提出していることを合否判定の条件とする。出席実績、授業態度、課題の評価により減点を科す場合もある。 合計得点(100点満点)の60点以上の者を合格とする。											
【授業計画】											
回		授業項目				授業内容					
1		◎歯科補綴学の意義と種類と適応 1.歯科補綴とは何かを知る 2.クラウンとその適応症を知る 3.ブリッジとその適応症を知る 4.全部床義歯とその適応症を知る 5.部分床義歯とその適応症を知る ◎歯科補綴治療の基礎知識 1.歯列弓の形態とその咬合関係 2.補綴歯科治療で重要な基準平面 3.顎口腔系の機能 4.咬合様式と顎運動				・ 歯科補綴治療の目的を言えるようにする ・ 被覆冠の種類を言えるようにする ・ 全部床義歯の構成要素を言えるようにする ・ 部分床義歯の構成要素を言えるようにする ・ 補綴物を固定性と可撤性に分類できるようにする ・ 補綴物を咬合圧の負担の仕方でも分類できるようにする ・ 歯科補綴治療において歯科医師から依頼される仕事 ・ 歯科補綴治療時の患者指導の概略を知る ・ 歯列、歯列弓とは何か説明できるようにする ・ 咬合彎曲について説明できるようにする ・ スピーの彎曲 ・ ウィルソンの彎曲 ・ モンソンの球面説 ・ 基準平面について説明できるようにする ・ 咬合平面 ・ フランクフルト平面 ・ カンベル平面 ・ 咀嚼、嚥下、発音機能について説明できるようにする ・ 下顎位について説明できるようにする ・ 咬頭嵌合位について説明できるようにする ・ 下顎安静位について説明できるようにする ・ 偏心位について説明できるようにし、作業側平衡側（非作業側）を理解する					

		・咬合様式について説明できるようにする ・フルバランسدオクルージョン ・犬歯誘導咬合 ・グループファンクション ・下顎の限界運動路を説明できるようにする - ボッセルトの図 - 蝶番運動 - ゴシックアーチ ・顎路・切歯路について説明できるようにする
2	◎歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療 1.歯の欠損に伴う口腔内の変化 2.歯の欠損に伴う、身体的障害、心理的問題、社会的な影響 3.補綴歯科治療に伴う合併症 4.顎関節とその異常	・歯列、咬合、口腔の変化が説明できるように ・咀嚼障害、嚥下障害、栄養障害、審美障害について説明できるようにする ・歯槽骨吸収、]顎堤の変化が説明できる ・顔貌の変化の説明 ・ADLやQOLへの影響を説明できる ・補綴治療の合併症についての説明ができるようにする ・顎関節について説明できるようにする ・顎関節症の類型分類を説明できるようにする
3	◎補綴歯科治療の実際 1.補綴歯科治療における検査、診断 ◎クラウン1 1.クラウンの目的を知る 2.クラウンの適応を知る 3.クラウンの分類を知る 4.クラウン治療のフローチャートを理解する1	・医療面接と検査についてを覚える ・口腔内、スタディモデル、顎関節、咬合検査を知る ・クラウンの目的を説明できるようにする ・クラウンの適応についてのケースについて説明できるようにする ・クラウンを分類できるようにする - 全部鑄造冠 - 前装鑄造冠 - 陶材とレジンの違いについて - ジャケット冠 - 歯冠継続歯 - 部分被覆冠 - 前歯部と臼歯部に分けて分類できるように ・クラウンの診査診断から装着術後管理までの概要を覚える - 支台築造の種類と目的 - 支台歯辺縁形態 - 印象材の種類と印象法
4	◎クラウン2 1.クラウンのフローチャートを理解する ◎ブリッジ1 1.ブリッジの構成を知る 2.ブリッジの分類を知る 3.ボンティックの分類を知る	・テンポラリークラウンの目的について説明できるようにする ・咬合記録材について説明できるようにする ・クラウンの試適時に必要なものを言えるようにする ・合着用セメントを分類し説明できるようにする ・クラウンの技工について理解する ・ブリッジの構成を説明できるようにする ・ブリッジを分類できるようにする ・ボンティックの分類ができるように
5	◎ブリッジ2 1.ボンティックの種類を知る 2.ブリッジのフローチャートを知る 3.装着後の注意	・ボンティックの形態と名称を説明できるように ・ブリッジとクラウンの支台歯形成の違いを説明できるようにする ・ろう着について理解する ・ボンティック部の清掃用具を挙げられるようにする
6	◎全部床義歯 1.無歯顎顎堤の各部の名称を知る 2.全部床義歯治療のフローチャートを知る	・無歯顎顎堤の各部の名称を説明できるように ・概形印象とその印象材について説明できる ・精密印象とその印象材について説明できる ・顎間関係の記録について概略を知る

	3.有床義歯の補修を知る	フェイスボウトランスファー ゴシックアーチ描記法 ・咬合採得を説明できるようにする ・ろう義歯試適の際の注意点を言えるようにする
7	◎部分床義歯1 1.部分床義歯の分類を知る 2.部分床義歯の構成を知る	・維持、支持、安定について説明できるように ・咬合圧による分類を言えるようにする ・部分床義歯の構成を説明できるようにする 維持装置 連結装置 義歯床 人工歯 レスト 等
8	◎部分床義歯2 1.部分床義歯治療の フローチャートを知る 2.部分床義歯の設計の概要を知る	・義歯の印象法を説明できるようにする ・義歯の咬合採得を説明できるようにする ・装着時の点検事項を言えるようにする ・装着時の患者への注意事項を言えるようにする
9	◎インプラント 1.インプラントとは 2.インプラントの基本構造 3.インプラント治療の流れ 4.プラークコントロールと メンテナンス	・補綴歯科治療での位置づけが説明できる ・インプラントの基本構造が説明できる ・術前診査と診断、インフォームドコンセントについて 説明できるようにする ・植立手術の1回法、2回法について説明できるようにする ・印象採得～上部構造装着までの説明ができるようにする ・メンテナンスについて説明できるようにする
10	◎補綴歯科治療に用いられる器材 1.支台築造と支台歯形成 2.印象採得用の器材 3.咬合採得用の器材 4.人工歯 ◎補綴歯科治療における歯科技工 1.クラウン・ブリッジの製作 2.有床義歯の製作 3.補綴装置の補修	・支台築造の意義を言えるようにする ・支台築造の種類を言えるようにする ・支台歯形成の治療内容を理解する ・トレーの種類とその特性を言えるようにする ・印象材の種類と使用器材を説明できるようにする ・咬合採得に使われる材料の特性と使用器材を説明できるようにする ・石膏の種類とその特性を説明できるように ・人工歯の材質と選択基準を説明できるように ・クラウン（全部鋳造冠）の製作の概略を理解 ・前装鋳造冠の製作の概略を理解 ・全部床義歯の製作の概略を理解 ・部分床義歯の製作の概略を理解 ・クラウンの補修を理解し説明できるように ・リベースとリライニングについて、相違とそれぞれの 術式を説明できるようにする
11	◎補綴歯科臨床における 歯科衛生士の役割 1.検査、診断時の業務 2.クラウン-ブリッジ治療時 3.全部床義歯治療時 4.部分床義歯治療時	・ゴシックアーチ、チェックバイトのなどの理解 ・支台築造ごとの治療内容と補助内容を説明できるようにする ・支台歯形成の補助内容を把握し説明できるようにする ・テンポラリークラウンの役目を説明できるようにする ・テンポラリークラウンの製作法を理解する ・テンポラリークラウンの製作に用いる材料、準備 する器材を説明できるようにする ・個歯・個人トレー印象法の流れの理解 ・コンタクトゲージの使用法と意義を理解する ・最終補綴装置装着の補助内容を説明できる ・余剰セメントの除去方法を把握する ・筋圧形成など、個人トレーを用いた印象法の流れを 説明できるようにする

		・咬合採得時の補助内容を説明できるように ・標準線の記入方法を把握する ・ろう義歯試適の治療内容把握 ・ろう義歯試適時の補助内容を説明できる ・義歯装着時の内容把握 ・義歯調整の補助内容を説明できる
12	◎患者指導1 1.クラウン-ブリッジ治療 2.全部床義歯治療 3.部分床義歯治療 4.インプラント治療	・治療前の患者指導について説明できる ・治療中の患者指導について説明できる ・治療後の患者指導について説明できる ・テンポラリークラウンについての患者指導が説明できる ・クラウンブリッジの装着時の患者指導ができる ・クラウンブリッジのメンテナンス時の患者指導ができる ・全部床義歯装着時の患者指導ができる ・全部床義歯のメンテナンス時の患者指導ができる ・部分床義歯装着時の患者指導ができる ・部分床義歯のメンテナンス時の患者指導ができる ・インプラント上部構造装着時の患者指導ができる ・インプラント装着患者のメンテナンス時の患者指導ができる
13	◎器材の管理 1.診療室の管理 2.器具器材別、滅菌消毒洗浄保管 3.技工物関連の管理 ◎まとめ 1.補綴歯科治療のまとめ	・スタンダードプリコーション ・補綴治療の特性を理解し、それに見合った診療室管理ができるように ・様々な器具器材の材質や特性を理解し、的確な滅菌消毒、管理ができること ・技工物の管理ができるように ・技工指示書の内容が理解できるように ・補綴歯科治療のまとめ

【科目名】		歯科矯正学	【担当講師】		齋藤 卓麻
【年次・開講期】		2年次 前期	【時間】		26時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
歯科矯正治療は、歯列と咬合の異常によって起こりうるあらゆる機能的、心理的障害の除去と予防を目的としている。このため、歯科矯正治療に携わるには、歯列や咬合の異常の原因、治療およびその予防法について習得する必要がある。また、歯科矯正臨床の現場における歯科衛生士の役割は多く、その内容も矯正装置装着時の口腔衛生指導・管理、口腔習癖の指導、矯正装置の使用に関する患者教育など特殊である。 本教科では、歯科矯正臨床の現場で必要となる基礎的知識と能力の習得を目的とする。					
【実務経験有】					
さいとう矯正歯科を開設・院長(歯科医師)					
【到達目標】					
1、歯列や咬合の異常の原因や成り立ちを理解する。 2、歯列や咬合の異常の予防法を理解し、その指導法を習得する。 3、歯列や咬合の異常の治療法を理解し、治療に使用する器材の取り扱いについて習得する。					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本「歯科矯正学」医歯薬出版					
【参考図書】					
与五沢矯正研究会「矯正臨床の基礎」クインテッセンス出版					
【授業方法】					
講義（教科書、プリント、スライド）・実習					
【評価方法】					
全授業終了後、記述式試験を行う。60点以上の者を合格とする。出席実績、授業態度により減点を科す場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	◎歯科矯正学概論 1.歯科矯正学とは何かを知る 2.不正咬合による生理的・心理的障害について知る 3.歯科矯正治療の目的とその必要性について知る 4.矯正臨床における歯科衛生士の役割について知る		・歯科矯正学の定義を言えるようにする ・不正咬合によってどんな障害が起こるかを説明できるようにする ・矯正治療の目的は、不正咬合によって起こる障害の除去であることを理解する ・矯正臨床における歯科衛生士の役割について説明できるようにする ・他の歯科診療における役割とは内容が異なることを理解する		
2	◎咬合 1.下顎位について知る 2.正常咬合とは何かについて知る 3.正常咬合成立の条件について知る 4.乳歯列期、混合歯列期における正常咬合について知る 5.歯科矯正治療のゴールとしての咬合について知る		・下顎位には顎頭位と咬合位があることを理解する ・中心咬合位の定義を言えるようにする ・正常咬合の定義を言えるようにする ・正常咬合成立の条件を理解する ・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期それぞれの時期での正常咬合について理解する ・歯科矯正治療のゴールとしての咬合について理解する		
3	◎不正咬合 1.個々の歯の位置異常について知る 2.歯列弓形態の異常について知る 3.上下歯列弓関係の異常について知る 4.不正咬合の分類について知る 5.不正咬合の原因について知る 6.不正咬合の予防について知る		・転位、傾斜、低位、高位、捻転、移転について説明できるようにする ・V字型歯列弓、鞍状歯列弓について説明できるようにする ・上顎前突、下顎前突、上下顎前突、犬歯低位唇側転位、開咬、叢生、切端咬合、過蓋咬合、正中離開、対称捻転について説明できるようにする		

		・Angleの分類について、図で説明できるようにする ・不正咬合の原因について理解する ・ディスクレパンシーについて説明できるようにする ・不正咬合の予防法にはどのようなものがあるかを理解する
4	◎口腔習癖 1.口腔習癖の種類と頻度について知る 2.口腔習癖の不正咬合への影響について知る 3.指しゃぶりについて知る 4.舌突出癖について知る 5.筋機能療法について知る 6.習癖除去装置について知る	・口腔習癖の種類について言えるようにする ・口腔習癖の不正咬合への影響について説明できるようにする ・指しゃぶりの発生頻度、原因、不正咬合への影響、歯科における指導と治療法について説明できるようにする ・舌突出癖の不正咬合への影響、治療法について理解する ・筋機能療法の実際について理解する ・習癖除去装置の効果と問題点を理解する
5	◎矯正力と歯の移動 1.器械力と機能力について知る 2.顎整形力について知る 3.至適矯正力について知る 4.歯の移動によって起こる組織変化について知る 5.歯の移動様式について知る ◎成長発育 1.頭部・顎・顔面の成長発育について知る 2.上顎と下顎の成長発育について知る 3.歯・歯列の成長発育について知る	・矯正力には器械力と機能力があることを理解する ・機械力、機能力それぞれを利用する矯正装置の種類を言えるようにする ・顎整形力とはどのようなものかを理解する ・臨床的に適正な矯正力について理解する ・歯の移動によって起こる組織変化について、圧迫側と牽引側それぞれに起こる変化を説明できるようにする ・傾斜移動、歯体移動、回転、圧下、挺出、トルクについて図を書いて説明できるようにする ・頭部・顎・顔面の成長発育について理解する ・差動成長について説明できるようにする ・上顎・下顎の成長時期、成長部位、成長方向の違いについて理解する ・唇顎口蓋裂の発生機序について理解する ・乳歯、永久歯の萌出時期について説明できるようにする ・歯・歯列の成長発育時期にみられる下記項目について説明できるようにする 霊長空隙 ターミナルプレーン 発育空隙 リーウェイスぺース アグリーダックリングステージ
6	◎矯正診断に関する知識 1.診断に必要な資料について知る 2.症例分析法について知る 3.模型分析について知る 4.頭部エックス線規格写真分析について知る 5.治療方針の立て方について知る	・診断に必要な以下の資料から何を知るかを理解する カルテ、問診票 顔面写真 口腔内写真 口腔模型 口腔内X線写真 顎関節X線写真 頭部X線規格写真 顎機能検査 ・模型分析で計測する項目について理解する ・頭部X線規格写真で計測する項目について理解する ・治療方針の立て方について理解する
7	◎矯正治療に使用する器材とその取り扱い 1.矯正治療に使用する器材とその取り扱いについて知る(講義)	・以下の矯正用器具の構造と使用法について説明できるようにする ワイヤーベンディングプライヤー
	◎矯正治療に使用する器材とその取り扱い 1.矯正治療に使用する器材とその取り扱いについて知る(実習)	ヤングプライヤー ツイードループベンディングプライヤー

8		ツィードアーチベンディングプライヤー バードビークプライヤー ライトワイヤープライヤー 結紮、歯冠離開用鉗子 ハウプライヤー ワインガートユーティリティプライヤー リガチャータイイングプライヤー ワイヤーカッター ワイヤーカッター ピンアンドリガチャーカッター ディスタルエンドカッター バンドフォーミングプライヤー バンドカンタリングプライヤー バンドやボンディング材の撤去用鉗子 バンドリムービングプライヤー ボンディング材撤去鉗子 その他の器具 バンドプッシャー リガチャーディレクター アーチフォーマー ブラケットポジショニングゲージ スポットウェルダー ・以下の矯正材料の使用法について説明できるようにする ワイヤー 弾線 アーチワイヤー クラスプ 唇側線 舌側弧線 リガチャーワイヤー セパレーティングワイヤー バンド材料 ブラケット チューブ スクリュー コイルスプリング 床材料(レジン) エラスティック エラスティックモジュール ボンディング材
9	◎矯正装置 1.可撤式装置と固定式装置について知る 2.各種矯正装置について知る	・可撤式装置と固定式装置の利点と欠点について説明できるようにする ・以下の矯正装置の構造と適応症について説明できるようにする 舌側弧線装置 マルチブラケット装置 顎間固定法 床矯正装置 機能的顎矯正装置 側方拡大装置 顎外固定装置
10	◎保定 1.保定について知る	・保定には自然保定と器械保定があることを理解する ・保定装置の種類、構造について理解する ・あと戻りの原因を説明できるようにする
	◎歯科矯正治療の実際 1.歯科矯正治療の開始時期を知る 2.乳歯列期の歯科矯正治療に	・早期治療の長所と短所について理解する ・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期それぞれの時期に

11	について知る 3.混合歯列期の歯科矯正治療について知る 4.永久歯列期の歯科矯正治療について知る 5.成人の歯科矯正治療について知る 6.唇顎口蓋裂の歯科矯正治療について知る 7.外科的矯正治療について知る	歯科矯正治療の対象となる不正咬合について理解する ・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期それぞれの時期の実際の歯科矯正治療について理解する ・成人の歯科矯正治療の特徴と限界について理解する ・歯周治療のための矯正治療、補綴前準備のための矯正治療について理解する ・唇顎口蓋裂の歯科矯正治療について理解する ・外科的矯正治療の適応症と術前、術後の矯正治療について理解する
12	◎歯科矯正における歯科衛生士の役割	
13	1.歯科矯正における歯科衛生士の役割について知る	・矯正歯科における以下の業務について理解する 口腔衛生指導管理 患者教育 刷掃指導、口腔衛生指導 間食指導、食事指導 予防措置 口腔機能の改善 指しゃぶり、舌突出癖の排除（筋機能療法） 咀嚼訓練、開口訓練 介補 チェアアシスタント ダイレクトボンディングブラケットの接着準備、補助 ボンディング材撤去後の歯面の研磨 アーチワイヤーの結紮、撤去 バンドへのブラケット、チューブの溶接、鑑着 セメント合着の準備、余剰セメントの除去 バンドやダイレクトボンディングブラケットの脱落チェック 歯冠離開、措置破損時の応急処置 顎機能検査機器などME機器の操作補助 矯正装置・保定装置などの取り扱い方の注意 診断の補助 口腔内写真・顔面写真の撮影 矯正装置の撤去の補助 その他 印象採得、石膏注入 X線写真撮影準備、現像、トレース、計測 石膏模型の製作 保定装置の研磨 事務管理

【科目名】		小児歯科学	【担当講師】		廣幡 智子
【年次・開講期】		2年次 前期	【時間】		26時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
小児歯科医療は病気に対する治療と予防にとどまらず、心身ともに健康な小児を支援するという保健的な目的を理解する。					
【実務経験有】					
田中歯科医院院長(歯科医師)					
【到達目標】					
1、発育過程と口腔の変化を理解する					
2、小児に対する診療補助及び予防業務を理解する					
3、国家試験出題基準の内容を理解し覚える					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本「小児歯科」医歯薬出版					
【参考図書】					
カラーアトラスハンドブック 小児歯科臨床ヒント集 クインテッセンス出版					
【授業方法】					
講義(教科書・プリント・パワーポイント等)					
【評価方法】					
全授業の終了後マークシートと記述試験を行う。60点以上の者を合格とする。					
出席実績、授業態度、授業中に出す課題(レポート等)の提出実績、内容により加点を課す場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	I 編 小児歯科診療の基礎知識 1章 小児歯科学概論 小児歯科学の定義と目的 を学び、人間とは健康とは 何かを理解する 5章 歯の発育とその異常(一部)		1.小児歯科とは ヘルマンの咬合発育段階 4.歯の萌出 5.歯の萌出異常		
2	2章 心身の発育 ・発育の概念・原則を理解し 発育状態を評価する ・言語、情動、運動機能および 摂食嚥下機能の発育を 理解する		1.発育の概念と分類 2.発達状態の評価 ・カウプ指数 ・ローレル指数 3.生理的年齢 ・骨年齢 ・萌出年齢 ・石灰化年齢		
3			4.器官の発達 ・Scamonの発育曲線 5.精神的発達 ・摂食嚥下機能の発達		
4	3章 小児の生理的特徴 ・小児のバイタルサインの特徴 と薬剤を理解する 4章 顔面頭蓋の発達 ・上下顎骨の発育・成長を 理解する		1.バイタルサインと生理的特徴 2.薬剤処置と薬物療法 Harnak法 1.脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化 ・上顎骨の発育 ・下顎骨の発育		
5	5章 歯の発育とその異常 ・乳歯、幼若永久歯の特徴		1.乳歯、幼若永久歯の特徴 2.歯の形成		
6	を理解する ・歯の形成異常、萌出異常 を理解する		3.歯の発育時期と形成異常 ・無菌症 ・エナメル質形成不全 ・ターナーの歯 ・中心結節 ・カラベリー結節 ・プロトスタイリッド ・臼後結節		
	6章 歯列、咬合の発育と異常		1.歯列、咬合の発育		

7	・ヘルマンの咬合発育段階を理解する ・歯列、咬合の発育と異常を理解する	・生理的感覚 ・ターミナルプレーン ・リーウェイスぺース 2.歯列、咬合の異常 ・咬合習癖 ・指しゃぶり、おしゃぶり
8	7章 小児の歯列的疾患 ・乳歯、幼若永久歯のう蝕の特徴を理解する	1.小児にみられるう蝕 ・乳歯のう蝕の特徴 ・幼若永久歯のう蝕の特徴
9	・小児の口腔粘膜や歯肉に現れる疾患を理解する	2.小児にみられる歯周疾患 ・不潔性歯周炎 ・抗けいれん剤による歯肉増殖症 3.小児の歯科的疾患 ・先天性歯 ・リガフェーデ病 ・ヘルペス性歯肉口内炎 ・アフタ性口内炎 ・麻疹、水痘 ・ヘルパンギーナ ・手足口病 ・カンジダ症 ・上皮真珠 ・歯肉膿瘍 ・ベドナーアフタ ・粘液のう胞 ・口唇ヘルペス ・上唇小帯異常 ・舌小帯異常 ・外胚葉異形成症 ・唇顎口蓋症 ・鎖骨頭蓋異骨症
10	II編 小児歯科診療 III編 小児歯科診療における歯科衛生士の役割 ・小児歯科治療体系の流れを理解し、小児歯科患者への対応や診療補助に必要なことを覚える ・障害児の特徴を理解し覚える	1.小児のX線撮影法 ・咬翼法 ・オルソパントモ 2.歯髄切断法 3.小児の外傷 4.咬合誘導 ・クラウンループ ・リンガルアーチ ・ナンスのホールディングアーチ ・可撤保隙装置 ・スペースリゲーター
11		5.治療時の対処法 ・オペラント条件付け ・レスポナント ・TSD法 ・モデリング法 ・HOM法 ・TEACCH法 6.障害児の歯科治療 ・精神発達遅延 ・脳性麻痺 ・自閉症 ・ダウン症
12.13	国家試験対策と復習	

【科目名】 高齢者・障害者歯科学		【担当講師】 谷越 康洋	
【年次・開講期】 2年次 前期	【時間】 26時間	【単位】 1単位	
【授業概要】 高齢者・障害者の特性とそのケアについて、摂食嚥下について学ぶ			
【実務経験有】 神流町歯科診療所院長（歯科医師）			
【到達目標】 1、高齢者・障害者の特性や関連法案について理解する 2、高齢者・障害者のケアについて理解する 3、摂食嚥下の基礎知識とリハビリテーション、それに伴う口腔ケアについて理解する 4、多職種連携や関連法律、制度について理解する			
【教科書】 歯科衛生士教本 高齢者歯科学 医歯薬出版 歯科衛生士教本 障害者歯科学 医歯薬出版			
【参考図書】			
【授業方法】 講義・実習			
【評価方法】 全授業の終了後、マークシートと記述による試験を行う。合計得点（100点満点）の60点 以上の者を合格とする。出席実績、授業態度、授業中に出す課題の内容により減点を科す場合がある			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
	高齢者歯科学総論 1.高齢社会と健康 高齢者の変化と疾患 1.全身的な変化 2.口腔・咽頭領域の加齢変化 3.精神・心理的变化	1.高齢社会と人口比率について理解する。 高齢者の歯科疾患の推移について理解する。 2.歯科疾患実態調査について理解する 1.老化による全身的な変化について理解する 2.老化による口腔咽頭領域の変化について理解する 3.老化による心理的变化を理解し、コミュニケーションの 留意点を理解する	
	高齢者の変化と疾患 4.バイタルサイン 5.高齢者に多い全身疾患 6.高齢者に特有な口腔疾患 7.血液検査 8.薬物服用	4.バイタルサインについて理解する。 5.様々な高齢者の全身疾患について理解する 6.高齢者の口腔内疾患について理解する 7.認知機能の評価スケールについて理解する。 8.血液検査値について理解する。 9.薬物に対する反応や相互作用について理解する。 口腔への副作用も理解する。	
	障害者の概念と疾患 1.障害の概念 2.歯科治療と関わりのある疾患 3.コミュニケーション 4.行動療法 5.体動のコントロール 6.薬物的行動調整法 7.特別な配慮が必要なケース	1.障害について概念や分類、スペシャルニーズ ノーマライゼーション、社会福祉等を理解する。 2.歯科診療において特別な支援が必要な疾患 について理解する。 3.疾患別によるコミュニケーション法の違いについて理解する。 4.様々な行動療法について理解する。 5.様々なコントロール法について理解する。 6.薬物による行動調整法について理解する。 7.疾患別に注意すべき事項を理解する。	
	高齢者の栄養・服用薬・口腔ケア 1.栄養評価 2.薬物服用 3.口腔ケアにおける高齢者の特徴 4.口腔ケア用品	1.栄養スクリーニングや評価について理解する。 栄養摂取ルートについて理解する 2.薬物に対する反応や相互作用について理解する。 口腔への副作用も理解する。 3.口腔ケアにおける高齢者の特徴や留意点に	

	5.有病高齢者の口腔ケア	ついて理解する。 4.セルフケア、介助ケア、アセスメントなどを理解する。 5.病態による口腔ケアの違いについて理解する。
	障害者の概念と疾患 1.障害の概念 2.歯科治療と関わりのある疾患	1.障害について概念や分類、スペシャルニーズ ノーマライゼーション、社会福祉等を理解する。 2.歯科診療において特別な支援が必要な疾患 について理解する。
	障害者の歯科治療とケア 1.コミュニケーション 2.行動療法 3.体動のコントロール 4.薬物的行動調整法 5.本人、介助者による口腔ケア 6.専門的口腔ケア 7.特別な配慮が必要なケース 8.リスク評価と医療安全管理 9.要介護高齢者の口腔ケア	1.疾患別によるコミュニケーション法の違いについて理解する。 2.様々な行動療法について理解する 3.様々なコントロール法について理解する。 4.薬物による行動調整法について理解する。 5.障害者のセルフケアについて理解する。 6.疾患による専門的ケアの違いについて理解する。 7.疾患別に注意すべき事項を理解する。 8.リスク評価や安全管理体制、感染予防等について理解する。 9.要介護高齢者の口腔ケアについて、違いや留意点について 理解する。
	摂食嚥下の基礎知識 1.正常嚥下と嚥下モデル 2.嚥下障害について 3.食事介助の留意点 4.スクリーニングテスト 5.画像診断 6.リハビリテーション 7.誤嚥と誤嚥性肺炎 8.実習 9.摂食機能療法	1.嚥下の5期モデル、4相モデルについて理解する。 2.5期モデルの各期での嚥下障害の発現について理解する。 3.食事介助について、嚥下モデルを意識しながら、 簡単な実習を通して理解する。 4.各種スクリーニングテストについて理解する 5.V E と V F について理解する 6.障害分類や高齢者のリハビリの問題点について理解する。 7.嚥下訓練の間接法と直接法について理解する。 トラブル時の対応について理解する。 8.スクリーニングテスト、リハビリテーション について実習を行い理解を深める 9.摂食介助法や機能訓練法について理解する。
	高齢者、障害者の口腔ケア 1.口腔ケア用品 2.口腔ケアにおける高齢者の特徴 3.有病高齢者の口腔ケア 4.要介護高齢者の口腔ケア 5.障害者本人、介助者による 口腔ケア 6.専門的口腔ケア	1.口腔ケアにおける高齢者の特徴や留意点について理解する。 2.セルフケア、介助ケア、アセスメントなどを理解する。 3.病態による口腔ケアの違いについて理解する。 4.要介護高齢者の口腔ケアについて、違いや 留意点について理解する。 5.障害者のセルフケアについて理解する。 6.疾患による専門的ケアの違いについて理解する。 1.栄養スクリーニングや評価について理解する。
	栄養管理と多職種連携 1.栄養評価 2.N S T と多職種連携	栄養摂取ルートについて理解する 2.栄養管理法と小児の栄養管理について理解する。 3.多職種の役割について理解する 4.多職種連携における歯科衛生士の役割について理解する。 5.N S T など多職種連携について理解する
	高齢者、障害者の生活評価 1.生活の評価 2.高齢者にかかわる法制度 3.介護保険制度について 4.高齢者の居住場所 5.高齢者の居住場所と設備の特徴 6.地域包括ケアシステムについて	1.ADL、BDR、QOL等の評価指標について理解する。 2.老人保健法と近年の医療制度改革について理解する。 3.介護保険について理解する 4.高齢者の居住する場所を規定している要件を理解する。 5.高齢者施設、介護保険施設の種類と特徴、違いについて理解する。 6.地域包括ケアシステムについて理解する

【科目名】		歯科予防処置1(講義)		【担当講師】		一場 香奈	
【年次・開講期】		1年次・通年		【時間】		48時間	
【単位】		2単位					
【授業概要】							
歯科予防処置論の概念を理解するために、歯牙・歯周組織に関する基礎的知識を習得する							
【到達目標】							
歯科予防処置の定義と内容を説明する							
歯周組織の名称が列挙できる							
歯肉の正常像を説明できる							
歯の付着物、沈着物の性質を説明できる							
歯周病の発症と進行を説明できる							
歯周診査用器材を列挙できる							
手用スケーラーの種類と特徴を説明できる							
手用スケーラーの基本操作ができる							
マネキンの取り扱いを理解し、操作できる							
マネキンで部位別にスケーラー操作ができる							
探針の特徴と使用を理解する							
プローブの特徴と使用を理解する							
超音波スケーラーの原理と特徴を理解できる							
エアースケーラーの原理と特徴を理解できる							
歯面研磨の目的や器具、操作法について理解する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置(医歯薬出版)							
【参考図書】							
最新歯科衛生士教本 歯周病学 医歯薬出版							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全講義終了後 筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。							
出席実績、授業態度、提出物等により総合的に判断する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科予防処置業務の理解			・歯科予防処置業務内容を学ぶ ・歯科予防処置の定義と意義を説明する			
2～5	歯・口腔の状態把握			・歯・歯周組織の名称を理解する ・健康歯肉の特徴、病的歯肉の変化を説明する ・プラーク、歯石について理解する ・その他付着物、沈着物の違いを説明する			
6～8	歯周疾患についての理解			・歯周組織の肉眼的変化を説明する ・ポケットの形成、歯槽骨吸収を理解する ・根分岐部病変を理解する			
9・10	歯石除去に用いる器材			・歯周診査用器材を説明する ・手用スケーラー(5つ)の種類、特徴、適応症について具体的に述べる			
11	シッケルタイプスケーラーの操作(演習)			・シッケルスケーラーの操作4原則、把持、運動、固定を応用できる			
12	ミラーの目的と使用法 (ミラーの使用法の演習)			・ミラーの役割、把持、固定法を説明する			
13	マネキンの取り扱い			・マネキン取扱い、MA、HR、術者位置を応用する			
14	マネキンでのスケーラー操作			・マネキン上でシッケルスケーラーによる部位別除石を理解する			

15	探針の特徴と使用法 (探針の使用法の演習)	探針の種類、使用目的、把持、使用時の注意を説明する
16.17	プローブの特徴と使用法	・プロービングによって得られる情報を述べる ・ポケット測定部位、測定時の注意事項を応用する
18	チェアーユニットの取り扱い	・チェアーユニットの各名称、使用法、注意点を説明する
19	医療現場に相応しい身支度	・実習時の身支度を知る
20.21	超音波スケーラーの知識と基本的操作	・超音波スケーラーの原理と特徴を具体的に述べる
22	エアースケーラーの知識と基本的操作	・エアースケーラーの原理と特徴を具体的に述べる
23	バキューム操作(演習)	・バキュームの挿入法、注意点を応用する
24	歯面研磨の知識と基本的操作	・歯面研磨の種類、目的、注意事項について具体的に述べる ・研磨剤の所要条件、主要成分を述べる

【科目名】		歯科予防処置論1(実習・実技)		【担当講師】		松原 香織 一場 香奈					
【年次・開講期】		1年次・通年		【時間】		60時間		【単位】		2単位	
【授業概要】											
予防処置法の使用器具の取り扱いと操作の基本を理解するために必要な技術を身につける											
【到達目標】											
手用スケーラーの基本的操作ができる											
マネキンの取り扱いを理解し、操作できる											
マネキンで部位別にスケーラー操作ができる											
超音波スケーラーの正しい操作ができる											
歯面研磨の操作ができる											
【教科書】											
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)											
【参考図書】											
最新歯科衛生士教本 歯周病学(医歯薬出版)											
【授業方法】											
実習											
【評価方法】											
実技試験											
マネキン上でスケーラー操作を可否の評価とする											
【授業計画】											
回	授業項目				授業内容						
1～4	シックルタイプスケーラー操作法①				石膏棒を用いて						
5	シックルタイプスケーラー操作法②				顎模型を用いて						
6	シックルタイプスケーラー操作法③				マネキン模型実習(下顎前歯部)						
7	シックルタイプスケーラー操作法④				マネキン模型実習(上顎前歯部)						
8	シックルタイプスケーラー操作法⑤				マネキン模型実習(上顎左側臼歯部)						
9	シックルタイプスケーラー操作法⑥				マネキン模型実習(上顎右側臼歯部)						
10	シックルタイプスケーラー操作法⑦				マネキン模型実習(下顎左側臼歯部)						
11	シックルタイプスケーラー操作法⑧				マネキン模型実習(下顎右側臼歯部)						
12・13	シックルタイプスケーラー操作法⑨				マネキン模型実習(全顎)						
14	探針操作法				マネキン模型実習(全顎)						
15	プローブ操作法①				マネキン模型実習(上顎)						
16	プローブ操作法②				マネキン模型実習(下顎)						
17	プローブ操作法③				マネキン模型実習(全顎)						
18・19	超音波スケーラー操作法①				マネキン模型ユニット(上下前歯部)実習						
20	超音波スケーラー操作法②				マネキン模型ユニット(上下顎臼歯部)実習						
21・22	超音波スケーラー操作法③				マネキン模型ユニット(全顎)実習						

23	歯面研磨操作法①	マネキン模型ユニット(上下前歯部)実習
24	歯面研磨操作法②	マネキン模型ユニット(上下顎臼歯部)実習
25・26	歯面研磨操作法③	マネキン模型ユニット(全顎)実習
27・28	超音波スケーラー・歯面研磨の 操作法	マネキン模型ユニット(全顎)実習
29・30	相互実習①	ユニット実習(プロービング・スケーリング・歯面研磨)

【科目名】		歯科予防処置2(講義)		【担当講師】		松原 香織	
【年次・開講期】		2年次 通年		【時間】		24時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
う蝕予防処置に応用される薬物や材料・器具について正しい知識を身につける							
【実務経験有】							
歯科衛生士の臨床経験をもとに授業を展開する							
【到達目標】							
う蝕について理解する							
う蝕予防処置について理解する							
薬物や材料について、正しい知識を身につける							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置(医歯薬出版)							
最新衛生士教本 保健生態学(医歯薬出版)							
【参考図書】							
抗菌薬・殺菌薬とフッ化物(医歯薬出版)							
フッ化物応用と健康(口腔保健協会)							
感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄(医歯薬出版)							
【授業方法】							
講義(教科書、プリント、スライド)							
【評価方法】							
全授業および実習終了後、筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。							
授業態度、課題(レポート)の提出内容についても、成績に含む。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	齲蝕の疫学			う蝕の疫学的特性について 「健康日本21」ヘルスプロモーションについて 歯科衛生士が行うう蝕予防処置法について			
	う蝕予防法①			う蝕発生のメカニズム・要因について う蝕の予防法			
2	う蝕の予防②			う蝕活動性試験 リスク分類の特徴			
	う蝕の予防③			唾液の作用について リスク診断について			
3	う蝕予防法④			第1・2・3次予防 う蝕発生要因に対する予防法			
	ステファンカーブ			ショ糖・キシリトールガム摂取後のプラークpH変化について調べる			
4	フッ化物によるう蝕予防			フッ素の基礎知識 フッ素の代謝について フッ素の毒性・安全性について			
5	フッ化物応用によるう蝕予防方法①			日本及び世界のフッ化物応用について 卵を利用したフッ化物応用実験			
	フッ化物応用によるう蝕予防方法②			フッ化物歯面塗布 フッ化ナトリウム リン酸酸性フッ化ナトリウム フッ化第1スズ			

		歯面塗布法の種類と術式について
6	フッ化物応用によるう蝕予防方法③	フッ化物洗口 フッ化物配合歯磨剤 水道水・食品へのフッ化物添加
7	フッ化物応用によるう蝕予防方法④	ライフステージに応じたフッ化物応用法 フッ化物の集団応用
8	フッ化物量の算出法	安全量・悪心嘔吐発現フッ化物量の算出法
	塗銀法の応用	フッ化ジアミン銀の適応と禁忌 フッ化ジアミン銀塗布法の術式 汚染時の対応について
9	小窩裂溝填塞の応用	小窩裂溝填塞法の適応と禁忌 小窩裂溝填塞法に使用する器具・機材について ラバーダム防湿について
10	PMTc	PMTcとは PMTcツール・術式について フッ化物入りペーストの種類・特徴について
11	歯科領域の インфекションコントロール	ユニバーサルプレコーションとは 感染リスクと対策のレベル 滅菌・消毒・洗浄について 医療従事者の感染予防対策について
12	シャープニング	シャープニングの目的と必要性を理解する 使用器具と研ぎ方の原則および、鋭利度判定について学ぶ シックル・キュレットスケーラーの研磨方法を修得する
	キュレットスケーラー	キュレットの形態や使用目的について理解する グレイシータイプ、ユニバーサルタイプキュレット グレイシータイプキュレットを用いた歯石除去の基本操作を学ぶ キュレットの使用法、キュレット使用上の注意

【科目名】 歯科予防処置2(実習・実技)		【担当講師】 松原 香織 一場 香奈	
【年次・開講期】 2年次 通年	【時間】 60時間	【単位】 2単位	
【授業概要】 齲蝕予防法の基礎知識に基づき、齲蝕予防処置業務における歯科衛生過程を理解したうえで、フッ化物応用法・小窩裂溝填塞法・齲蝕活動性試験等の術式を習得し、術前、術後の指導ができるようにする。 また、フッ素洗口法の指導ができるようにする。			
【実務経験有】 歯科衛生士の臨床経験をもとに授業を展開する			
【到達目標】 う蝕予防処置法の種類および術式について理解する。 各う蝕予防処置に必要な薬液・材料について理解するとともに、準備ができる。 正確な手技を身につける。 ライフステージにあったう蝕予防処置前後に必要な患者指導ができる。			
【教科書】 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置（医歯薬出版） 最新衛生士教本 保健生態学（医歯薬出版）			
【参考図書】			
【授業方法】 実習			
【評価方法】 実習態度および姿勢 模型実習および相互実習で、専任教員が技術評価する			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	カリエスリスク診断①	口腔内の観察 D M F T 食事回数・フッ化物応用調査 う蝕活動性試験 デントカルト S M / L B デントバフストリップ 唾液量検査 レーダーチャートの作成	
2	カリエスリスク診断②	カリエスリスク診断 予防プログラムの作成	
3	フッ化物歯面塗布法実習①	綿球法（相互実習） N a F フッ化物量の算出	
4	フッ化物歯面塗布法実習②	綿球法（相互実習） A P F ゼリー フッ化物量の算出	
5	フッ化物歯面塗布法実習②	簡易法（相互実習） フッ化物量の算出	
6	小窩裂溝填塞実習	小窩裂溝填塞法（模型実習）	
7	P M T C ②	P M T C 実習（模型実習）	

8・9	P M T C ③	P M T C 実習（相互実習）
10	塗銀法実習	塗銀法（模型実習） フッ化ジアミン銀の汚染時の対応法
	集団応用実習	フッ化物洗口法・フッ化物配合歯磨剤の応用法について
11	カリエスリスク診断評価	予防プログラムの評価・改善
12・13	相互実習①	頭髮、白衣等の身支度を整える
14・15	相互実習②	プロービング・歯石除去・歯面研磨（上顎） 手用スケーラー
16・17	相互実習③	プロービング・歯石除去・歯面研磨（下顎） 手用スケーラー
18・19	相互実習④	プロービング・歯石除去・歯面研磨（全顎） 手用スケーラー
20・21	相互実習⑤	プロービング・歯石除去・歯面研磨（上顎） 超音波スケーラー
22・23	相互実習⑥	プロービング・歯石除去・歯面研磨（下顎） スケーリング（超音波スケーラー）
24・25	相互実習⑦	プロービング・歯石除去・歯面研磨（全顎） スケーリング（超音波スケーラー） 印象採得（片顎）
26～ 30	患者実習① 患者実習②	口腔内診査 印象採得（片顎） プロービング スケーリング（手用スケーラー、超音波スケーラー） 歯面研磨 口腔内診査 印象採得（全顎） プロービング スケーリング（手用スケーラー、超音波スケーラー） 歯面研磨

【科目名】		歯科予防処置 3		【担当講師】		松原 香織	
【年次・開講期】		3年次・後期		【時間】		24時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
臨地・臨床実習修了時に得た知識や技術と座学で学んだ基礎知識をリンクするために歯科予防処置全般を総復習する							
【実務経験有】							
歯科衛生士の臨床経験をもとに授業を展開する							
【到達目標】							
1. 歯科予防処置についての専門的知識と技術や態度を修得する							
2. 歯周病の基本的知識を理解する							
3. う蝕予防の目的と内容を理解する							
4. 薬剤や材料を適切に取り扱える知識を修得する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置（医歯薬出版）							
最新歯科衛生士教本 歯周治療（医歯薬出版）							
最新歯科衛生士教本 保健生態学（医歯薬出版）							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。							
出席実績、授業態度も評価する場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科予防処置の概要			歯科予防処置の内容、対象者の把握			
2	口腔の基礎知識			正常な口腔、歯周組織、歯冠と歯根の形態、口腔の機能 口腔内の付着・沈着物、プラーク、歯石、歯周病			
3	歯周病の基礎知識			生活習慣の把握、歯周病と全身疾患の関連性			
4	歯周診査器具			歯や歯周組織の検査法、使用器具 プロービング、動揺度、コンタクト検査			
5	歯石除去法			手用スケーラー、超音波スケーラー、エアースケーラーの特徴と操作法 術者位置、			
6	歯面研磨法			使用器具、器械、材料の種類、操作方法			
7	う蝕の基礎知識			う蝕と生活習慣の関連、全身疾患の関連、安全性			
8	フッ化物の応用			薬剤の種類、取扱い事項、塗布の分類と術式、注意事項 フッ化物の種類、使用法			
9	小窩裂溝填塞法			填塞材の種類や特徴、適応症、術式、注意事項			
10	シャープニング			使用器具、操作法			
11	う蝕のリスク評価			う蝕の活動性、う蝕活動性試験			
12	総まとめ			歯科予防処置全般の総復習			

【科目名】		歯科保健指導論1		【担当講師】		設楽 雅枝	
【年次・開講期】		1年次・通年		【時間】		52時間	
【単位】		2単位					
【授業概要】							
・歯科の二大疾患であるう蝕と歯周疾患の予防は、個人が毎日自主的に行うことにより効果があるが、自分の口腔内に関心を持っていない者も多くいるのが、現状である。そのような人に対して、口腔の健康への関心を高め、健康管理ができる方向に援助できるよう、基礎知識と技術を学ぶ。							
【到達目標】							
1.歯科保健指導の目的を理解する。 2.口腔の正常像を理解する。 3.歯ブラシの所要条件と選択基準がわかり、各種ブラッシング法が実践できる。 4.歯口清掃の評価と各指標・指数を理解している。 5.各種補助清掃道具の種類、使用方法を理解する。							
【教科書】							
新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義形式(教科書、プリント、スライド、DVD)・実習							
【評価方法】							
筆記試験の評価点により総合的に判断する 定期試験100点満点中 60点以上で合格 出席態度(実習態度)・実習レポート							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1～4	歯科保健指導とは ・歯科保健指導と保健教育 ・保健行動 ・指導、助言の方法			・歯科保健指導の意義・目的を理解する。			
5.6	口腔保健正常像の理解			・口腔周囲組織の正常な状態を理解する。			
7	初期病変の理解			・う蝕や病変の初期病変の状態を理解する。			
8.9	歯ブラシの基礎知識			・歯ブラシの歴史、各部の名称や、形態などを理解する。			
10.11	歯ブラシの種類・歯磨きの方法 口腔内の汚れについて			・対象別の歯ブラシの特徴を理解し、個人に合った歯ブラシを選択できるようにする。 ・口腔内の付着物・沈着物の特徴や除去方法を理解する。			
12.13	歯ブラシの害・歯磨剤について			・歯磨きにおける偽害作用の症状や、歯磨剤の偽害作用の問題点・解決策を理解する。			
14.15	染め出し剤について			・染めだし剤の種類・所要条件・染めだし方法・手順を理解する。			
16	染め出し実習			・いろいろな種類の染めだし剤を実際に口腔内で体験し、色の違いや染色状況を習得する。			
17.18	毛先磨き実技実習①			・歯ブラシの毛先を使用した磨き方の種類と方法を習得する。			
19.20	脇腹磨き実技実習②			・歯ブラシの脇腹を使用した磨き方の種類と方法を習得する。			
21	補助清掃用具について			・各種補助清掃用具の種類・使用方法・特徴を理解し、状態にあった清掃用具を選択し、指導方法を習得する。			
22.23	汚れの表現方法①			・口腔清掃指数のオレリー、OHI、OHI-Sなどの指数化を習得する。			
24	汚れの表現方法②			・歯周疾患の指標について習得する。			
25.26	染め出し実習			・相互実習で染めだしを行い、PCRをとり問題部分に対してブラッシング指導の方法を考える。			

【科目名】		歯科保健指導論2		【担当講師】		加藤 よしみ	
【年次・開講期】		2年次 前期		【時間】		78時間	
【単位】		3単位					
【授業概要】							
個人（集団）を対象とした歯科保健指導を実践できるよう、ライフステージごとのセルフケア・プロフェッショナルケアの方法を専門的な立場から支援・助言ができるように、知識、技術、態度を学ぶ。							
【実務経験有】							
歯科衛生士の臨床経験をもとに授業を展開する							
【到達目標】							
1.集団、個人などを対象に合わせた口腔衛生指導やメンテナンス管理方法を理解する。 2.地域歯科保健指導における集団指導の展開方法を理解する。							
【教科書】							
最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
筆記試験の評価点により総合的に判断する。 評価は100点満点で60点以上を合格とする。 出席態度（実習態度）、実習レポートの提出							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1.2	情報収集の方法			保健指導をするうえで患者の情報収集の重要性を理解する。			
3	スタディモデルについて			スタディモデルから読み取れる情報や活用方法について			
4	口腔内写真について			口腔内写真から読み取れる情報や活用方法について			
5	問題点の抽出と分析			口腔内写真・スタディモデルを用い問題点の抽出と分析を行い、問題点に対する解決策を考える。			
6～8	成人の口腔保健管理			1年生を患者とする症例検討実習を行い、実際の指導法を学ぶ。（情報収集・考察・指導案の計画・実施）			
9	歯科保健指導論			口腔保健における歯科衛生士の役割を理解する。			
10.11	対象別保健指導①			妊産婦期の歯科保健行動を理解する。			
12～14	対象別保健指導②			新生児期・乳幼児期の歯科保健行動を理解する。			
15	対象別保健指導③			学齢期の歯科保健行動を理解する。			
16	対象別保健指導④			青年期の歯科保健行動を理解する。			

17	対象別保健指導⑤	成人期の歯科保健行動を理解する。
18.19	対象別保健指導⑥	高齢期の歯科保健行動を理解する。
20	対象別保健指導⑦	有病者の歯科保健行動を理解する。
21	インプラント装着者への メンテナンス	インプラント体の構造と、メンテナンスの方法を理解する。
22.23	音波電動歯ブラシについて	音波電動歯ブラシの特徴を理解し、患者さんに使用方法の説明ができる。
24	健康教育について	地域歯科保健の場における歯科衛生士の役割を知る。
25	指導用媒体の種類	個人・集団に指導する際の媒体について学ぶ。
26	集団への指導法	集団の特性を理解し、具体的な指導法を学ぶ。
27.28	幼児への口腔保健教育活動 (保育所歯科刷掃指導実習)	幼児、保護者への口腔保健教育と保育士、教員等への 支援内容を理解する。
29	情報の収集と整理法	対象集団へ、適切な情報を提供するためにも、 正しい情報の収集のやりかた、その情報をどのように 活用していくか理解する。
30	対象把握の目的	集団指導を行う場合、対象とそれを取り巻く環境（生活背景） や対象者の状況を把握する必要があることを理解する。
31	保育所における集団指導	実習に備えて、役割分担、指導目標と指導内容の検討、 指導内容の決定をおこなう。
32~37	紙芝居・ペープサート（媒体） 等の作製と活用法	紙芝居・ペープサートの作製をとおして、活用法・話法を学ぶ。
38	保護者向けパンフレット作製	対象集団・年齢にあったテーマでパンフレットを作製。
39	ご褒美のメダル作製	対象集団にあったテーマでご褒美メダルを作製。

【科目名】 歯科保健指導論2-Ⅰ		【担当講師】 大美賀 由美子	
【年次・開講期】 2年次 前期	【時間】 16時間	【単位】 1単位	
【授業概要】 ライフステージ別の食事摂取基準や食生活の特徴と栄養について学ぶ			
【実務経験有】 病院や市役所で管理栄養士として実務			
【到達目標】 国家試験合格のための知識を蓄積する			
【教科書】 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版			
【参考図書】 基礎栄養学（南山堂） 日本人の食事摂取基準（第一出版） 食品成分表 本表編・資料編			
【授業方法】 講義			
【評価方法】 前期、後期の期末、マークシート試験を実施。 60点以上が合格。不合格者は再試験。			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	食事摂取基準	日本人の食事摂取基準 推定エネルギー必要量 基礎代謝 栄養素の5つの指標	
2	妊産婦期	妊産婦期の一般的特徴 妊産婦期の食事摂取基準 食生活指導	
3	新生児期・乳幼児期	新生児期・乳児期の一般的特徴 新生児期・乳児期の食事摂取基準 離乳期の食生活指導	
4	幼児期・学齢期	幼児期・学齢期の一般的特徴 幼児期・学齢期の食事摂取基準 食生活指導、食育	
5	青年期・成人期	青年期・成人期の一般的特徴 青年期・成人期の食事摂取基準 食生活指導 成人期の肥満と生活習慣病	
6	老年期・要介護高齢者・障害者	老年期・要介護高齢者・障害者の一般的特徴 老年期の食事摂取基準 それぞれの食生活の特徴と栄養	
7	食生活と健康	国民の健康と栄養の現状 望ましい食生活 食事バランスガイド	
8	食べ方と健康	食品の成分と分類 食品成分表 食べ物の物性	

【科目名】	歯科保健指導論 3		【担当講師】	設楽雅枝 加藤よしみ	
【年次・開講期】	3 年次・後期		【時間】	20時間	
【単位】			【単位】	1 単位	
【授業概要】					
講義やグループワークを中心に歯科衛生過程の思考とプロセスを学び、それに基づいた 歯科衛生介入ができるように症例検討などを通して学んでいく。					
【実務経験有】					
歯科衛生士の臨床経験をもとに授業を展開する					
【到達目標】					
1. 歯科衛生過程に基づいた情報収集、ケア計画立案を行い対象者に合わせた介入ができる。 2. 計画内容及び介入について、評価・検討ができる。					
【教科書】					
最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）					
【参考図書】					
・よくわかる 歯科衛生過程（医歯薬出版）・事例でわかる 歯科衛生過程（医歯薬出版）					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で 試験を行う。合計得点の 6 0 % 以上の得点で合格とする。 出席実績、授業態度も評価する場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	歯科衛生士過程とは		歯科衛生士過程を学ぶ意味		
2	歯科衛生過程の基礎		歯科衛生過程の思考とプロセス		
3・4	歯科衛生過程の進め方		・アセスメント・歯科衛生診断・歯科衛生計画立案・歯科衛生介入 ・歯科衛生評価・書面化について		
5・6	歯科衛生過程の応用		症例から考える歯科衛生過程の実践方法 （グループワーク・発表）		
7・8	義歯安定剤、洗浄剤について		臨床で使用されている材料の特徴や効能について習得する。		
9・10	100%歯磨き		歯ブラシ、補助清掃道具を使用し磨き残しの部分にに対して、適切な道具を 選択し使用する。		

【科目名】		歯科診療補助論1(講義)		【担当講師】		渡辺 昌明					
【年次・開講期】		1年次・通年		【時間】		30時間		【単位】		1単位	
【授業概要】											
歯科診療の処置内容を具体的に理解し、前準備と診療の流れにそった、使用器材の受け渡し、患者対応、処置後の患者指導、器材の後始末などの知識・技術を習得する。											
【到達目標】											
1.診療室の管理について理解する。 2.各種歯科材料の基本的性質と取扱い方を理解する 3.歯科診療の補助を理解する 4.感染予防のための滅菌・消毒の必要性を理解する											
【教科書】											
最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本「歯科材料」 医歯薬出版											
【参考図書】											
【授業方法】											
講義											
【評価方法】											
全講義終了後 筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。 出席実績、授業態度、提出物等により総合的に判断する。											
【授業計画】											
回		授業項目				授業内容					
1		歯科診療補助論 歯科診療室の基礎知識				歯科衛生士の業務と歯科診療補助 歯科診療室の環境、構造・設備 歯科用ユニット					
2		歯科材料の種類と特性				歯科材料の基礎知識 歯科材料の所要性質と取扱い					
3～8		歯科器材・機器の種類と特性				(1) 歯科衛生にかかわる材料 歯面研磨剤 小窩裂溝填塞材 口腔清掃用具					
						(2) 印象材 種類と用途 アルジネート、寒天、ゴム印象材 組成と特徴					
						(3) 模型用材料 石膏の種類と用途 一般的性質と取扱い					
						(4) 合着材・接着剤 種類と用途 カルボキシレート、ガラスアイオノマー、レジンセメント 一般的性質と取扱い					
						(5) 成形修復材 種類と用途 コンポジットレジン、ガラスアイオノマー 一般的性質と取扱い					
						(6) 仮封材、暫間修復材と仮着用セメント 種類と用途					
9		医療安全と感染予防				(7) その他の歯科材料 感染症の概念と予防対策 手指消毒 滅菌と消毒					

		医療廃棄物の取扱い
10～12	歯科診療所における患者対応の基本	受診の流れ 共同動作 ポジショニング、ライティング 器具の受け渡し、フォーハンドテクニック
		スリーウェイシリンジテクニック バキュームテクニック
		歯科領域に必要な臨床検査 画像検査 口腔内写真撮影
13	歯科衛生士がかかわる医科疾患患者	主な全身疾患とその対応 代謝・内分泌、血液、呼吸器疾患 消化器、腎・泌尿器、循環器疾患疾患
14	周術期における歯科診療の補助	病態の把握 口腔機能管理と歯科治療への対応
15	歯科訪問診療における対応	訪問歯科診療の補助とその流れ ターミナルケアへのかかわり

【科目名】 歯科診療補助論1(実習・実技)		【担当講師】 設楽 雅枝	
【年次・開講期】 1年次・通年	【時間】 30時間	【単位】 1単位	
【授業概要】 歯科診療補助の業務範囲について理解します。また、患者様はじめスタッフとのコミュニケーションを図るためには基本的な作法を理解し、身に着けることが大切です。 受付での窓口対応や電話対応を学び、具体的状況を設定した演習で適切に対応できる能力を養います。 さらに、感染予防や廃棄物の処理方法など、診療室の医療安全管理について、演習を取り入れ学習します。 各歯科材料の基礎知識を認識し、取り扱い方法やその留意点を理解します。 また、各診療内容に沿った共同動作の工夫により効率のよい歯科診療補助を習得します。			
【到達目標】 歯科診療の流れを理解し、歯科衛生士による補助、介助の重要性を理解する。 歯科診療補助の概要を理解する。 診療室における医療安全管理および消毒・滅菌法を修得する。 受付の事務的な業務を理解し、薬品、物品などの管理法を修得する。 歯科用ユニットを操作し、診療を安全に行う準備ができる。 共同動作を安全に行うことができる。 受付対応の基礎を理解し、患者様に誠意ある対応法を修得する。			
【教科書】 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」医歯薬出版 イラストで楽しく学ぶ デンタルオフィス入門 新人さんのためのTextBook 第2版(医歯薬出版)			
【参考図書】 ポイントを押さえてスキルアップ チェアサイドのアシスタントワーク(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「歯科材料」医歯薬出版			
【授業方法】 実習			
【評価方法】 レポート提出、受講・実習態度など			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	診療用器材の取扱い	診療室の環境・設備を整えられる 歯科用ユニットの取扱い・管理ができる	
2・3	主要歯科材料の取扱い	歯科用セメントの取扱いができるよう技能を修得する 合着材の取扱い・練和ができる 仮封材の取扱い・練和ができる	
4・5		印象材の取扱いができる 印象採得の方法・手順を実施することができる 歯科用石膏の取扱いができる	
6・7		(マネキン実習) 上下顎の印象採得ができる マネキン実習にて作製した印象体を用いて石膏注入ができる	
8・9		(相互実習) 上下顎の印象採得ができる 相互実習にて作製した印象体を用いて石膏注入ができる	
10・11		(相互実習) スタディモデルの作製ができる トリーマーの取扱いができる	
12	共同作業	術者・アシスタント・患者のポジショニングを実践できる 正しいライティングができる	
13		(マネキン実習) 部位別口腔内洗浄とバキュームテクニックについて修得する	
14・15		(相互実習) バキューム操作技術を実施する 歯科診療におけるフォーハンドを実施できる	

【科目名】		歯科診療補助論2(講義)		【担当講師】		高橋 邦夫	
【年次・開講期】		2年次 通年		【時間】		30時間	
【単位】		2単位					
【授業概要】							
令和の時代を担っていく歯科衛生士には、う蝕や歯周病はもちろん、全身疾患、摂食、嚥下障害を有する患者や介護を要する高齢者に対して口腔と全身の関係を考慮し他職種と連携しながら対応していくことが求められます。インプラントや高度先端医療の新たな知識の習得も必須です。こうした社会的ニーズに則したよりよい支援ができる視点と能力が必要になってきます。これらの習得をしていくことが本科目の概要である。							
【実務経験有】							
みやこ歯科を開設・院長(歯科医師)							
【到達目標】							
具体的には、医療安全、感染予防対策、滅菌法、根管充填法のアシスト、CR術式とアシスト、外科器具の取り扱い、各種印象材の習熟と取り扱い、各種セメントの練り方や取り扱い等 バキューム操作、ラバーダム、模型製作、患者介護							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 医歯薬出版							
【参考図書】							
最新歯科衛生士教本 歯科材料 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全授業終了後 実技試験と筆記試験を行う。 60点以上を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	接遇			歯科医療もサービス業であるという観点から、受付対応、電話対応、挨拶、敬語等を学び一社会人として恥ずかしくない行動がとれるようにする			
2	各種石膏の取り扱い			普通石膏 硬石膏 超硬石膏に分けられる。混水比もことなり 硬さもことなる。また使用用途も違うことからそれらの性質の差を理解すると同時に取り扱いについても学ぶ。			
3	セメント錬和			合着用、接着用セメントも種類が多く その取り扱いには知識と熟練を要する。セメントの種類別に錬和法、その性質を学び実践の場で迷うことなく扱えるようにする。			
4	コンポジットレジン充填			コンポジットレジンの性質や取り扱いを学ぶ			
5.6	一人スケーリング・バキューム			一人でバキュームを持ちながら 超音波スケーリングが出来るようにする。特に右上臼歯部、左上臼歯部など一人では困難な場所のバキュームの取り扱いについて学ぶ。			
7	アルギン酸印象採得			アルギン酸印象採得について学ぶ。特に頬側部や前歯部に気泡が入らないようにする。			
8	アルギン酸寒天印象			アルギン酸寒天の連合印象について学ぶ。			
9	個人トレー製作			レジンの取り扱いに慣れ その知識を完全なる物にする 個人トレー製作を学ぶ。			

10	個人トレーを用いての印象	個人トレーを用いたアルギン酸印象 既成トレーとの違いを学ぶ。
11	外科用器具の取り扱い	持針器と針、糸、メスとメスホルダーなどの着脱 について学ぶ。
12	各種研磨について	コンポジットレジン、インレー、クラウン、義歯など 使う器具と研磨法について学ぶ。
13	器具の受け渡し	術者との器具の受け渡しについて学ぶ 相互に術者とアシスタントを経験することで お互いの立場を理解し、受け渡しがスムーズに出来るようにする。
14	バキューム操作法	バキュームをいつどの位置に入ればいいのかを学ぶ。 術者の妨げにならぬようなバキューム操作とはについて学ぶ。
15	プロービング	口腔内のプロービングの6点法計測 出血の有無・チャートの記録の仕方を学ぶ。

【科目名】 歯科診療補助2(実習・実技)		【担当講師】 設楽 雅枝	
【年次・開講期】 2年次 通年	【時間】 30時間	【単位】 1単位	
【授業概要】 歯科診療の実習を通して、教科者だけではわかり得ない知識や技能等を身に着け、実践的な歯科衛生士を育成する。また日進月歩の時代のニーズに対応できるようにする。			
【実務経験有】 歯科衛生士の臨床経験をもとに授業を展開する			
【到達目標】 実習を通して知識や器具の取り扱い水準の技能を高め、社会のニーズに応えるようにする。 コンポジットレジンの取り扱いとアシスタントワーク、各種印象材を用いて複雑窩洞の印象を採り石膏注入までを行うことで、流れを理解する。また根管充填、歯周外科等の術式への理解を深めるため実際に実習を行い技能の習得を行う。			
【教科書】 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 医歯薬出版			
【参考図書】 最新歯科衛生士教本 歯科材料 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版			
【授業方法】 実習			
【評価方法】 実習毎に模型やチャート等の提出を求め 指導者が評価を行い全授業終了後実技試験を行う。			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1.2	保存修復時の診療補助実習①	・コンポジットレジン修復を模型に充填し、レジンの性質や取り扱いを学ぶ。また、アシスタントと術者を経験することでスムーズなアシスタントワークが出来るようにする。 ・即時重合型レジンの性質や取り扱いを学ぶ。暫間被覆冠等作成時に応用できるよう小筆の取り扱いも学び、後片づけの方法等についても実際にできるようにする。	
3.4	保存修復時の診療補助実習②	・各種印象材の取り扱いについて学ぶ。 ・寒天とアルジネートの連合印象について特徴を理解し、窩洞形成歯牙にて一連の印象採得が術者、アシスタントと連携しスムーズにできるようにする。	
5.6	歯内療法時の診療補助実習	・根管充填時の術式を理解し、器具の受け渡し実習を行う。相互に術者とアシスタントを経験することで、お互いの立場を理解し受け渡しがスムーズに出来るようにする。 ・同時に、器具受け渡しに適した位置、避ける位置を学ぶ。 ・様々な小器具の渡し方について学ぶ。 ・各種セメントや仮封剤の練和をし、それぞれの使用器材や稠度が調節できるようにする。	
7.8	歯周外科治療の診療補助実習	・各種歯周外科治療の術式について学び、使用する器具を術式ごとに準備できるようにする。 ・持針器と針、糸、メスとメスホルダーなどの着脱について学び着脱ができるようにする。 ・歯周パックの練り方や固さ、口腔内での取り扱い方について学ぶ。	
9.10	補綴治療時の診療補助実習①	・アルジネート印象材を使用し概形印象採得をし、口腔内に適合する既製トレーの選択、歯列の状態に合わせたワックスでの修正、印象材のトレーへの盛り付けなど、一連の流れを理解しできるようにする。 ・採得した印象に石膏を流入し、スタディモデルを作成する。	
	補綴治療時の診療補助実習②	・出来上がったスタディモデルを使用し、個人トレーを作成する。	

11.12		・個人トレー用レジンの取り扱いに慣れ、実際に触れることでその性質を理解し、その知識を完全なるものにする。
13.14	口腔外科治療時の診療補助	・各種口腔外科手術の術式について学び、使用する器具を術式ごとに準備できるようにする。 ・浸潤麻酔、伝達麻酔を学び、それぞれの準備ができるようにする。 ・各種手指消毒法を理解し、臨床の場における手洗いの実際を学ぶ。手洗いの実際を学ぶ。 また、手洗いチェッカーを用いて洗い残した汚れの有無や付着場所を確認し、洗い方を再考する。 ・滅菌済ガウンの着用方法や介助方法を学び、実際に介助者と共に着用し、清潔域と不潔域を理解する。 ・滅菌済グローブの清潔域を理解して、着用できるようにする。
15	矯正治療時の診療補助	・口腔内写真撮影について学び、正面観、側方面観、咬合面観の撮影ができるようにする。

【科目名】		歯科診療補助論2- I		【担当講師】		品川 泰弘	
【年次・開講期】		2年次 前期		【時間】		26時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
歯科診療におけるエックス線検査の役割は大きく、臨床において不可欠である。 そこで、歯科放射線に関する歯科衛生士としての必要な知識を学ぶ。 臨床検査は、患者の病態や全身状態を把握するために不可欠である。 そこで、臨床検査に関する歯科衛生士としての必要な知識を学ぶ。							
【実務経験有】							
しながわ歯科クリニックを開設・院長（歯科医師）							
【到達目標】							
放射線の取り扱いの基本原則を理解する 放射線関係の業務内容を習得する 歯科診療における臨床検査の基礎知識を理解する 臨床検査におけるインフォームド・コンセント、医療事故防止に関する知識を理解する 臨床の現場で活動できる具体的な歯科診療補助行為を、基礎から技術までを学習し、的確な歯科診療補助行為を習得する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 歯科放射線 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 臨床検査 医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義（教科書・プリント・スライド）							
【評価方法】							
全授業の終了後、国試形式・記述式の進級試験を行う。 60点以上の者を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科放射線 1章 歯科医療と放射線			歯科医療におけるエックス線の役割 エックス線の性質と生体への影響 歯科診療における放射線防御			
2	歯科放射線 2章 エックス線画像の形成			エックス線画像の成り立ち エックス線と生体物質の相互作用 エックス線フィルムとエックス線センサー			
3	歯科放射線 3章 歯科におけるエックス線検査			口内法エックス線装置の構造とフィルムの種類 口内法エックス線撮影法の種類と特徴 パノラマエックス線撮影 歯科・口腔外科領域で用いる画像検査法			
4	歯科放射線 4章 口腔法エックス線撮影の 実際と歯科衛生士の役割			口腔内エックス線撮影の準備手順と留意点 口腔内エックス線撮影フィルムの位置づけ方法 エックス線撮影および写真処理時の失敗原因			
5	歯科放射線 5章 パノラマエックス線撮影の 実際と歯科衛生士の役割			パノラマエックス線撮影の準備手順と留意点 パノラマエックス線撮影の患者の位置づけ 正常なパノラマエックス線像			
6	歯科放射線 6章 写真処理と画像保管の実際			写真処理の方法と手順 写真処理 画像保管			
7	歯科放射線 7章 放射線治療と口腔管理			口腔癌の放射線治療 放射線治療患者の口腔管理			

8	臨床検査 1章 臨床検査とは	臨床検査の倫理、安全性、必要性 臨床検査と歯科衛生士の役割 生体検査と検体検査 臨床検査成績の表し方 臨床検査の基準値とその変動要因
9	臨床検査 2章 生体検査(生理機能検査)	生体検査(生理機能検査) 体温測定の意味、測定方法 脈拍数の意味、測定方法 血圧測定の意義、測定方法 心機能、肺機能、脳波、血中酸素濃度検査
10	臨床検査 3章 検体検査	検体検査、採血方法、血液を使う検査の種類 貧血の検査、出血性素因の検査 肝機能、腎機能、糖代謝、炎症の検査 B型、C型ウイルス性肝炎の検査 アレルギー、血液型、赤血球沈降速度検査 細菌感染症、病理検査
11	臨床検査 4章 口腔領域の臨床検査	口腔領域の臨床検査の列挙 口臭検査、味覚検査、金属アレルギー検査 舌の検査、口腔粘膜の検査、唾液検査 歯周組織検査、歯の検査、根管細菌培養検査
12	臨床検査 5章 摂食嚥下管関連に検査 付章 主な疾患・病態別検査値の とらえ方	摂食嚥下関連のスクリーニングテスト 反復嚥下、改訂水飲み、フード、咳テスト 嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査 こんな患者さんが来院したら
13	総復習	歯科放射線と臨床検査の総復習

【科目名】		歯科診療補助論2-Ⅱ		【担当講師】		稲川 元明	
【年次・開講期】		2年次 前期		【時間】		26時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
歯科医療における麻酔の必要性を理解し、歯科衛生士として局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔、ペインクリニックについて必要な知識・技術の習得を目標とする。 歯科衛生士として必要な、歯科臨床時に発生する全身的偶発症に対する救急処置、救急蘇生法の基礎知識ならびに技術の習得を目標とする。							
【実務経験有】							
高崎総合医療センター統括診療部医長(歯科医師)							
【到達目標】							
1、局所麻酔について理解する 2、精神鎮静法について理解する 3、全身麻酔について理解する 4、歯科診療時に発生する全身的偶発症を理解する。 5、一次救命処置の方法を理解し、実習で習得する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 医歯薬出版							
【参考図書】							
歯科麻酔学 医歯薬出版 応急手当講習テキスト「救急車がくるまでに」 東京法令出版 写真と動画でわかる一次救命処置 学習研究社							
【授業方法】							
講義（教科書、スライド、DVD）・実習							
【評価方法】							
全授業および実習終了後、筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。出席実績、授業態度、出席実績、授業態度、課題（レポート等）の提出実績、実習態度、実習成績により減点を科す場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科麻酔学総論 1. 麻酔の概念 2. 歯科臨床における歯科麻酔全身状態の評価 1. 診察法 2. バイタルサイン・モニタリング 局所麻酔 1. 局所麻酔薬			・麻酔の概念を理解する ・歯科臨床における麻酔学の役割 ・局所麻酔の発見と応用について知る ・インフォームドコンセント ・問診、視診、触診、打診、聴診 ・呼吸・循環・中枢神経のモニタリング ・局所麻酔薬の構造 ・局所麻酔薬の代謝と排泄 ・局所麻酔薬の全身への作用 ・局所麻酔薬の種類 ・局所麻酔薬の性質と作用 ・口腔領域に用いられる表面麻酔薬			
2	局所麻酔 1. 血管収縮薬 2. 全身麻酔時の局所麻酔 3. 局所麻酔を実施する前に 4. 局所麻酔の利点と欠点			・血管収縮薬添加の目的 ・血管収縮薬の種類 ・血管収縮薬野の薬理(アドレナリン・フェリプレシン) ・血管収縮薬の臨床使用上の注意（循環系疾患、甲状腺機能亢進症、糖尿病） ・血管収縮薬の局所的問題 ・アドレナリンの薬物相互作用 ・全身状態の把握 「高血圧症、虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）、不整脈、心臓弁膜疾患、脳血管障害、			

		呼吸系疾患、代謝性疾患、妊婦、肝炎」 ・局所麻酔の利点と欠点
3	局所麻酔 1. 局所麻酔法 2. 局所麻酔の偶発症	・表面麻酔法 ・浸潤麻酔法 ・伝達麻酔法（上顎、下顎） ・局所麻酔の局所的偶発症
4	局所麻酔 1.局所麻酔の偶発症	・局所麻酔の全身的偶発症
5	精神鎮静法 1.精神鎮静法 2. 吸入鎮静法	・精神鎮静法の内容 ・精神鎮静法の内容 ・精神鎮静法の効果と適応 ・精神鎮静法と全身麻酔との相違点 ・笑気吸入鎮静法の利点と欠点 ・笑気吸入鎮静法の適応症と禁忌症 ・吸入鎮静法に使用される薬剤 ・笑気について ・笑気吸入鎮静法に使用される器械、器具 ・至適鎮静度・注意事項 ・術前・術中・術後管理
6	精神鎮静法 1.静脈内鎮静法	・静脈内鎮静法の臨床的分類 ・笑気吸入鎮静法と静脈内鎮静法 ・静脈内鎮静法の適応症と禁忌症 ・静脈内鎮静法に使用される薬剤 ・術前・術中・術後管理 ・患者への説明と指示 ・静脈内鎮静法の実施 ・至適鎮静度
7	全身麻酔 1.全身麻酔	・全身麻酔とは ・周術期管理の方法 （術前・術中・術後管理） ・歯科医療における全身麻酔の適応 ・術前の全身状態評価と管理 ・術前の経口摂取制限 ・手術危険度 ・麻酔前投薬
8	全身麻酔 1.全身麻酔に使用される薬剤 2.気管内麻酔 3.外来全身麻酔 4.ペインクリニック	・吸入麻酔薬 ・静脈麻酔薬 ・筋弛緩薬 ・気管内麻酔の適応 ・気管内麻酔の利点と欠点 ・外来全身麻酔とは ・外来全身麻酔の適応症と禁忌症 ・ペインクリニックとは ・ハリ麻酔
9	歯科臨床における救急処置 1.全身的偶発症 2.一次救命処置 3.A E D	・全身的偶発症 ・ショック ・一次救命処置（心マッサージ、気道確保、人工呼吸） ・A E D
10	救急蘇生法	
11.12	1.一次救命処置 2.A E D	・マネキンを用い、一次救命処置の方法を実習し、知識・技術を習得する
13	AED実習	・A E Dの使用法について実習する

【科目名】	歯科診療補助論 3（講義）		【担当講師】	高橋邦夫
【年次・開講期】	3 年次・後期	【時間】	20時間	【単位】 1単位
【授業概要】 超高齢化社会を迎え歯科診療所に来院する患者は、60歳以上が急激に増加している。昔と比べて、う蝕は減少傾向で高齢者を対象とする口腔機能回復が中核となり全身疾患を抱える患者も増えてきた。これからは以前からの歯科診療補助に加えて訪問診療、口腔健康管理、摂食嚥下リハビリテーションまでが要求される時代となった。これらに対応できる歯科衛生士の養成をするための知識と技能を身に付けさせることを目標とする。また、それら共同動作に必要な基本的な知識と技術を習得する。				
【実務経験有】 みやこ歯科を開設・院長（歯科医師）				
【到達目標】 歯科医院での補助、介助がスムーズにできるレベルまで、各自の技術・知識を高める。 また、有病者への対応や周術期 訪問診療時のスムーズなアシスタントワークの習熟をめざす				
【教科書】 医歯薬出版 歯科診療補助学				
【参考図書】 医歯薬出版 歯科機器 医歯薬出版 歯科材料				
【授業方法】 講義				
【評価方法】 学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。 出席実績、授業態度も評価する場合がある。				
【授業計画】				
回	授業項目	授業内容		
1	仮封材の取り扱い	仮封の目的、仮封材の種類、性質を理解するとともに、その取り扱い方を習得する。		
2	印象材の取り扱い	アルギン酸、合成ゴム質印象材の実習を通して、各種印象材の性質、取り扱いを習熟する。		
3	小外科手術時の器材の取り扱い	局所麻酔器具、替え刃メス、縫合器材の取り扱いを習熟する。		
4	保存修復器材の準備	レジン、インレー、アマルガムの修復方法の違いに応じたセッティングが出来るようにする。		
5	歯内療法器材の準備	根管治療・根管充填の基礎知識を学び、器材準備の手順を覚える。		
6	歯周療法器材の準備	歯周組織の診査、歯周外科器材の準備を理解し、器具の取り扱いを覚える。		
7	小児歯科治療器材の準備	ラバーダム、シーラント、歯髄切断法について理解し器材の準備		
8	抜歯の準備と取り扱い	各処置の術式について理解し、必要な器具を準備できるようにする。		
9	補綴用器材の取り扱い	義歯の印象、咬合採得、ろう義歯試適、研磨等について学び、使用する器具を準備できるようにする。		
10	口腔内写真撮影	写真は客観的に残せる方法であり、後から確認できる。撮影法を学ぶ。		

10		
----	--	--

【科目名】		臨地・臨床実習1		【担当講師】	
【年次・開講期】		1年次・後期	【時間】		90時間
			【単位】		2単位
【授業概要】					
歯科診療所の業務内容、及び歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解し、歯科衛生士としての心構えを身に付ける。校内で既習の知識、技術、態度を具体的かつ实际的に理解し、歯科衛生士としての役割を把握する。					
【実務経験有】					
歯科医院や病院歯科で臨床経験有（歯科医師・歯科衛生士）					
【到達目標】					
1. 臨床現場での診療システムを習得することができる					
2. 臨床現場での歯科衛生士の業務範囲を知り、習得することができる					
3. 臨床現場での患者さんへの対応を見学し、どのように意思疎通を図っているのかを知る					
【教科書】					
【参考図書】					
【授業方法】					
実習					
【評価方法】					
出席、遅刻、早退や実習帳の提出状況などで、総合判定する。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	診療システム		円滑な診療をするためにどのような共同動作のルールで行われているかなど基本的な知識を習得する。		
2	消毒・滅菌の方法		感染予防対策がどのように行われているかを学ぶ。 診療所で行われている消毒・滅菌の方法と用途および効果について。		
3	器具の準備と後始末の方法		診療室から排出される廃棄物に対する理解と分別がどのようにされているのかを学ぶ。		
4	歯科材料の取り扱いと保管方法		診療室内にある材料をの取り扱い方と取り扱い方によって材料の優劣にも関わるため保管方法および材料の知識を習得する。		
5	患者への対応 (患者の確認及び誘導の仕方)		患者の状況把握を行い、患者への説明、伝達対話等を通して患者と歯科医、歯科衛生士が意思疎通をどのように測っているのかを学ぶ。		
6					
7					
8					

【科目名】		臨地・臨床実習2		【担当講師】	
【年次・開講期】		2年次・後期	【時間】		360時間
			【単位】		8単位
【授業概要】					
歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導の手技を修得する。（授業計画の回数は、実習内容の分類を示す。）					
【実務経験有】					
歯科医院や病院歯科で臨床経験有（歯科医師・歯科衛生士）					
【到達目標】					
1. 受付対応事務ができる					
2. 予診における診療補助ができる					
3. 歯科保存治療時の診療補助ができる					
4. 歯周治療時の診療補助ができる					
5. 歯科補綴治療時の診療補助ができる					
6. 口腔外科治療時の診療補助ができる					
7. 矯正歯科治療時の診療補助ができる					
8. 小児歯科治療時の診療補助ができる					
9. X線撮影時の診療補助ができる					
10. 公衆歯科衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる					
【教科書】					
【参考図書】					
【授業方法】					
実習					
【評価方法】					
出席、遅刻、早退や実習帳の提出状況および実習課題の内容などで、総合判定する。					
【授業計画】					
回	授業項目	授業内容			
1	受付対応事務	患者・訪問者の受付対応、電話の対応、診療申込書の指導、カルテの作成 患者誘導、経理事務、アポイント、リコール、服薬指導			
2	予診	予診表の記載・整理、診査・検査用器材の準備と消毒・滅菌、診査表の記入 バイタルサイン、歯科保健指導			
3	保存修復・歯内療法	歯科保存治療用器材の準備と消毒・滅菌、歯科保存治療に用いられる薬剤 材料の準備と管理、バキューム操作法、ラバーダム防湿法、仮封操作 コンポジットレジン修復・インレー修復の診療介助と研磨、歯髄鎮静・歯髄覆罩 歯髄除去・根管治療・根管充填剤の介補、歯科保存治療患者へのメンテナンス			
4	歯周治療	歯周組織検査、歯周治療用器材の準備と消毒・滅菌、薬剤、材料の準備と管 理 スケーリングとルートプレーニング、歯周ポケット搔爬術・歯肉切除術			

		その他歯周外科の介補・術後のメンテナンス
5	歯科補綴	歯肉圧排法、印象採得法、模型作製法、TEK作製法、歯科補綴治療用器材の取り扱いと消毒・滅菌法、クラウンブリッジ・局部床義歯・全部床義歯装着時の介補 補綴物装着患者へのメンテナンス
6	口腔外科・歯科麻酔	口腔外科治療用器械の準備と消毒・滅菌、口腔外科治療に用いる薬剤・材料の取り扱いと保管、腫瘍切開・嚢胞摘出手術・歯槽骨整形術 感染患者への対応
7	矯正歯科	矯正治療用器械・材料の準備と消毒・滅菌法、スタディモデル作製、酸処理・歯面研磨、舌側弧線装置・床矯正装置・機能的矯正装置・保定装置装着時の介補、矯正歯科治療患者のメンテナンス
8	小児歯科	小児歯科治療用器械・材料の準備と消毒・滅菌、乳歯修復処置・乳歯歯内療法 乳歯抜歯・咬合誘導治療時の介補
9	歯科放射線	各種X線撮影の準備と補助、X線フィルムの現像・整理・保管
10	歯科保健教育	地域保健センター幼児健診見学（歯科健診、歯科保健指導） 保育所（幼児に対する歯科保健教育）小学校刷掃指導見学（学童に対するブラッシング指導介助）

【科目名】	臨地・臨床実習3		【担当講師】
【年次・開講期】	3年次・前期	【時間】	450時間
【単位】	10単位		
【授業概要】			
歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導ができる能力を付ける。(授業計画の回数は、実習内容の分類を示す。)			
【実務経験有】			
歯科医院や病院歯科で臨床経験有(歯科医師・歯科衛生士)			
【到達目標】			
1. 歯科予防処置ができる 2. 障害者歯科治療時の診療補助ができる 3. 年代、状況に応じた歯科保健指導ができる。 4. 口腔外科治療時の診療補助ができる			
【教科書】			
【参考図書】			
【授業方法】			
実習			
【評価方法】			
出席、遅刻、早退や実習帳の提出状況および実習課題の内容などで、総合判定する。			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	歯科予防処置	歯科予防処置用器材の準備と消毒・滅菌法、口腔内不潔度検査 歯口清掃指導、フッ化物歯面塗布法、フッ素洗口法、フッ化ジアンミン銀塗布法 小窩裂溝填塞法、歯石除去法、歯面研磨法、貼薬法、シャープニング 歯科疾患・口腔清掃に関する統計処理	
2	歯科診療補助	障害者歯科治療時の介補 障害者施設での健診介補	
3	歯科保健指導	幼児、児童、成人、老人、妊産婦、矯正治療患者・補綴物装着患者 歯周治療患者の歯科保健指導 齲蝕・歯周病の疫学的特性を理解し、説明することができる 齲蝕・歯周病の予防・コントロールを理解し説明することができる 歯科保健指導の目的と意義を理解し、歯科保健指導計画をたてることができる 業務記録の目的と意義を理解し、作成することができる 地域保健の意義と特質・基礎的活動を理解する	
4	口腔外科	口腔外科大手術の見学、病棟見学、術後メンテナンス見学	

【科目名】		看護学	【担当講師】	小野久美子	
【年次・開講期】		1年次・後期	【時間】	16時間	【単位】 1単位
【授業概要】					
高齢化社会の到来や疾病構造の変化等の社会情勢の変化によって歯科衛生士が求められる役割が変化してきている。また、病院におけるチーム医療の推進もあり、歯科衛生士と看護師が協働する場面も増えた。このような状況に対応するために、病院や地域医療活動における歯科衛生士の役割や、全身疾患の評価や全身管理に対する理解に必要な基本的な看護技術について学ぶことを目的とする。					
【実務経験有】					
前橋赤十字病院にて看護師として実務					
【到達目標】					
1. 歯科衛生士が看護師と協働する必要性を理解する 2・歯科衛生士が基礎知識として押さえておくべき看護技術及び看護実務を理解する 3. 患者の精神状態も含めた全身状態に目を向けることができる 4. 起こりうる危険を予知し、患者の安全・安楽を考慮した対策を考えることができる 5. 地域医療活動のしくみを理解する					
【教科書】					
歯科衛生士のための看護大意 第2版					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義・演習					
【評価方法】					
学科試験(60点以上を合格)					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	1. 病院における看護師の役割 2. 看護の概念		・歯科衛生士の活動の場 ・診療所・病院 ・医療チームのなかの歯科衛生士 ・看護の歴史 ・看護とは		
2	3. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術(1)		・バイタルサインについて ・バイタルサインの測定方法(体温・脈拍・呼吸)		
3	3. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術(2)		・血圧測定 ・血圧測定コミュニケーション ・患者への支援・安全・安楽 ・摂食 ・与薬・嚥法・吸入・吸引		
4	3. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術(3)		・バイタルサイン測定・手技 ・車いすの移乗 ・手洗いの仕方 ・リラクゼーション ・ハンドケア		
5					
	4. 歯科衛生士に必要な		・記録の作成		

6	看護実務(1)	・病院外来での業務 ・口腔ケア
7	4. 歯科衛生士に必要な看護実務(2)	・救急時の看護 ・洗浄・消毒・滅菌 ・スタンダードプリコーション ・医療安全対策
8	5. 地域医療活動における歯科衛生士の役割	・地域社会における看護のあり方 ・保健・医療・福祉チームとの連携 ・在宅医療における歯科衛生士の役割

【科目名】		保険請求		【担当講師】		中嶋 耕次	
【年次・開講期】		2年次 前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯周病の治療において、今後は歯科衛生士の役割が非常に重要になってくると考えられる。 歯科医師に指示されたことのみを行うのみでなく、患者の口腔清掃、生活習慣などの指導も必要となってくる。歯科の治療は保険診療である場合が多く、そのルールに沿った進め方を理解するための基礎を習得することを目的とする。							
【実務経験有】							
なかじま歯科クリニック院長(歯科医師)							
【到達目標】							
歯科臨床で必要とされる保険の基礎知識を習得する。 カルテに記載されたことが理解でき、保険のルールに沿った治療の考え方を習得する。							
【教科書】							
「歯科保険請求マニュアル」 医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義・実習							
【評価方法】							
全授業終了後、筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。 出席実績、授業態度などにより減点を科す場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1・2	レセプトコンピューターの 取り扱い実習			実際のパソコン入力等の実習を行う			
3	社会保険の仕組み 医療保険			社会保険の仕組みについて 医療保険の分類について			
4	年金・労働保険 介護保険、生活保護			年金、労働保険(主に雇用保険)について 介護保険、生活保護の仕組み			
5	カルテ、レセプト カルテの読み方、略称 歯科衛生士の業務範囲			カルテの読み方、カルテ・レセプトに使われる略称について 負担金の仕組み、計算について 歯科衛生士の業務範囲について			
6	保険外で行う歯科治療 保険で行う歯科治療			保険適用外の治療について 保険適応の治療の流れについて(う蝕治療、根管治療、補綴治療、外科治療)			
7	保険で行う歯周治療①			保険適応となる歯周治療の流れについて 歯科衛生実地指導について			
8	保険で行う歯周治療②			歯周基本検査・歯周基本治療について 歯周外科手術・メンテナンスについて			

【科目名】		総合歯科学Ⅰ		【担当講師】 矢内太郎、塩崎秀一、谷口明慧	
【年次・開講期】		3年次・後期	【時間】		90時間
			【単位】		3単位
【授業概要】					
校外臨床実習修了を踏まえ、解剖・生理等の基礎的な分野を統合するために学ぶ。					
【実務経験有】					
矢内太郎:矢内歯科医院院長(歯科医師)					
塩崎秀一:大学や専門学校の講師として実務(医学博士)					
谷口明慧:群馬大学医学部附属病院入職(歯科医師)					
【到達目標】					
・ 人体の構造・組織に関する基本的知識を理解することができる					
・ 人体の機能、構成成分に関する基礎知識を理解することができる					
・ 歯・口腔の構造およびその周囲組織に関する基本的知識を理解することができる					
・ 歯・口腔の機能、組織に関する基本的知識を理解することができる					
【教科書】					
歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学					
歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。					
出席実績、授業態度も評価する場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目	授業内容			
1・2	人体の構造・骨格系	人体の区分、体の方向用語 骨の機能、構造、形態 骨の連結様式を説明できるようにする 骨の発生様式、再構成に様式について実際の骨の構造			
3・4	筋と運動・消化と呼吸	筋の形状と分類 体の各部位の筋系(頭部、頸部、背部、胸部、腹部、上肢、下肢) 消化と呼吸の意義 消化器の構造 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜、大腸の機能			
5・6	循環・呼吸	血管系の概要 終動脈、体循環、肺循環 心臓の内部構造 動脈系、静脈系、静脈確保と静脈注射、胎児循環 リンパ系の概要とその機能 リンパ管とリンパ節 リンパ循環、胸腺、脾臓 外呼吸と内呼吸 呼吸器の構成(上気道、下気道、肺と気管、気管支・肺嚢胞と肺胞、肺の血管) 気管と肺の神経支配			
7	内分泌	内分泌気管とホルモン 内分泌気管の種類 内分泌気管の構造と機能(下垂体、上皮小体、膵臓、副腎、性腺、松果体) 歯とホルモン 男性生殖器、女性生殖器			
	組織発生・細胞の構造と機能	組織発生についてのイントロダクション			

8・9		細胞膜、オルガネラ（細胞内小器官）、核、細胞
10・11	組織・発生学	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織 染色体、減数分裂、精子、卵子、胚葉、胎児
12・13	骨・筋の構造・神経の構造	骨・筋の組織学的構造 神経の組織学的構造
14・15	細胞と組織・血液	細胞と組織 血液の成分、機能 血液の凝固と溶解 血液型と輸血 恒常性体温
16	循環器系・呼吸系	心臓の構造と機能 心臓の自動性、心臓の機能の調整 血管の構造と機能 血圧とその調整 呼吸器の構造と機能 呼吸機能の調整 呼吸運動
17	神経系・感覚系・筋系	神経系の構造（分類）と機能 中枢神経、末梢神経 感覚器の構造と機能 筋の構造と機能 運動機能（随意運動）、反射
18・19	消化系、腎・泌尿器系（排泄） 内分泌系、生殖系	消化器の構造と機能 腎・泌尿器の構造と機能 内分泌機能、ホルモン 生殖器の構造と機能
20・21	口腔、口腔前庭、固有口腔 口峽、舌、唾液腺、咽頭	口腔前庭の部位の確認 口唇や頬、歯肉の解剖学的構造を理解しその機能 について学ぶ 歯肉を構成する組織について学ぶ 口蓋と舌下部の場所と構造について知る 口峽に存在する筋肉の名称と役割について 舌の解剖（区分、粘膜の構造、筋肉の走行、動脈・静脈の流れ、神経の走行など） 唾液腺の種類や分泌される唾液の性状 唾液腺の導管の走行について 咽頭の定義 咽頭部に存在する筋の名称、走行、働きについて
22・23	頭蓋骨、上顎骨、口蓋骨 舌骨、顎関節	頭蓋骨は15種類、23個の骨から構成されている それぞれの構造や神経、血管が通る経路なども理解する 上顎体を中心に上顎骨を構成する突起について 歯槽管を通る神経、動脈の分布 口蓋骨の構造と口蓋骨内を通る神経、脈管について 下顎骨の構造、下顎骨を通る神経、脈管や下顎骨に付着する筋肉について 舌骨の構造や付着する筋肉について 顎関節の複雑な構造と運動を理解する
24・25	表情筋、舌骨上筋、咀嚼筋 口腔付近に分布する動脈 静脈	表情筋の種類と走行について 舌骨上筋群の種類と付着部位、走行について 顎下三角とオトガイ下三角の部位とそこに存在するリンパ節について 咀嚼筋（咬筋、側頭筋、内側翼突筋、外側翼突筋）の走行と運動について 頭頸部から口腔にかけて分布する動脈・静脈の走行について 頭頸部のリンパ節の位置について
26	頭頸部のリンパ系、神経	神経の種類 脳神経（三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経） 脊椎神経 脊椎神経と脊椎神経叢の区分頭頸部に分布する脊椎神経 自律神経
27	歯の機能、交換、植立、組織 形態 種類と数、表示法、歯式	歯の機能、交換、植立について 歯の硬組織、軟組織について 歯の形態、各部の名称について 永久歯、乳歯の種類と数について 永久歯、乳歯の表示記号について ジグモンディー方式、FDI方式について
28	歯の位置による名称 歯の用語 根管の形態 歯の左右の鑑別 歯・歯周組織及び顎骨組織 の模式図	歯の位置による名称について 歯の方向、歯冠の区分、各部の名称について 根管の形態について ミュールライターの三徴候について 歯、歯周組織及び顎骨組織の模式図を書いて図解できるようにする
29 30 31	前歯部の特徴 小臼歯部の特徴 大臼歯部の特徴	上顎中切歯、側切歯、犬歯とその特徴について 下顎中切歯、側切歯、犬歯とその特徴について 上顎第一、二小臼歯とその特徴について 下顎第一、二小臼歯とその特徴について 上顎第一、二、三大臼歯とその特徴について 下顎第一、二、三大臼歯とその特徴について
32・33	乳歯の特徴 特色のある歯の形態	乳歯の特徴 乳歯と永久歯の比較 形態学的特徴 典型的な歯の形態とは異なる歯の状態について
	顔面と口腔の発生	鰓弓や突起、口蓋と鼻腔などのポイントを理解し

34・35	歯と歯周組織の発生	顔面と口腔の発生について理解できるようにする 歯胚の形成や発生、歯牙の交換について
36・37	エナメル質・象牙質、歯髄	エナメル質の正常組織構造 象牙質・歯髄の正常組織構造
38・39	セメント質、歯根膜・歯槽骨 歯肉	セメント質・歯根膜の正常組織構造 歯槽骨・歯肉の正常組織構造
40・41	口腔の神経、感覚・味覚、嗅覚	脳神経 頭部・口腔の自律神経 歯と口腔の感覚 味覚の役割、感受性、神経機構 嗅覚の役割、特性、神経機構
42・43	咬合、咀嚼・嚥下、嘔吐	下顎の構造と機能（咀嚼・吸啜） 嚥下の過程、機能 嘔吐の機序
44・45	発声・唾液	発声機構、声の生成、構音障害 唾液の役割、分泌機構、成分、疾患

【科目名】		総合歯科学Ⅱ		【担当講師】 島村好則、石原宏一、外丸雅晴	
【年次・開講期】		3年次・後期	【時間】		90時間
【単位】				3単位	
【授業概要】					
教科書、スライド、補助プリント、国家試験対策プリント、時点問題プリント を使い臨床に結びつけて説明していく					
【実務経験有】					
島村好則：しまむら歯科医院開設・院長（歯科医師） 石原宏一：石原総合歯科医院開設・院長（歯科医師） 外丸雅晴：外丸歯科医院勤務（歯科医師）					
【到達目標】					
・病因と病態、感染と免疫および生体と薬物に関する基本的知識を理解できる ・口腔領域の先天異常、嚢胞および腫瘍について理解できる ・歯科臨床に用いる薬剤を理解できる ・歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進、疫学と歯科保健統計および 地域歯科保健活動に関する基本的知識を理解することができる ・健康を保持増進するための基本的知識が理解できる ・歯科衛生士として必要となる保健・医療・福祉の関連法規と制度を理解できる					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学 最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学 最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で 試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。 出席実績、授業態度も評価する場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目	授業内容			
1	病理学Ⅰ 循環障害・代謝障害 退行性病変	虚血、うつ血、充血を説明できる 閉塞性循環障害について説明できる 細胞障害・代謝障害の種類を列挙できる 壊死と壊疽、壊死とアポトーシスの違いを説明できる			
2	増殖と修復	刺激や傷害に対する能動的な反応の種類と意義を説明できる			
3	炎症・免疫応答異常	創傷治療や再生の基本的な概説できる			

3		炎症の原因と機序を説明できる 炎症の分類と各炎症の特徴を説明できる
4	腫瘍	液性免疫・細胞性免疫の特徴を説明できる 腫瘍の原因と発生機序を説明できる 腫瘍の組織学的特徴を説明できる
5	病理学Ⅱ 歯の発育異常・歯の損傷と 付着物	歯・咬合等のついてさまざまな発育異常を理解し、歯の損傷とプラーク、歯石 を中心とした付着物を説明できる
6	齲蝕・象牙質・歯牙複合体・根尖部 歯周組織の病変 辺縁性歯周炎の病変	う蝕やそれに続発する歯髄病変や根尖部歯髄組織 病変の原因、病態を理解して説明できる 辺縁性歯周炎の原因、病態が説明できる
7	口腔粘膜疾患 口腔癌・前癌病変・口腔の嚢胞・腫瘍 唾液腺疾患	粘膜疾患、前癌病変、口腔癌について説明できる 代表的な嚢胞性病変、腫瘍性病変を説明できる 全身疾患から生じる口腔病変について説明できる
8	微生物Ⅰ 細菌各論Ⅰ（グラム陽性菌） 細菌各論Ⅱ（グラム陰性菌）	グラム陽性・陰性球菌およびグラム各桿菌の代表的 な菌種をとりあげ、その特徴（症状・病原性・ 感染症とその感染経路等）について説明できる
9	ウイルス・真菌・原虫・プリオン	ウイルスの特徴、感染症、感染経路について説明できる 真菌・原虫・プリオンの特徴や構造それらが引き起こす感染経路が説明できる
10	宿主防御機構と免疫ⅠⅡ	生まれながらにもっている自然免疫・獲得免疫について二つの免疫系を説明 できる 抗原抗体反応の種類と検査法、感染症の予防法 ワクチン、過剰反応でおこるアレルギーについて説明できる
11	微生物Ⅱ 口腔内微生物ⅠⅡ	口腔内に微生物が定着する機構並びに細菌・種類 バイオフィルム形成について説明できる
12	齲蝕・歯周病	齲蝕・歯周病と微生物の関係並びにその発症機構を説明できる
13	口腔内感染症 化学療法 消毒・滅菌	口腔内に症状がみられる各種感染症について 口腔内微生物に対する化学療法 口腔内微生物に対して臨床で行われている消毒・滅菌について
14	薬理Ⅰ 薬理の作用	薬物療法の種類、薬理作用の様式、形式、分類 薬用量と生体内の反応、薬理作用の機序について
15	薬物動態	薬物の生体膜通過様式、吸収、分布、代謝、排泄 薬物動態のパラメーター
16	薬物の適用方法の種類と特徴 薬物の作用に影響を与える因子	適用方法の種類、生物学的利用能が説明できる 薬物の連用、併用、相互作用
17	薬物の副作用・適用する際の 注意事項、取り扱い 薬物と法律	薬物の有害作用の分類と原因、歯科領域における 薬物の副作用について説明できる 剤形、処方箋、保存方法、医薬品と法律 表示保管方法について説明できる
18	薬理Ⅱ 末梢神経系・中枢神経系に 作用する薬物	自律神経作動薬各種について、中枢神経系に作用する 各種の薬物について分類、説明ができる
19	循環器・腎臓・呼吸器・消化器 系に作用する薬物	高血圧、不整脈、心不全、脂質異常症、腎臓、気管支喘息に作用する薬物が 説明できる
20	齲蝕、歯内療法、歯周疾患 治療薬に用いる薬物	フッ化物、歯髄、根管治療、局所・全身投与する薬物について説明できる
21	栄養と代謝Ⅰ 生体の構成要素 栄養素・消化と吸収 酵素と運搬・酵素	糖質・脂質・タンパク質・ミネラル・ビタミン・酵素など、種類や役割を説明する ことができる
22	糖質・脂質の構造と代謝	エネルギー代謝・解糖・グリコーゲンの合成と分解を説明できる クエン酸回路・電子伝達系を説明できる β酸化・脂質の合成を説明できる
23	タンパク質とアミノ酸の代謝	アミノ酸・DNAと遺伝子について説明ができる
24	生体における恒常性の維持	恒常性、血液の緩衝能、血糖値を説明できる
25	栄養と代謝Ⅱ 歯と歯周組織の生化学	結合組織の組成と機能を学ぶ 歯の組成、歯の無機成分、有機成分の特徴について説明できる
26	硬組織の生化学 血清中のカルシウムとリン酸 骨の生成と吸収 歯の脱灰と再石灰化	血清中のカルシウムとリン酸濃度と、その活動度積について理解する 血清カルシウム調節ホルモン、歯の脱灰とキレート 作用の相関性について理解する
27	唾液・プラークの生化学	プラークの種類・組成について説明できる

27		プラークとう蝕の関係性について説明できる
28	栄養と代謝Ⅲ 栄養素の働き	タンパク質、脂質、糖質、ビタミン、ミネラル の種類と栄養素の関係性について理解できる
29	栄養の基礎知識	日本人の摂取状況
30	栄養素の消化・吸収	日本人の摂取状況 消化作用の種類・仕組みについて説明できる 栄養素の消化・吸収・役割を理解できる
31	保健生態学Ⅰ 医療の倫理	ヘルスプロモーション、アルマ・アタ宣言、オワタ 憲章、ヘルシンキ宣言について説明できる
32	疫学 有病率、罹患率 コホート研究	有病率、罹患率について説明できる オッズ比とは何かを計算できる
33	人口Ⅰ・Ⅱ	人口動態統計と人口静態統計の違いを説明できる 各動態統計指標と定義を説明できる
34	感染症	感染の原因、経路、感染予防の分類について説明できる
35	保健生態学Ⅱ 歯と口腔の健康保持・増進 の手段	口腔清掃の分類と種類が説明できる
36	フッ化物によるう蝕の予防	う蝕発生のメカニズム 人体へのフッ化物作用
37	歯周疾患の予防	歯周組織の構造、種類と原因 歯周疾患の治療法
38	保健生態学Ⅲ 地域社会と地域保健	ヘルスプロモーション、ノーマライゼーションとは
39・40	母子保健、学校保健、成人 老人保健、産業保健 精神保健、国際保健	各歯科健康診断について説明ができる 精神障害者の医療制度について説明ができる 世界の歯科疾患の状況について理解できる
41	保健情報統計学 口腔情報と疫学	国家統計を学ぶ 学校保健統計調査を学ぶ
42	歯科疾患の指数	歯周疾患、口腔清掃状態のの指数を理解できる 咀嚼能率、咀嚼嚥下のスクリーニングテストを学ぶ
43	保健統計の方法	母集団と標本について理解できる
44	衛生行政・社会福祉学 社会保障と社会保険	社会保障制度、社会保険の組織、年金、医療制度、 雇用、介護保険について理解できる
45	衛生関係法について	医療保険の仕組み

【科目名】		総合歯科学Ⅲ		【担当講師】 谷越康洋、高橋智幸、廣幡智子	
【年次・開講期】		3年次・後期	【時間】		90時間
			【単位】		3単位
【授業概要】					
教科書で学んだ知識や技術と校外臨床実習で習得した知識や技術を結び付け、理解する。 また、歯科衛生士業務に直結する臨床歯科医学分野について整理・体系化し、歯科医療の担い手としての総合的な臨床能力を身につける。					
【実務経験有】					
谷越康洋:神流町歯科診療所院長(歯科医師) 高橋智幸:高橋歯科医院開設・院長(歯科医師) 廣幡智子:田中歯科医院院長(歯科医師)					
【到達目標】					
1. 歯科保存学Ⅰ・Ⅱ:歯の候組織疾患、歯髓疾患および根尖性歯周疾患とその治療法が理解ができる。 2. 歯周治療学:辺縁性歯周疾患とその治療法が理解できる。 3. 口腔外科学:口腔顎顔面領域の疾患とその治療法が理解できる。 4. 歯科補綴学:歯および歯列欠損を補い咀嚼機能等を回復する治療法が理解できる。 5. 歯科矯正学:不正咬合とその治療法が理解できる。 6. 小児歯科学:小児期に生ずる口腔疾患の特性とその治療法が理解できる。 7. 高齢者・障害者歯科学:高齢者・障害者の特性と歯科治療時の注意点が理解できる。					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 歯・歯髓疾患 保存修復・歯内療法 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯周病学 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 小児歯科 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 障害者歯科 (医歯薬出版)					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。 出席実績、授業態度も評価する場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目	授業内容			
1	歯科保存学Ⅰ①	歯の硬組織疾患の種類と検査法について理解する			

2	歯科保存学Ⅰ②	う蝕治療の流れと前準備について理解する
3	歯科保存学Ⅰ③	修復法の種類と特徴について理解する
4	歯科保存学Ⅰ④	窩洞の構成と名称、分類、形態の原則について理解する
5	歯科保存学Ⅰ⑤	硬組織疾患の予防法と修復処置後の不快事項とメンテナンスについて理解する
6	歯科保存学Ⅱ①	歯髄疾患の種類と病態について理解する
7	歯科保存学Ⅱ②	歯髄保存療法と歯髄除去療法について理解する
8	歯科保存学Ⅱ③	根尖性歯周組織疾患の種類と病態、治療について理解する
9	歯科保存学Ⅱ④	根管治療と根管充填に用いる器具・器材について理解する
10	歯科保存学Ⅱ⑤	根未完成歯の処置、外科的歯内療法について理解する
11	歯周治療学①	歯周病の種類と病態について理解する
12	歯周治療学②	歯周病の発現とリスクファクター、歯周病と全身との関連について理解する
13	歯周治療学③	歯周組織検査、歯周基本治療について理解する
14	歯周治療学④	歯周外科治療について理解する
15	歯周治療学⑤	歯周治療後の再評価について理解する
16	歯周治療学⑥	メンテナンス、SPTについて理解する
17	口腔外科学①	先天異常と発育異常、損傷、口腔粘膜疾患について理解する
18	口腔外科学②	炎症、嚢胞、腫瘍、顎関節疾患について理解する
19	口腔外科学③	唾液腺疾患、神経系疾患、血液疾患について理解する
20	口腔外科学④	口腔外科分野における各手術の術式、使用器具術後の指導について理解する
21	口腔外科学⑤	各手術中、術後の局所的偶発症について理解する
22	口腔外科学⑥	周術期の口腔衛生管理について理解する
23	歯科補綴学①	補綴治療の基礎、補綴治療の種類と材料について理解する
24	歯科補綴学②	補綴装置の維持・支持・安定と治療の流れについて理解する
25	歯科補綴学③	有床義歯について理解する
26	歯科補綴学④	クラウンについて理解する
27	歯科補綴学⑤	ブリッジについて理解する
28	歯科補綴学⑥	インプラント義歯の概要、利点と欠点について理解する
29	歯科矯正学①	顎顔面の成長発育について理解する
30	歯科矯正学②	正常咬合と不正咬合、不正咬合による障害について理解する
31	歯科矯正学③	矯正歯科治療の流れについて理解する
32	歯科矯正学④	矯正装置について理解する
33	歯科矯正学⑤	矯正治療で使用する器材の種類と取扱いについて理解する
34	小児歯科学①	小児の成長発育、機能や情緒、社会性の発達について理解する
35	小児歯科学②	小児の顎顔面と頭蓋の成長発育、歯の萌出・交換、乳歯の特徴について理解する
36	小児歯科学③	小児の疾病異常について理解する
37	小児歯科学④	小児患者の行動の特徴と情動変化について理解する
38	小児歯科学⑤	小児の歯科治療について理解する
39	高齢者・障害者歯科学①	高齢社会における社会環境、加齢に伴う変化について理解する
40	高齢者・障害者歯科学②	高齢者の歯科治療について理解する
41	高齢者・障害者歯科学③	通院困難者への対応について理解する
42	高齢者・障害者歯科学④	高齢者の摂食嚥下とリハビリテーションについて理解する

43	高齢者・障害者歯科学⑤	障害の概念について理解する
44	高齢者・障害者歯科学⑥	障害の種類と歯科的特徴について理解する
45	高齢者・障害者歯科学⑦	障害児者の歯科治療と摂食嚥下障害、リハビリテーションについて理解する

【科目名】		キャリア教育		【担当講師】		加藤 よしみ	
【年次・開講期】		3年次・後期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
社会人、医療従事者としての言葉遣い、基本的態度、良好な人間関係を築けるように情操を豊かにする基礎を学ぶ。また自分自身を知り、将来のキャリアプランを考える能力を養う。							
【実務経験有】							
歯科衛生士の臨床経験をもとに授業を展開する							
【到達目標】							
自分自身を理解し、将来のキャリアプランを考えたうえでそれに適した就職先を選択し、内定するためのスキルを身に付けることができる							
【教科書】							
【参考図書】							
学院作成資料							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
・出席率 ・レポート提出 ・授業態度							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	自己理解①			自分自身の性格・価値観・大切なものを理解する			
2	自己理解②			他己理解を含めながら、自分の特性・強みを考え自分の将来設計をイメージする(キャリアプラン)			
3	情報収集			就職活動にあたり、情報収集の方法を理解する			
4	求人票の見方			求人票の見方、チェック項目の理解する			
5	働くことの意味 ・履歴書の記入 ・面接方法 ・働くことの意味			履歴書の書き方、面接時の注意点を理解する			
6	就職活動アドバイス			卒業生の就職活動を通してのアドバイスを説明する			
7	社会保険制度について			社会保険労務士による社会保険制度の仕組みについて説明する			
8	ブラック企業対策について			ブラック企業への対策方法について説明			

